静岡県立大学

看護学部・研究科報

2019 年度

自己点検評価委員会

目次

I. はじめに	4
II. 看護学部の歴史	5
1. 歴史	5
III. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成	7
1. 学部の教員構成	7
2. 研究科の教員構成	8
3. 年度途中着任の教員	9
4. 平成31年度（令和元年度）全学委員会一覧	9
5. 学部委員会担当表	10
6. 学部・研究科合同委員会	10
7. 研究科委員会	10
IV. 看護学部・看護学研究科の教育課程	11
1. 学部	11
1) 学部の理念	11
2) 教育目標	11
3) ディプロマ・ポリシー	11
4) カリキュラム・ポリシー	12
5) アドミッション・ポリシー	13
6) 学部カリキュラム	14
2. 研究科	25
1) 研究科の理念	25
2) ディプロマ・ポリシー	25
3) カリキュラム・ポリシー	25
4) アドミッション・ポリシー	25
3. 研究科カリキュラム	27
4. 臨地実習表	28
1) 看護コミュニケーション実習	28
2) 看護アセスメント実習	29
3) 公衆衛生看護基礎実習	31
4) 老年看護学実習Ⅰ	33
5) 3年次後期臨地実習配置表	34
6) 成人看護学実習Ⅲ	36
7) 公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政・学校・産業）	38

8) 国際保健・看護実習	40
9) 大学院修士課程助産学分野 助産学関連実習	41
5. 学生の研究	43
1) 学部の指導体制と研究テーマ	43
2) 研究科の指導体制と研究テーマ	51
V. 学生生活	53
1. 学生定員および在 student 数	53
1) 学部	53
2) 研究科	54
2. 入学志願者数および入学者数とその背景	55
1) 学部	55
2) 研究科	56
3. 卒業・修了者の進路状況	57
1) 学部	57
2) 研究科	58
4. 免許・資格などの取得状況	59
VI. 国際交流	60
1. 令和元年度国際交流等事業	60
1) 第5回静岡県立大学看護学部とコンケン大学看護学部間の短期交換留学事業	60
2) 米国オレゴン州の看護大学2校での研修	60
3) 「さくらサイエンスプラン」受け入れ	61
4) COIL 授業開催	61
2. 国際保健・看護実習	62
VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動	63
1. 領域別の教育活動と地域貢献活動	63
1) 専門基礎領域の活動	63
2) 基礎看護学領域の活動	65
3) 成人・老年看護学領域の活動	68
4) 小児看護学領域の活動	73
5) 母性看護学・助産学領域の活動	76
6) 精神看護学領域の活動	82
7) 公衆衛生看護学領域の活動	84
8) 在宅看護学領域の活動	86
9) 国際看護学領域の活動	87
2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動	90
1) 各教員の活動報告	90
(1) 研究活動	90

(2) 外部資金受け入れ	111
(3) 令和元年度学部研究推進費等	115
(4) 国内共同研究の状況	119
(5) 海外研修活動	120
(6) その他特記事項	121
VIII.学部・研究科としての社会貢献	123
1. 国・地方自治体における活動	123
2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動	125
3. 学会・シンポジウム等の主催	128
4. 雑誌編集関連委員	130
5. 雑誌の査読	131
6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等	132
7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等	137
8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説	139
9. 新聞等メディアへの掲載・出演	139
10. その他活動	139
11. 公開講座等の開催状況	144
12. 高大連携事業	146
13. 県民の日大学ツアー	148

I. はじめに

2019年度は、看護学部の体制が変わると共に、5月からは年号が「平成」から「令和」に変わり、新しい時代の幕開けとなりました。看護学部・看護学研究科は、これからの時代を見据えて、これまでの継続課題の解決と、新たな時代にふさわしい学部・研究科づくりを目標に取り組んできました。

看護学部の教育活動においては、平成30年度から開始した新しいカリキュラムが2年目となり、その実施と評価を行いました。新カリキュラムは、平成29年に文科省より示された看護学教育モデル・コア・カリキュラム照らし合わせたところ、ほぼ網羅できていると評価できました。また、学生からの授業評価アンケート結果を教員にできるだけ早く公表して、今後の教育に活かしてもらおうと共に、改善点を学生にフォードバックしました。さらに、学生生活や教育に関する学生からの率直な意見を教育や学部運営に反映させるため、カレッジホールに意見箱を設置し、寄せられた意見に対する回答を掲示しました。

次に、看護学教育のグローバル化を進めました。タイ国から、4名の短期交換留学生を迎えました。また、国際看護学領域の教員が中心となって、タイ、インドネシア、アメリカ、モンゴルの大学との交流を行うと共に、海外の大学と、オンライン双方向によるCOIL授業を実施しました。

さらに、教員の職場環境の改善に着手しました。職場をよりよい環境とするため、夏季休暇取得の勧め、働き方改革を進めると共に、助教・講師・准教授との語る会を開催して、教員間のコミュニケーションの促進を図りました。さらに、語る会において、助教や講師の先生方から要望が多かった研究支援について検討し、若手教員研究支援制度を設けました。

大学院看護学研究科において2019年度当初に取り上げた重点課題は、①博士後期課程の設置認可と開設準備、②長期履修制度導入に向けての準備、③入学者選抜方法の変更と実施、④修士課程の新カリキュラムの2年目の実施と評価、⑤高度看護実践教育開始の検討の5項目でした。これらのすべては、本研究科委員会、各委員会の積極的な活動により順調に達成へと進んでいます。特に、文部科学省より博士後期課程の設置認可を受けたことは、本学部・研究科における看護学の体系的教育の完成を意味します。また、長期履修制度の導入により、社会人学生に対してより学びやすい環境の提供が可能となりました。これらの活動には、本研究科のみならず、学長をはじめ他部局の先生方、事務の皆様にも多大なご支援、ご協力をいただきました。ここに心より感謝申し上げます。

今後も、継続して課題達成に取り組み、大学・大学院教育の質の担保とさらなる充実を目指していきます。

最後に、学部・研究科報作成にあたりご協力いただいた教員の皆様に御礼申し上げます。

2020年6月

静岡県立大学 看護学部長 太田尚子
大学院 看護学研究科長 山田紋子

Ⅱ. 看護学部の歴史

1. 歴史

		主な出来事
昭和 62 年	4 月	静岡県立大学開学、初代学長に内菌耕二が就任する。(県立三大学・静岡薬科大学〔昭和 28 年開学〕、静岡女子大学〔昭和 42 年開学〕、静岡女子短期大学〔昭和 26 年開学〕を改組・統合し、総合大学とする)
平成 5 年	4 月	第 2 代学長に星猛が就任する。
平成 9 年	4 月	看護学部看護学科が設置される。 初代学部長に矢野正子が就任する。
	10 月	中森正純元教授が名誉教授になる。
	12 月	第 2 回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催される。 (セッションⅢ長寿社会に向けての看護学の展望：看護学部が運営)
平成 11 年	4 月	第 3 代学長に廣部雅昭が就任する。
	11 月	中田健次郎元教授が名誉教授になる。
平成 13 年	4 月	大学院看護学研究科(修士課程)が設置される。 初代研究科長に矢野正子が就任する。 第 2 代学部長に佐藤登美が就任する。
平成 15 年	4 月	第 3 代学部長に木村正人が就任する。 第 2 代研究科長に佐藤登美が就任する。 矢野正子前研究科長が名誉教授になる。
	11 月	わかふじ大会(第 3 回全国障害者スポーツ大会)が静岡で開催される(第 58 回国民体育大会 NEW!! わかふじ国体と同時開催)。 学部 2, 4 年生全員がボランティア「わかふじアミィ」として、1 年間の研修を経て参加。
平成 17 年	4 月	第 4 代学長に西垣克が就任する。 第 4 代学部長に小寺栄子が就任する。 健康支援センターが設置される(初代センター長に永井洋子教授)。
平成 19 年	4 月	静岡県公立大学法人が設置・経営する大学となる。 初代理事長に鈴木雅近、学長に西垣克が就任する。 第 5 代学部長及び第 3 代研究科長に木村正人が就任する。
	10 月	第 4 代研究科長に式守晴子が就任する。 永井洋子元教授が名誉教授になる。
平成 21 年	2 月	学長代行に木苗直秀が就任する。

	3月	第5代学長に木苗直秀が就任する。
平成22年	4月	看護学研究科看護学専攻助産学専門分野が助産師学校となる。
平成23年	4月	第2代理事長に竹内宏が就任する。 第6代学部長に金澤寛明が就任する。 第5代研究科長に中垣紀子が就任する。
平成24年	4月	第3代理事長に本庶佑が就任する。
平成25年	4月	第7代学部長に式守晴子が就任する。 第6代研究科長に古川文子が就任する。
平成26年	4月	看護学部入学定員を120人に増員する。
平成27年	3月	小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成する。
平成27年	4月	第6代学長に鬼頭宏が就任する。 第8代学部長に金澤寛明が就任する。 第7代研究科長に西川浩昭が就任する。 看護学部及び看護学研究科の主な教育拠点を小鹿キャンパスに移転し、2キャンパス制の運用を開始する。
平成28年	4月	短期大学部看護学科教員に兼任辞令が交付される。
平成28年	10月	短期大学部看護学科が廃科され、短期大学部看護学科所属教員が看護学部専任となる。
平成29年	4月	第9代学部長に金澤寛明が就任する（再任）。 第8代研究科長に渡邊順子が就任する。
平成30年	4月	編入学定員を25人に増員する。
平成31年	4月	第10代学部長に太田尚子が就任する。 第9代研究科長に山田紋子が就任する。

Ⅲ. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成

1. 学部の教員構成

表 3-1-1 H31 年度（令和元年度）学部の教員構成

※（H31 年 4 月 1 日現在）

領 域	担当教員			
	教授	准教授	講師	助教
専門基礎	金澤寛明 (解剖生理学) 井上健一郎 (呼吸器病学)	高林ふみ代 (食品衛生)	濱井妙子 (薬学、 国際保健学)	三崎健太郎 (環境毒性学)
基礎看護学	操華子 荒井孝子	山口みのり 永谷幸子	管原清子 加藤京里	倉本直樹 高橋啓介
成人看護学	田中範佳 山田紋子 青木和恵	鈴木琴江	糸川紅子 前野真由美	木元千奈美 石切山千恵 松裏 豊
成人看護学	田中範佳 山田紋子 青木和恵	鈴木琴江	糸川紅子 前野真由美	木元千奈美 石切山千恵 松裏 豊
老年看護学		安田真美	下吹越直子	飯塚真樹
精神看護学	篁 宗一	長澤利枝 村方多鶴子		近藤美保 遠藤りら
小児 看護学	山下早苗		鈴木和香子	
母性看護・助産学	太田尚子	中川有加 藤田景子 石川紀子	福島恭子 永谷実穂	山田貴代 高木 静 大和田裕美
公衆衛生看護学	深江久代	杉山真澄	佐藤瑠美	岩本真弓 望月友美子 安藤継子
在宅看護学	富安真理		田中悠美	
国際保健・看護学	渡邊順子 (特任教授)		根岸まゆみ	

2. 研究科の教員構成

表 3-2-1 H31 年度（令和元年度）研究科の教員構成

※（H31 年 4 月 1 日現在）

区 分		担当教員		
		教授	准教授	講師
共通科目	必修	操華子 富安眞理 山田紋子 田中範佳	永谷幸子	
	看護学共通科目	金澤寛明 井上健一郎 操華子 青木和恵 田中範佳 篁 宗一 山下早苗 太田尚子 富安眞理 渡邊順子（特任教授）		
専門科目	基盤看護学	☆渡邊順子（特任教授） ☆荒井孝子 ☆操 華子	永谷幸子	
	実践看護学	☆青木和恵 ☆山田紋子 ☆田中範佳 ☆山下早苗 ☆太田尚子		糸川紅子
	広域看護学	☆富安眞理 ☆篁 宗一	村方多鶴子	
	助産学課程	☆太田尚子	中川有加 藤田景子 石川紀子	福島恭子 永谷実穂 （助教）高木 静 （助教）大和田裕美

☆主指導教員

3. 年度途中着任の教員

表 3-3-1 令和元年度途中着任教員

※（令和2年3月31日現在）

区分	職名	着任月日	氏名
小児看護学	助教	令和元年8月1日	池田 麻左子

4. 平成31年度（令和元年度）全学委員会一覧

全学委員会名	
広報委員会	動物実験センター運営委員会
留学生委員会	ハラスメント防止・対策委員会
入学者選抜実施委員会	ハラスメント緊急対策委員会
個別学力検査問題検討委員会	ハラスメント相談員
自己評価委員会	はばたき寄金運営委員会
共同利用施設運営委員会	発明委員会
キャリア支援センター委員会	開学記念行事実行委員会
学生委員会	施設有効利用に関する委員会
教務委員会	感染症管理対策委員会
教務管理部各部会組織	感染症流行検討部会
図書館情報委員会	中期・年度計画推進委員会作業部会
保健衛生委員会	FD委員会
教職課程委員会	情報センター運営委員会
研究倫理委員会	利益相反委員会
公開講座委員会	男女共同参画委員会
国際交流委員会	小鹿キャンパス防災委員
環境安全委員会	COCセンター運営委員
RI 取り扱い管理委員会（放射線安全委員会）	地域貢献・産学官連携推進会議委員

5. 学部委員会担当表

学部委員会	
学部学生委員会	学部教務委員会
カリキュラム評価委員会	入学者選抜実施委員会
FD 検討委員会	

6. 学部・研究科合同委員会

学部・研究科合同委員会	
予算委員会	実習委員会
自己点検評価中期計画推進委員会	広報・企画委員会
教育情報環境整備委員会	研究倫理審査委員会

7. 研究科委員会

研究科委員会	
教務・カリキュラム委員会	研究科学生委員会
研究科入学者選抜実施委員会	FD委員会

IV.看護学部・看護学研究科の教育課程

1. 学部

1) 学部の理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

2) 教育目標

1. 生命の尊厳を基盤とし、人間を身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 根拠に基づいた系統的な知識を状況に応じて適用し、論理的かつ批判的に判断する能力を養う。
3. 看護実践に必要な専門的知識、技術及び姿勢を修得し、個人および集団の健康上の課題を適切に解決する能力を養う。
4. 対象者とその家族、地域住民と看護専門職としての関係を積極的に形成し、発展させる能力を養う。
5. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、地域住民および他の専門職と協働できる能力を養う。
6. 看護専門職としての高い倫理観を持ち、時代・社会の変化に対応するために、常に自己研鑽につとめ、看護専門職の担うべき役割を主体的に追究することができる能力を養う。
7. 国際的視野を持ち、国際社会の中で保健医療福祉分野の交流や協力ができる基礎能力を養う。

3) ディプロマ・ポリシー

1. 幅広く深い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境への関心を持つことができる。
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考えることができる。

4. 保健医療福祉のチームの一員として協働でき、地域社会の課題解決に取り組むことができる。
5. 地域・国際的動向をふまえ、保健医療福祉の課題における看護の必要性と役割を理解し、責任ある行動を取ることができる。
6. 看護学の発展に対応するために、探究心を持ち主体的に学ぶことができる。

4) カリキュラム・ポリシー

1. 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
2. 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
3. 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解及び看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
4. 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

1) 専門分野Ⅰ：

看護学の理想的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。

2) 専門分野Ⅱ：

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

3) 統合分野：

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。

5) アドミッション・ポリシー

1. 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
2. 物ごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
3. 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。
4. 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

6) 学部カリキュラム

	全学共通科目 科目名		全学共通科目 科目名
第1部門 (リテラシーとスタディ・スキル)	ドイツ語入門	第3部門 (現代教養)	日本の歴史と文化
	フランス語入門		国際安全保障入門Ⅰ 【英語による科目】
	スペイン語入門		国際安全保障入門Ⅱ 【英語による科目】
	中国語入門		くらしと化学A 【英語による科目】
	日本語作文A		くらしと化学B 【英語による科目】
	日本語作文B		基礎生命科学ⅠA 【英語による科目】
	情報検索実習		基礎生命科学ⅠB 【英語による科目】
	情報処理実習		基礎生命科学ⅡA 【英語による科目】
	ヒューマン・ケア		基礎生命科学ⅡB 【英語による科目】
	ライティング基礎		現代日本文化入門A 【英語による科目】
	ライティング実践		現代日本文化入門B 【英語による科目】
	TOEFL留学英語Ⅰ		経営分析入門A 【英語による科目】
	TOEFL留学英語Ⅱ		経営分析入門B 【英語による科目】
	TOEICビジネス基礎英語		英語で学ぶ日本語学ⅠA 【英語による科目】
	TOEICビジネス英語Ⅰ		英語で学ぶ日本語学ⅠB 【英語による科目】
TOEICビジネス英語Ⅱ	英語で学ぶ日本語学ⅡA 【英語による科目】		
第2部門 (概論)	自然科学概論	英語で学ぶ日本語学ⅡB 【英語による科目】	
	化学入門	言語の学習・習得ⅠA 【英語による科目】	
	生物学入門	言語の学習・習得ⅠB 【英語による科目】	
	薬剤発達史入門	言語の学習・習得ⅡA 【英語による科目】	
	物理学入門	言語の学習・習得ⅡB 【英語による科目】	
	環境科学入門	Japanology 【英語による科目】	
	哲学入門	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 【しずおか学】	
	社会思想史入門	静岡の防災と医療 【しずおか学】	
	歴史学入門	静岡地域食材学A 【しずおか学】	
	宗教学入門	静岡地域食材学B 【しずおか学】	
	社会学入門	バイオ - 静岡から世界へA 【しずおか学】	
	文化人類学入門	バイオ - 静岡から世界へB 【しずおか学】	
	公共政策入門	茶学入門 【しずおか学】	
	心理学入門	ムセイオン静岡 - MUSEUMと文化A 【しずおか学】	
	生涯発達心理入門	ムセイオン静岡 - MUSEUMと文化B 【しずおか学】	
	生命倫理入門	ムセイオン静岡 - 世界の文化遺産A 【しずおか学】	

知的財産管理入門	ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産 B 【しずおか学】
	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術 A 【しずおか学】
	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術 B 【しずおか学】
	ビジネスの視点でみる静岡 A 【しずおか学】
	ビジネスの視点でみる静岡 A 【しずおか学】
	静岡の市民活動 【しずおか学】
	歴史から読み解くしずおか学 【しずおか学】
	静岡市連携・グローバル人材育成講義 【しずおか学】
	地域づくりの方法 【しずおか学】
	地域づくりインターシップ 【しずおか学】
	ふじのくに学(富士山) 【しずおか学】
	ふじのくに学(お茶) 【しずおか学】
	ふじのくに学(観光学) 【しずおか学】
	ふじのくに学(演劇論) 【しずおか学】
	ふじのくに学(防災) 【しずおか学】
	ふじのくに学(農林業 A : 夏編) 【しずおか学】
	ふじのくに学(農林業 B : 秋冬編) 【しずおか学】
	ふじのくに学(南アルプスの自然) 【しずおか学】
	総合科目 I (キャリア形成概論 I)
	総合科目 II (キャリア形成概論 II)
	男女共同参画社会とジェンダー
	人権が支える社会
	グローバル政治経済事情
	ジャーナリズム論

授業科目一覧

(平成 26 年度以降の入学生用)

授 業 科 目 の 名 称		配 当 年 次	開 講 学 期	単 位 数		備 考	
				必 修	選 択		
全学共通科目	第 1 部門 (リテラシーとスタディスキル)	1・ 2・ 3・ 4	前・ 後		各 2 〜 1	10 単位以上選択	
	第 2 部門 (概論)						
	第 3 部門 (現代教養)						
	総合科目						
学部基礎科目	運動	1 2	通 通		2 2		
	研修	1・ 2・ 3・ 4			2		
	教育	1・ 2・ 3・ 4			2		
		2	前		2		
授 業 科 目 の 名 称		配 当 年 次	開 講 学 期	単 位 数			備 考
				必 修	選 択		
学部基礎科目	主体性と判断力の育成	基礎セミナー	1	前	1		
		看護統合セミナー I	2	通	1		
	英語コミュニケーション	基礎英語 I	1	前	1		
		基礎英語 II	1	前	1		
		基礎英語 III	1	後	1		
		基礎英語 IV	1	後	1		
		英語コミュニケーション I	2	前	1		
		英語コミュニケーション II	2	後	1		
	心と体の理解	人間関係論	1	前	1		
		機能形態学 I	1	前	2		
		機能形態学 II	1	後	1		
		生物化学	1	前	1		
		病理学	1	後	1		
微生物学		1	後	1			
臨床薬理学		2	前	1			
	臨床栄養学	2	前	1			

			病態学Ⅰ（内科）	2	前	1				
			病態学Ⅱ（外科）	2	前	1				
			病態学Ⅲ（小児）	2	後	1				
			病態学Ⅳ（精神）	2	後	1				
			病態学Ⅴ（母性）	2	後	1				
			症候論	1	後	1				
			臨床検査・画像診断	2	前	1				
			基礎健康科学実習	1	後	2				
			臨床心理学	2	後		1	} 2単位選択		
			健康行動論	2	前		1			
			運動と健康の生理学	1	前		1			
	社会と健康の理解		健康と社会	1	前	2				
			現代社会論	1	前	1				
			社会福祉論	1	後	1				
			保健学	2	前	2				
			国際保健	1	後	1				
			保健福祉政策論	2	後	1				
			統計と情報処理	1	前	1				
			保健医療統計学	1	後	1				
			実践保健医療統計学	2	前	1				
			疫学	2	後	2				
			健康環境論	1	前		1	} 2単位選択		
			医療・看護経済学	2	後		1			
			国際看護論	2	後		1			
授業科目の概要	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数		備考		
						必修	選択			
	専門教育科目	看護の基盤	看護学概論	1	前	2				
			看護理論	1	後	1				
			看護過程	2	前	1				
			看護と安全	2	前	1				
			対象の理解（成人看護学）	1	後	1				
			対象の理解Ⅱ（老年看護学）	2	前	1				
			対象の理解Ⅲ（母性看護学）	2	前	1				
			対象の理解Ⅳ（精神看護学）	2	後	1				

		対象の理解Ⅴ(小児看護学)	2	後	1			
		地域家族支援論	2	後	2			
		看護と倫理	2	後	1			
		ヘルスプロモーション・健康教育論	2	後	1			
	看護実践Ⅰ	ヘルスアセスメント技術	2	前	2			
		基礎看護技術Ⅰ	1	前	2			
		基礎看護技術Ⅱ	1	後	1			
		基礎看護技術Ⅲ	2	後	1			
		成人看護学Ⅰ	2	後	2			
		成人看護学Ⅱ	3	前	2			
		成人看護学演習	3	前	1			
		老年看護学	2	後	2			
		老年看護学演習	3	前	1			
		母性看護学Ⅰ	2	後	1			
		母性看護学Ⅱ	3	前	1			
		母性看護学演習	3	前	1			
		精神看護学	3	前	2			
		精神看護学演習	3	前	1			
		小児看護学	3	前	2			
		小児看護学演習	3	前	1			
		公衆衛生看護学概論	2	前	2			
		地区活動論	2	後	1			
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	3	前	2			
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前	2			
	公衆衛生看護管理論	4	前		1	※保健師国家試験受験 資格要件		
	公衆衛生看護学演習	4	前		1		※保健師国家試験受験 資格要件	
	国際保健・看護演習	4	前		1	2単位選択		
	在宅看護学	3	前	2				
	在宅看護学演習	3	前	1				
	ターミナルケア	4	前	1				
	看護実践Ⅱ	ケア場面実習	1	前	1			
		看護アセスメント実習	2	後	2			
		老年看護学実習Ⅰ	2	後	1			
		老年看護学実習Ⅱ	3	後	2			
		成人看護学実習Ⅰ	3	後	2			
		成人看護学実習Ⅱ	3	後	2			

		成人看護学実習Ⅲ	4	前	2				
		母性看護学実習	3	後	2				
		小児看護学実習	3	後	2				
		精神看護学実習	3	後	2				
		公衆衛生基礎実習	1	前	1				
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	3	後	2				
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2	} ※保健師国家試験受験 資格要件 2単位選択		
		国際保健・看護実習	4	後		2			
		在宅看護学実習	3	後	2				
		発展看護実習Ⅰ	4	通	1				
		発展看護実習Ⅱ	4	通	1				
		授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		備考		
					必修	選択			
授業科目の概要	専門教育科目	看護の役割と発展	災害看護	2	前	1		} 1単位選択 } 2単位選択	必修 77単位 選択 3単位
			看護研究	3	前	1			
			卒業研究	4	通	2			
			看護統合セミナーⅡ	4	通	1			
			災害看護	4	通	1			
			看護統合セミナーⅡ	4	通	1			
			総合看護	4	通	1			
			看護統合セミナーⅡ	4	通	1			
			チーム医療	4	通	1			
			看護管理論	4	後	1			
			看護教育論	4	後	1			
			看護政策論	4	後	1			
			最新看護の動向	4	通	1			

※ 卒業に必要な最低修得単位数は 133 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された 4 単位

(①「公衆衛生看護管理論 (1 単位)」、「公衆衛生看護学演習 (1 単位)」及び「公衆衛生看護学実習Ⅱ (2 単位)」、

又は

(②公衆衛生看護管理論 (1 単位)、「国際保健・看護演習 (1 単位)」及び「国際保健・看護実習 (2 単位)」のいずれかの組み合わせ)

を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

【海外英語研修の履修・認定方法】

- (1) 本学部が認定した3週間あるいは4週間のコースを修了した学生に2単位を認定する。本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。
 - (2) 成績は本学で認定する。
 - (3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。
 - (ア) 「海外英語研修単位認定申請書」
 - (イ) 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー
 - (ウ) 担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー
- ※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

授業科目一覧
(平成 30 年度以降の入学生用)

	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位	
					必修	選択			
(全学共通科目)	基礎分野 I	第1部門	1・2・3・4	前・後		各 2 5 1		10 単位以上 選択	
		第2部門							
		第3部門							
		総合科目							
基礎分野 II	運動	身体運動科学	1	通		2			
	研修	海外英語研修	1・2・3・4			2			
	教育	日本国憲法	1	後		2			
		教育学	2	後		2			
基礎分野 II	主体性と判断力の育成	基礎セミナー I	1	前	1			必修 7 単位	
		基礎セミナー II	2	前		1			
	英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュ I	1	前	1				
		フレッシュマンイングリッシュ II	1	前	1				
		フレッシュマンイングリッシュ III	1	後	1				
		フレッシュマンイングリッシュ IV	1	後	1				
		英語コミュニケーション I	2	前	1				
		英語コミュニケーション II	2	後	1				
専門基礎分野	人間と人間の生活の理解	人間関係論	1	前	2			2単位選択	
		臨床心理学	2	後		1			
		健康行動論	2	前		1			
		運動と健康の生理学	1	前		1			
		健康環境論	1	前		1		2単位選択	
		医療・看護経済論	2	前		1			
		国際看護論	2	後		1			
		機能と人体の構造	機能形態学 I	1	前	2			必修 28 単位 + 選択 4 単位
	機能形態学 II		1	後	2				
	生物化学		1	前	1				
	基礎健康科学演習		1	後	2				
	疾病の成り立ちと回復の促進		症候論	1	後	2			
			微生物学	1	後	1			
		臨床薬理学	2	前	2				
臨床栄養学		2	前	2					
病態学		2	前	2					
社会保健制度と支援	公衆衛生学	1	前	2					
	社会福祉論	1	後	1					
	保健福祉行政論	2	前	2					
	保健医療統計学	1	前	2					
	情報処理演習	1	後	1					
	疫学	2	後	2					
基礎分野 I + 基礎分野 II + 専門基礎分野 単位数計								49(選択4含む)	

	授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位	
				必修	選択			
授業の概要	専門分野 I	看護学原論	1	前	2		必修 51 単位	
		基礎看護技術論 I	1	前	2			
		基礎看護技術論 II	1	後	2			
		基礎看護技術演習 I	1	後	1			
		看護コミュニケーション演習	1	前	1			
		基礎看護技術演習 II	1	後	1			
		看護アセスメント演習	2	前	1			
		看護と倫理	2	後	1			
		看護コミュニケーション実習	1	前	1			
	看護アセスメント実習	2	前	2				
	専門分野 II	慢性看護学概論	2	後	2			
		慢性看護援助論演習	2	後	1			
		急性期看護学概論	3	前	2			
		急性期看護援助論演習	3	前	1			
		慢性看護学実習	3	後	2			
		急性期看護学実習	3	後	2			
		臨床シミュレーションEBN実習	4	前	2			
		老年看護学概論	2	後	2			
		老年看護援助論	2	後	1			
		老年看護学演習	3	前	1			
		老年看護学実習 I	3	後	2			
		老年看護学実習 II	3	後	1			
		母性看護学概論	2	前	1			
		母性看護援助論 I	2	後	1			
		母性看護援助論 II	3	前	1			
		母性看護学演習	3	前	1			
		母性看護学実習	3	後	2			
		小児看護学概論	2	後	2			
		小児看護援助論	3	前	1			
		小児看護学演習	3	前	1			
		小児看護学実習	3	後	2			
		精神看護学概論	2	後	2			
		精神看護援助論	3	前	1			
精神看護学演習		3	前	1				
精神看護学実習	3	後	2					

	授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位	
				必修	選択			
授業科目の概要	専門分野	統合分野	地域包括ケア	1	後	1		必修 25 単位
			災害看護セミナー	2	後	1		
			地域家族支援論	2	後	2		
			在宅看護学概論	3	前	2		
			在宅看護学演習	3	前	1		
			在宅看護学実習	3	後	2		
			看護コミュニケーション演習アドバンス	3	後		1	
			看護アセスメント演習アドバンス	4	前		1	
			公衆衛生看護学概論	1	後	2		
			ヘルスプロモーション	2	前	2		
			国際保健・災害看護論	2	前	2		
			公衆衛生看護活動論 I	2	後	2		
			公衆衛生看護基礎実習	2	後	1		
			公衆衛生看護活動論 II	3	前		2	
			公衆衛生看護管理論	3	前		2	
			公衆衛生看護方法論	3	前		2	
			公衆衛生看護学演習	3	後		1	
			公衆衛生看護学実習 I	4	前		2	
			公衆衛生看護学実習 II	4	前		2	
			看護研究	3	前	1		
			卒業研究A	3	通		2	
			卒業研究B	4	通	2		
			国際保健・看護演習	4	前		1	
			国際保健・看護実習	4	通		2	
			発展看護実習	4	通	2		
			看護管理論	4	後	1		
看護政策論	4	後	1					
看護キャリアデザイン論	4	後		2				
専門分野 単位数計							76	
卒業要件(最低単位数)							125	

※保健師国家試験受験資格要件

※ 卒業に必要な最低修得単位数は 125 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された 11 単位

公衆衛生看護活動論 II (2 単位)、公衆衛生看護管理論(2 単位)、公衆衛生看護方法論(2 単位)、公衆衛生看護学演習(1 単位)、公衆衛生看護学実習 I (2 単位)、公衆衛生看護学実習 II (2 単位)

を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

※全学共通科目の「しずおか学」科目群については、卒業までに 2 単位以上修得すること。

【海外英語研修の履修・認定方法】

(1) 本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。

(2) 成績は本学で認定する。

(3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア 「海外英語研修単位認定申請書」

イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

ウ 担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

2. 研究科

1) 研究科の理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の養成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究および実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2) ディプロマ・ポリシー

本学修士課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士（看護学）の学位を授与します。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

3) カリキュラム・ポリシー

本研究科は、生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究および実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与できるよう以下の通り教育課程を編成し、実施する。

1. 生命諸科学と連携し、看護学固有の高度な専門知識や技術を習得できるようにカリキュラムを編成する。
2. 看護学の発展に寄与する、知の創造を担う研究能力や人材開発の醸成を行うカリキュラムを編成する。
3. 社会保障制度の運営に寄与する人材を育成するカリキュラムを編成する。
4. 国際保健の分野を含め、広く社会の看護ニーズに対応できる、柔軟な適応力の醸成を行うカリキュラムを編成する。

4) アドミッション・ポリシー

本研究科の重要な目的は、看護サービスの質の向上や臨床研究の指導者、看護系大学における教育や研究を担う人材を養成することである。

今後、看護サービスの各領域で活躍できる人材は、総合的な視野と保健・医療・福祉全般にわたる高い見識と専門技術を有することが求められる。同時に、経営・管理

的な視点から時代や社会の変化と、その要請に機敏な対応能力を備えていることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

3.研究科カリキュラム

2019年度 教育課程

授業科目		単位数		1年次		2年次			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期		
共通科目	必修	研究法Ⅰ	2		30				
		研究法Ⅱ	2		30				
	選択		看護理論		2	30		30	
			看護倫理特論		2	30		30	
			看護教育学特論		2	30		30	
			看護管理学特論		2	30		30	
			家族看護特論		2		30	30	
			基礎科学特論		2		30	30	
			母子相互作用支援論		2		30	30	
			国際保健医療特論		2	30		30	
	英語科学論文クリティーク		2	30		30			
専門科目	選択			2	30				
				2	30				
				2	30				
				2	30				
				4		60			
				4		60			
				4		60			
				4		60			
				6			45	45	
		必修			2	30			
					2	30			
					2	30			
					2	30			
					2	30			
					4		60		
				4		60			
				4		60			
				4		60			
				4		60			
				6			45	45	
				2	30				
				2	30				
				4		60			
				4		60			
			4		60				
			4		60				
			6			45	45		
			2	30					
			2	30					
			4		60				
		4		60					
		6			45	45			
助産学課程 選択必修			2	30					
			4		30	30			
			2	30					
			2	30					
			3	45					
			3	45					
			2	30	30				
			4			30	30		
	助産師養成 選択科目			2	15	15			
				2		30			
				1	5	10			
				2	30				
				2		60			
				2	30	30			
				3	90				
			3	90					
			9		405				
			2			90			

4. 臨地実習表

1) 看護コミュニケーション実習

令和元年5月21日～7月9日

Aクラス (6/4 6/18 7/2)				Bクラス (5/28 6/11 6/25)			
病院	G	学生数	病棟 (教員)	病院	G	学生数	病棟 (教員)
静岡市立 静岡病院	1	6名	東7階病棟 (山口みのり)	静岡市立 静岡病院	11	6名	東7階病棟 (山口みのり)
	2	6名	東8階病棟 (山口みのり)		12	6名	東8階病棟 (山口みのり)
	3	6名	東10階→西8階病棟 (山口みのり)		13	6名	東10階→西8階病棟 (山口みのり)
	4	6名	西7階病棟 (山口みのり)		14	6名	西7階病棟 (山口みのり)
	5	6名	西9階病棟 (山口みのり)		15	6名	西9階病棟 (山口みのり)
静岡赤十 字病院	6	6名	3-3病棟 (荒井孝子・倉本直樹)	静岡赤十 字病院	16	6名	3-3病棟 (荒井孝子・倉本直樹)
	7	6名	3-4病棟 (荒井孝子・倉本直樹)		17	6名	3-4病棟 (荒井孝子・倉本直樹)
	8	5名	3-7病棟 (荒井孝子・倉本直樹)		18	6名	3-7病棟 (荒井孝子・倉本直樹)
	9	6名	3-8病棟 (荒井孝子・倉本直樹)		19	6名	3-8病棟 (荒井孝子・倉本直樹)
	10	6名	3-9病棟 (荒井孝子・倉本直樹)		20	6名	3-9病棟 (荒井孝子・倉本直樹)

総学生数 119名

2) 看護アセスメント実習

1 クール (静岡病院：5月16・30日、6月13日、9月2～6日) (県立総合病院：5月30日、6月13・27日、9月2～6日)				2 クール (静岡病院：5月23日、6月6・20日、9月9～13日) (県立総合病院：6月6・20日、7月4日、9月2～6日)			
病院	G	学生数(人)	病棟(教員)	病院	G	学生数(人)	病棟(教員)
静岡市立静岡病院	1	6	5月16・30日、6月13日 西6(管原清子)	静岡市立静岡病院	1	5	5月23日、6月6・20日 西6(管原清子)
			9月2日～6日 西6(管原清子)				9月9～13日 西6(管原清子)
	2	6	5月16・30日、6月13日 東6(管原清子)		2	5	5月23日、6月6・20日 東6(管原清子)
			9月2日～6日 東6(管原清子)				9月9～13日 東6(管原清子)
3	6	5月16・30日、6月13日 東9(管原清子)	3	6	5月23日、6月6・20日 東9(管原清子)		
		9月2日～6日 東9(荒井孝子)			9月9～13日 東9(荒井孝子)		
静岡県立総合病院	4	6	5月30日、6月13・27日 3E(永谷幸子・操華子)	静岡県立総合病院	4	6	6月6・20日、7月4日 3E(永谷幸子・操華子)
			9月2～6日 3E(永谷幸子)				9月9～13日 3E(永谷幸子)
	5	6	5月30日、6月13・27日 4E(永谷幸子・操華子)		5	5	6月6・20日、7月4日 4E(永谷幸子・操華子)
			9月2～6日 4E(永谷幸子)				9月9～13日 4E(永谷幸子)
	6	6	5月30日、6月13・27日 4B(永谷幸子・操華子)		6	5	6月6・20日、7月4日 4B(永谷幸子・操華子)
			9月2～6日 4B(山口みのり)				9月9～13日 4B(山口みのり)
	7	6	5月30日、6月13・27日 4G(永谷幸子・操華子)		7	6	6月6・20日、7月4日 4G(永谷幸子・操華子)
			9月2～6日 4G(山口みのり)				9月9～13日 4G(山口みのり)
	8	6	5月30日、6月13・27日 5G(永谷幸子・操華子)		8	6	6月6・20日、7月4日 5G(永谷幸子・操華子)
9月2～6日 5G(倉本直樹・操華子)			9月9～13日 5G(倉本直樹・操華子)				
9	6	5月30日、6月13・27日 6A(永谷幸子・操華子)	9	6	6月6・20日、7月4日 6A(永谷幸子・操華子)		
		9月2～6日 6A(加藤京里・操華子)			9月9～13日 6A(加藤京里・操華子)		

	1 0	6	5月30日、6月13・27日 6C (永谷幸子・操華子)		2 0	5	6月6・20日、7月4日 6C (永谷幸子・操華子)
			9月2~6日 6C (加藤京里・操華子)				9月9~13日 6C (加藤京里・操華子)

学生数：115人 実習総責任者（統括）：操華子

静岡県立総合病院の前半実習では上記の教員に加えて、加藤京里と高橋啓介が5G、6A、6C病棟に交互に指導に入った。

3) 公衆衛生看護基礎実習

学生数：118名

※（数字）：実習学生数

グループ	2/17 (月)	18 (火)	19 午前	19 午後	20 午前	20 午後	21 午前	21 午後	24 (月)	25 (火)	26 午前	26 午後	27 午前	27 午後	28 (金)						
1	スズキ (60) 杉山 非常勤	静岡市保健所 (48) 岩本 非常勤	静岡市保健福祉センター (合同) (48) 望月 非常勤				SBS (10) 佐藤		振替休日	一般入試					南部 (6) 佐藤						
2																		大里 (5) 岩本			
3								清水 (6) 杉山				MEDIO (14) 岩本									
4															北部 (5) 岩本						
5												聖隷健康サポートセンター 静岡 (10) 望月			薬科 (5) 杉山					まとめ (学内)	
6							蒲原 (5) 非常勤									城東 (6) 非常勤					
7							東部 (5) 深江					聖隷健康サポートセンター 静岡 (30) 望月						聖隷健康サポートセンター 静岡 (10) 佐藤			
8							長田 (5) 望月														
9					県・中部健康福祉センター (46) 深江 望月	牧之原市 (12) 杉山									聖隷健康サポートセンター 静岡 (10) 深江						牧之原市 (6) 杉山
10							牧之原市 (6) 杉山									清水厚生病院 (3) 安藤	清水厚生病院 (6) 安藤	清水厚生病院 (3) 安藤			

グループ	2/17 (月)	18 (火)	19 午前	19 午後	20 午前	20 午後	21 午前	21 午後	24 (月)	25 (火)	26 午前	26 午後	27 午前	27 午後	28 (金)						
11	聖隷健診 センター 浜松 (18) 深江	県・中部 健康福祉セ ンター (46) 深江 望月	島田市 (12) 安藤	島田市 (6) 安藤			ジャトロ (29) 深江			振替休日	一般入試										
12																					
13				焼津市 (4) 岩本																	
14	聖隷 健康 サポート センター 静岡 (11) 望月			焼津市 (12) 岩本		焼津市 (4) 岩本															
15												焼津市 (4) 岩本									
16	SBS (9) 佐藤					吉田町 (5) 望月						吉田町 保健 センター (10) 望月							吉田町 (5) 望月		
17																					
18	MEDIO (14) 岩本		県・富士 健康福祉 センター (24) 杉山 安藤			富士市 保健 センター (12) 佐藤														富士市 (6) 杉山	
19																					
20	静岡厚生 病院 (6) 安藤												富士宮市保健 センター (12) 安藤								
																まとめ (学内)					

実習責任者：深江久代

4) 老年看護学実習 I

令和2年2月17日～令和2年2月21日

実習期間		2月17日～2月21日	
施設	担当教員	G	学生数
介護老人保健施設 ケアセンター池田の街	安田真美 加藤俊江 (非常勤)	1	4名
介護老人保健施設 エスコートタウン静岡	下吹越直子 (非常勤)	1	6名

学生数：10名

5) 3年次後期臨地実習配置表

G	人数	9月			10月				11月				12月			1月														
		1クール		17 ~ 20	2クール		3クール		4クール		5 ~ 8	5クール		6クール		7クール		23 ~ 27	8クール		9クール									
		2 ~ 6	9 ~ 13		24 ~ 27	30 ~ 4	7 ~ 11	15 ~ 18	21 ~ 25	28 ~ 1		11 ~ 15	18 ~ 22	25 ~ 29	2 ~ 6	9 ~ 13	16 ~ 20		1 ~ 3	6 ~ 10	13 ~ 17	20 ~ 24	27 ~ 31							
1	6	成人II 静岡がん センター 10東10西8東 青木		9 月 17 日 (火)	老年II 瀬名・2階 甲賀 加藤(俊)・ 非常勤		在宅 ST駿河 白萩清水厚生 つばさ 田中		母性 日本 高木		11 月 5 日 (火)	成人I 日本 2-7 木元		公衆衛生I 富士市 安藤		小児 県子ども 山下 鈴木和 池田		12 月 25 日 (水)			精神 溝口 近藤									
2	6	公衆衛生I 富士宮 岩本			老年II 瀬名・3階 静岡リハ 下吹越		在宅 STあみ てんかん 神経医療 てんかん酒園 富安・非常勤		成人II 日本 3-8 松葉			静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)	成人I 県総 4G5G 鈴木琴		小児 県子ども 山下 鈴木和 池田		精神 溝口 近藤		母性 日本 山田(貴)											
3	6	成人I てんかん A2A6 木元			老年II 小児A 静岡リハ 飯塚		公衆衛生I 静岡市東部 望月		在宅 STみかど台 桜が丘 (11月5日) ライラック 富安・非常勤				静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)	母性 県総 中川		成人II 済生会 S3 前野			小児 県子ども 山下 鈴木和 池田		精神 こころ 南1 長澤									
4	5	母性 日本 高木			老年II 小児B 静岡リハ 安田・非常勤		公衆衛生I 静岡市東部 深江		在宅 STあおむし つどいのおか 桜が丘 そらまめ 非常勤					静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)	成人II 県総 4A5A 松葉		小児 県子ども 山下 鈴木和 池田		成人I てんかん A2A6 糸川		精神 こころ 南2 遠藤									
5	5+1	母性 県総 山田			小児 県子ども 山下 鈴木和 池田		老年II 小児C 甲賀・ 静岡リハ 安田・非常勤		公衆衛生I 静岡市長田 佐藤						静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)				精神 こころ 北1 長澤		成人I 日本 3-9 石切山		成人II 済生会 S5 鈴木琴		在宅 STしずおか 桜が丘 つばさ 富安					
6	6	母性 焼津 中川			公衆衛生I 静岡市東 安藤		老年II 瀬名・北 甲賀・静岡リハ 下吹越・非常勤		小児 県子ども 山下 鈴木和 池田							静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)	在宅 STみかど台 白萩清水厚生 つばさ 富安・非常勤		成人I 日本 3-6 山田敏 松葉				成人II 静岡がん センター 10西8東5西 石切山		精神 溝口 遠藤					
7	5	小児 県子ども 山下 鈴木和 池田			公衆衛生I 静岡市東 深江		老年II 瀬名・2階 甲賀・静岡リハ 飯塚		成人I 県総 4B5B 糸川								静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)		成人II 静岡がん センター 10西8東5西 石切山		在宅 STふれあひ つどいのおか 白萩 ライラック 田中		精神 こころ 南2 村方				母性 日本 山田(貴)			
8	6	老年II 瀬名・北 静岡リハ 下吹越			公衆衛生I 静岡市大里 佐藤		成人II 日本 2-6 石切山		小児 県子ども 山下 鈴木和 池田										静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)	在宅 ST清水 桜が丘 いこい 非常勤		母性 県総 中川		精神 溝口 遠藤		成人I 済生会 S7 木元				
9	5	老年II 小児B 甲賀 加藤(俊) 安田			母性 県総 山田		公衆衛生I 静岡市清水 杉山		小児 県子ども 山下 鈴木和 池田											静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)	精神 溝口 村方		在宅 ST日本 清水厚生 つばさ 富安・非常勤		成人II 済生会 S3 前野		成人I 日本 3-6 松葉			
10	6	老年II 小児C 静岡リハ 安田			母性 藤枝 永谷(美)		公衆衛生I 静岡市清水 非常勤		精神 溝口 長澤												静岡市地 域リハピ リテーシ ョン推 進セン ター実 習(在宅)	成人I てんかん A2A6 糸川		成人II 日本 2-5 木元		在宅 STしずおか 清水厚生 そらまめ 非常勤				小児 県子ども 山下 鈴木和 池田

11	5	老年Ⅱ 瀬名・3階 静岡リハ 飯塚	公衆衛生Ⅰ 静岡市大里 非常勤	成人Ⅰ 日赤 2・7 木元	在宅 ST駿河 白萩 つばさ 富安・非常勤	11月 5日 (火)	精神 溝口 遠藤		母性 日赤 山田(貴)	12月 25日 (水)	小児 果こども 山下 鈴木和 池田	成人Ⅱ 泉総 3E4E 前野
12	6		精神 こころ 北1 長澤	母性 日赤 高木	公衆衛生Ⅰ 静岡市長田 安藤		老年Ⅱ 山の上・西1階 静岡リハ・ 静岡リウマチ 下吹越・非常勤	在宅 ST清水 桜が丘 いこい 非常勤	成人Ⅰ 泉総 4B5B 鈴木琴		小児 果こども 山下 鈴木和 池田	成人Ⅱ 静岡がん センター 10東8東8西 石切山
13	5	成人Ⅰ 済生会 S10 前野	成人Ⅱ 日赤 2・5 木元	小児 果こども 山下 鈴木和 池田	母性 焼津 永谷(実)		公衆衛生Ⅰ 焼津市 深江・非常勤	精神 こころ 北2 近藤	老年Ⅱ 山の上・本館3階 静岡リハ・ 静岡リウマチ 下吹越・非常勤		在宅 STマザーふれあい 清水厚生・いこい 非常勤	
14	5	精神 溝口 村方		母性 泉総 中川	老年Ⅱ 小島B 静岡リハ 非常勤		公衆衛生Ⅰ 焼津市 望月	成人Ⅰ 泉総 6A6C 糸川	成人Ⅱ 日赤 3・8 松裏		在宅 STみかど台 白萩/清水厚生 つばさ 富安・非常勤	小児 果こども 山下 鈴木和 池田
15	5	精神 こころ 南1 近藤	成人Ⅰ てんかん A2A6 糸川	小児 果こども 山下 鈴木和 池田	老年Ⅱ 小島A 静岡リハ 飯塚		公衆衛生Ⅰ 牧之原市 杉山		母性 済生会 高木		在宅 ST清水 桜が丘 いこい 非常勤	成人Ⅱ 静岡がん センター 7西6西5西 田中範
16	5	精神 こころ 南2 遠藤	成人Ⅰ 日赤 3・5 石切山	小児 果こども 山下 鈴木和 池田			公衆衛生Ⅰ 牧之原市 岩本	成人Ⅱ 静岡がん センター 10東8西7西 青木	在宅 ST駿河 白萩 てんかん通園 田中		老年Ⅱ 小島B 静岡リハ・ 静岡リウマチ 飯塚・非常勤	母性 済生会 高木
17	5	小児 果こども 山下 鈴木和 池田	成人Ⅱ 泉総 4A5A 田中範 松裏	成人Ⅰ 済生会 S7 前野	精神 溝口 遠藤		母性 市立静岡 山田(貴)	公衆衛生Ⅰ 富士市 杉山・非常勤	老年Ⅱ 山の上・西館1階 静岡リハ・ 静岡リウマチ 下吹越・非常勤		在宅 STはたる しずおか 桜ヶ丘 てんかん通園 田中	
18	6	小児 果こども 山下 鈴木和 池田	精神 こころ 北2 近藤	成人Ⅱ 済生会 S5 鈴木琴	成人Ⅰ てんかん A2A6 木元		老年Ⅱ 山の上・本館3階 山の上・西館3階 飯塚	公衆衛生Ⅰ 島田市 佐藤	母性 焼津 永谷(実)		在宅 STはたるしずおか てんかん 神経医療 てんかん通園 田中	
19	5	成人Ⅱ 静岡がん センター 7西6西5西 石切山	小児 果こども 山下 鈴木和 池田	精神 溝口 近藤	成人Ⅰ 日赤 3・5 山田敏		老年Ⅱ 小島C 静岡リハ・ 静岡リウマチ 安田・非常勤	公衆衛生Ⅰ 島田市 岩本	在宅 ST日赤 桜が丘 つばさ 富安		母性 済生会 高木	
20	6	公衆衛生Ⅰ 吉田町 望月	小児 果こども 山下 鈴木和 池田	精神 溝口 村方	成人Ⅱ 静岡がん センター 10東8西6西 石切山		在宅 STあおむし つどいのおか てんかん神経医療 てんかん通園 田中	母性 済生会 永谷(実)			老年Ⅱ 小島A 静岡リハ・ 静岡リウマチ 加藤(俊)・非常勤	成人Ⅰ 泉総 5G6C 松裏

3年生 109名 再履修者 1名

6) 成人看護学実習Ⅲ

病棟施設	日程	G	チーム	人数	教員
静岡赤十字病院	6月10日～6月14日	1	A	3名	木元千奈美
			B	3名	
		2	A	3名	山田紋子 松裏豊
			B	3名	
		3	A	3名	前野真由美
	B		3名		
	4	A	3名	石切山千恵	
		B	3名		
	5	A	3名	糸川紅子	
		B	3名		
	6月17日～6月21日	6	A	3名	木元千奈美
			B	3名	
		7	A	3名	山田紋子
			B	3名	
		8	A	3名	前野真由美
	B		3名		
	9	A	3名	青木和恵	
		B	3名		
	10	A	3名	糸川紅子	
B		3名			
7月1日～7月5日	11	A	3名	木元千奈美	
		B	3名		
	12	A	3名	松裏豊	
		B	3名		
	13	A	3名	前野真由美	
B		3名			
14	A	3名	青木和恵		
	B	3名			
15	A	3名	糸川紅子		
	B	3名			
7月8日～7月12日	16	A	3名	木元千奈美	
		B	3名		
	17	A	3名	松裏豊	
		B	3名		
18	A	3名	前野真由美		
	B	3名			
19	A	3名	糸川紅子		
	B	3名			

施設	日程	G	チーム	人数	教員	
シミュレーション実習	6月10日～6月14日	6	A	3名	田中範佳 鈴木琴江	
			B	3名		
		7	A	3名		
			B	3名		
		8	A	3名		
			B	3名		
		9	A	3名		
			B	3名		
		10	A	3名		
			B	3名		
		6月17日～6月21日	1	A		3名
				B		3名
	2		A	3名		
			B	3名		
	3		A	3名		
			B	3名		
	4		A	3名		
			B	3名		
	5		A	3名		
			B	3名		
	7月1日～7月5日	16	A	3名		
			B	3名		
		17	A	3名		
			B	3名		
		18	A	3名		
			B	3名		
		19	A	3名		
B			3名			
7月8日～7月12日	11	A	3名			
		B	3名			
	12	A	3名			
		B	3名			
	13	A	3名			
		B	3名			
	14	A	3名			
		B	3名			
	15	A	3名			
		B	3名			

成人看護学実習Ⅲ責任者：山田紋子

7) 公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政・学校・産業）

公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政）

保健所	施設	学生数	実習期間			
			5月20日～ 5月31日	6月3日～ 6月14日	6月17日～ 6月28日	7月1日～ 7月12日
富士保健福祉センター	富士市保健センター	6名	安藤継子			
	富士宮市保健センター	5名	岩本真弓			
中部健康福祉センター	焼津市保健センター	6名	深江久代			
	島田市保健福祉センター	6名	佐藤瑠美			
	吉田町保健センター	5名		佐藤瑠美		
	牧之原市総合健康福祉センター	6名				岩本真弓
静岡市保健所	藁科保健福祉センター	5名			望月友美子	
	北部保健福祉センター	5名				安藤継子
	南部保健福祉センター	5名		安藤継子		
	蒲原保健福祉センター	5名			佐藤瑠美	
	清水保健福祉センター	5名				望月友美子
	長田保健福祉センター	5名		深江久代		

学生数：64名

公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）

	施設	学生数	実習期間			
			5月20日 ～5月31 日	6月3日～ 6月14日	6月17日～ 6月28日	7月1日～ 7月12日
事業所	JR 東海 健康管理センター 静岡健康管理室	8名	望月友美子	杉山真澄		
	ジャトコ株式会社 富士第1地区健康サポート室	10名		望月友美子	安藤継子	

学生数：18名

公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校）

	施設	学生数	実習期間			
			5月20日～ 5月31日	6月3日～ 6月14日	6月17日～ 6月28日	7月1日～ 7月12日
学校	静岡市立美和忠学校 県立中央特別支援学校	4名	杉山真澄			
	静岡市立伝馬町小学校 県立静岡北特別支援学校	4名		岩本真弓		
	静岡市立新通小学校 県立清水特別支援学校	4名			岩本真弓	
	静岡市立宮武小学校 県立静岡南部特別支援学校	4名				佐藤瑠美
静岡県立大学健康支援センタ ー	—	16名	7月16日			
			杉山真澄・岩本真弓・佐藤瑠美			

学生数 16名 総責任者：深江久代

8) 国際保健・看護実習

今年度履修者なし。

9) 大学院修士課程助産学分野 助産学関連実習

科目	学年	実習期間	実習施設	学 生 人数	担当教員
妊娠期助産診断 技術学演習 (妊婦健康診査 実習)	1	6/3～7/26 (1回/週 8週間)	焼津市立総合病院	2	福島恭子
			静岡県立総合病院	1	大和田裕美
			静岡赤十字病院	2	藤田景子
			静岡済生会総合病院	1	石川紀子
助産学基礎演習 (助産準備実習)	1	9/24～10/4 (2週間)	焼津市立総合病院	2	福島恭子
			静岡県立総合病院	1	大和田裕美
			静岡赤十字病院	2	藤田景子
			静岡済生会総合病院	1	石川紀子
助産学実習	1	第1期 (5名) 10/7～11/8	焼津市立総合病院	2	福島恭子
		第1期 (1名) 10/28～11/28 (5週間)	静岡県立総合病院	1	大和田裕美
		第2期 1/20～2/14 (4週間)	静岡赤十字病院	1	藤田景子
			静岡済生会総合病院	2	石川紀子
周産期助産学演習 (NICU 実習)	2	9/24～9/27 (4日間)	聖隷浜松病院	1	太田尚子
	1	2/21～2/28 (4日間)	静岡済生会総合病院	2	大和田裕美
			聖隷浜松病院	2	藤田景子
地域助産学実習	1	第1期 9/9～9/13 (5日間)	くさの助産院	1	藤田景子
			渡辺助産院	2	石川紀子
			エスアールハウス	1	福島恭子
			おしか助産院	2	大和田裕美

地域助産学実習	1	第2期 11/11～3/6の うち4日間	性教育セミナー、 各学生の実習目的に 沿った施設・団体等	6	石川紀子 藤田景子 福島恭子 大和田裕美 太田尚子
助産学応用実習 A	2	5月～9月 (うち24日間)	渡辺助産院	2	石川紀子
		5月～7月 (うち15日間)	エスアールハウス	2	福島恭子
		5月～7月 (うち30日間)	おしか助産院	2	大和田裕美

実習総責任者 太田尚子

5. 学生の研究

1) 学部の指導体制と研究テーマ

昨年度と同様に教員の学生担当数は、専門基礎領域、基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学、在宅看護学、国際看護学は教員ごと、それ以外の看護学領域は領域ごとに設定し、教員および学生の卒業研究調整委員ができるだけ希望に添うように調整した。看護学領域の教員ごとの担当学生は領域内で調整した。指導教員の指導の下に学生は、約1年かけて研究テーマを追求し論文としてまとめた。結果、表4-2-1にあげた卒業研究が提出された。その研究要旨は、「令和元年度（2019）卒業論文要旨集」として発刊し、臨地実習施設ならびに臨地実習機関等に配布した。

表 4-2-1 令和元年度（2019）看護学部卒業研究題目一覧

学籍番号	氏名	卒業研究題目	指導教員
1315040	平野 真矢	加熱式タバコのエアロゾルに着目した喫煙による有害性に関する研究	三崎健太郎
1515014	井上由芽美	終末期がん患者の療養場所に関する意思決定における看護師の支援	操華子
1515023	大久保美佳	がん療養者とその家族へのアドバンスケアプランニングを支える訪問看護実践 —中山間地域に焦点を当てて—	富安真理
1515039	川田 萌香	LGBT の分野における日本の医療現場での問題・課題についての海外との比較に関する文献レビュー	根岸まゆみ
1515076	富 遼太	DEP 及びその構成要素である PAHs の呼吸器に及ぼす影響	井上健一郎
1615001	青木 佑莉	退院後の生活への不安を抱えた女性生殖器手術後の患者への看護	加藤京里
1615002	秋山 璃歌	神経難病をもつ高齢者の人工栄養法導入における代理意思決定を行う家族の思いに関する文献検討	飯塚真樹
1615003	伊藤明日香	一般病棟においてユマニチュード実践を困難にする要因の検討 —看護師資格を有するユマニチュード認定インストラクターへのインタビューから—	安田真美
1615004	稲 しおり	終末期医療における日米のがん患者の意思決定支援に対する看護師の職種と役割	根岸まゆみ

1615005	井原 実紅	出生前診断を受けて胎児異常が見つかった妊娠期の親への看護者の関わり	太田尚子
1615006	井村 那奈	在宅高齢者における転倒の関連因子に関する文献検討	杉山真澄
1615007	伊村 莉子	術前の不安に対する術前教育に関する DVD の有効性の検討：メタ分析	田中 範佳 松裏豊
1615008	岩崎 栞	夫立ち会い分娩がもたらす夫婦の精神的影響	永谷実穂
1615009	氏原万実華	初産婦の母親役割獲得におけるケアニーズと助産師の支援について	中川有加
1615010	臼杵 莉奈	在宅で医療的ケアが必要な高齢者の家族の依存者ケア行為力と看護行為力との関わり	濱井妙子
1615011	江俣 綾香	陥没乳頭・扁平乳頭の母親に対する母乳育児確立のための支援の実態	山田貴代
1615012	遠藤 真慈	国内文献にみる喉頭全摘出術を受けた患者の失声の受容過程	山田紋子
1615014	大塚めぐみ	母乳分泌の促進因子について	中川有加
1615015	大場日菜子	乳幼児を養育する母親の育児不安に影響を与える要因に関する文献研究	安藤継子
1615016	小川せりか	生活習慣病予防のための保健指導についての検討	岩本真弓
1615017	小野 晃	観葉植物を利用した屋内の空気汚染物質の除去とその健康影響に関する研究	三崎健太郎
1615018	尾美 里穂	子育て中の保護者のヘルスリテラシーと医療情報の活用、救急外来受診との関連	濱井妙子
1615019	片岡 愛	乳幼児を持つ母親が抱える育児不安への支援に関する文献検討	岩本真弓
1615020	片山 奈津	入院中の慢性疾患患児が精神的に脅かされている要因に関する文献検討	鈴木和香子
1615021	勝又 祐香	中学生・高校生の知りたい性教育内容と性教育の現状	藤田景子
1615022	金指紫央音	地域で生活する精神障害者を抱える家族に対する有効な看護介入に関する文献検討	長澤利枝
1615023	川島 実夏	水平移動介助時の移動補助具の違いによる介助者の筋活動と自覚的作業強度	永谷幸子

1615024	河野 葉奈	高齢者のセルフケア能力や身体機能を維持・向上させるための意欲向上させるためのケア内容に関する文献検討	下吹越直子
1615025	神田 彩乃	認知機能低下のある高齢患者の胃瘻造設の代理意志決定を行う家族の心理的プロセス	飯塚真樹
1615026	神田 史菜	国内の看護文献にみる医師に経管栄養法を提案されてから決定するまでの家族の代理意思決定の体験プロセス	山田紋子
1615027	木口はるな	回復期リハビリテーション病棟における認知症高齢者の日常生活援助及びリハビリテーション療法時に生じる困難と対応について －看護師と作業療法士に焦点を当てて－	安田真美
1615028	木村 友香	児が低出生体重等の理由で母子分離となった母親の心理	福島恭子
1615029	金原 佑夏	慢性期の統合失調症患者がセルフケア能力を向上するために行われている看護介入とその反応の文献レビュー	村方多鶴子
1615030	久保田真由	ハンドマッサージのリラクゼーション効果	管原清子
1615031	熊谷 せつ	看護職者のメンタルヘルスと新人看護職者と中堅看護職者が感じるストレスとの関連について －臨床経験年数別比較－	篁宗一
1615032	倉田 怜実	統合失調症患者の自己肯定感向上に向けた看護介入についての文献検討	村方多鶴子
1615033	栗原 志華	急性白血病患者の治療と QOL に関する文献検討	倉本直樹 操華子
1615034	小泉 互	外科病棟における術後患者への RRS 導入の有効性：メタ分析	田中 範佳 松裏豊
1615037	小坂 美帆	認知症患者の BPSD 発症時における具体的な対応について－ユマニチュード実践による検討－	安田真美
1615038	小長谷咲紀	喫煙者と非喫煙者における手指の複雑動作時の脳血流の比較	永谷幸子
1615039	坂本 優紀	成人期の男性労働者における生活習慣改善に関する阻害要因の検討	望月友美子
1615040	桜井 佳菜	看護学実習における実習指導者の考えと行動	山口みのり

1615041	櫻井 舞子	褥瘡治療における看護師の役割に関する文献検討	高林ふみ代
1615042	佐々木陽菜	プレバイオティクスの抗アレルギー効果に対する文献調査	井上健一郎
1615043	笹山 葵衣	海外単身赴任男性の心身の健康に関する問題とその要因についての文献検討	杉山眞澄
1615044	佐藤 愛理	術後呼吸器合併症に対する術前介入の有効性：メタ分析	田中 範佳 松裏豊
1615045	佐藤 純平	接触予防策適用下における患者の心理状況に関する検討	操華子 管原清子
1615046	佐野 桃子	看護師が揺らぎと葛藤のなかで実践する摂食障害看護に関する文献検討	近藤美保
1615047	澤井 未希	羊水検査を受けるか否かに関する意思決定に対する妊婦のケアニーズ	石川紀子
1615049	篠原陽名子	がん患者が患者会に参加・継続する動機、患者会参加後の患者の変化に関する文献検討	深江久代
1615050	下嶋 聖菜	高校生の自傷行為、摂食障害、災害のメンタルヘルスとプログラムについての文献検討	篁宗一
1615051	杉本侑里花	がん放射線治療に伴う有害事象に対する看護～放射線皮膚炎・粘膜炎に焦点を当てて～	糸川紅子
1615052	杉山真結子	夫立ち会い出産において夫が抱く思いと求められる支援 –否定的な思いに焦点を当てて–	福島恭子
1615053	鈴木 彩香	特定保健指導における行動変容を促す効果的な保健師の実践技術 –ナラティブ〈語り〉の引き出しとパートナーシップの構築に焦点を当てて–	佐藤瑠美
1615054	鈴木加奈子	タッチングが看護師–患者間の関係構築へもたらす影響	山口みのり
1615055	鈴木 心	突然の発症や急変を起こした救急患者家族の思いに関する文献検討	木元千奈美
1615056	鈴木 千咲	精神科薬物療法における服薬自己管理への介入方法とその効果についての文献レビュー	村方多鶴子
1615058	鈴木 莉子	認知症高齢者を介護する家族への地域包括支援センターにおける看護職の初期介入	富安眞理
1615059	関 あかり	乳幼児健診における発達障害児の早期発見の現状と課題の文献検討	安藤継子

1615060	高尾 彩夏	2型糖尿病患者がセルフケアを継続するための効果的な看護介入のあり方に関する文献研究	前野真由美
1615061	高橋 花月	若年妊婦による児童虐待の要因および児童虐待防止のための支援についての文献調査研究	太田尚子
1615062	瀧井 麻琴	看護学部4年生のコミュニケーション・スキルに関する実態調査	管原清子
1615065	谷村 果琳	がん終末期療養者の療養生活における意思決定への訪問看護支援 －介護者が就労しているケースに焦点を当てて－	田中悠美
1615066	佃 有真	文献マップからみた人工肛門造設者への“腸内フローラを整える食事指導”の必要性	青木和恵
1615067	中川紗弥花	患者の術前不安に対する音楽介入の有効性：メタ分析	田中範佳
1615068	中島歩美乃	新人看護師が抱える困難と職場適応を促す支援に関する文献研究	加藤京里
1615069	中谷 雪音	環境の変化が睡眠の質に及ぼす影響	金澤寛明
1615070	中村 華	高齢者の社会的孤立予防に対する ICT 活用の可能性について	佐藤瑠美
1615071	永井 亜実	脈拍数による睡眠の質の評価	金澤寛明
1615072	梨子 田凜花	医療現場における多言語翻訳ツールの精度と活用法の検討	濱井妙子
1615073	成岡 望実	地域で生活する精神障がい者の服薬継続支援に関する文献検討	遠藤りら
1615074	成岡 ゆい	産後うつ病を予防するための看護介入に関する文献検討	永谷実穂
1615075	西井 正道	精神病棟におけるターミナルケアの現状と課題についての検討	遠藤りら
1615076	西垣内友香	入院児のきょうだいに対する看護支援	鈴木和香子
1615077	西澤 実咲	緊急帝王切開分娩を体験した母親の心理とその過程について	藤田景子
1615078	西島香夏子	終末期がん患者を持つ家族への精神的ケアに関する文献検討	倉本直樹 操華子
1615079	二橋宥里亜	化学療法を受けるがん患者のセルフケア行動を	糸川紅子

		促進する要因と阻害する要因に関する文献検討	
1615080	橋本 優奈	初発がんと告知された患者家族の心理的反応	操華子
1615081	長谷川美波	乳幼児を持つ母親のインターネット利用状況と育児不安への対応の変化	山田貴代
1615082	原田のぞみ	救命救急病棟に入院した患者家族に対する看護支援に関する文献検討	操華子
1615083	平井 杏果	病棟看護師が実践している在宅移行期の脳血管疾患患者と家族に対する精神的側面への看護実践に関する文献検討	石切山千恵
1615084	平野 有里	急性期病床から療養病床へ転院時の患者・家族への退院支援において提供した情報の内容・方法	下吹越直子
1615085	福代なつみ	認知症高齢者の続柄別家族介護者の心理	深江久代
1615086	星谷さくら	女性高齢者の握力と開封動作の関連	永谷幸子
1615087	堀池 真希	救命救急センターにおける救急看護師の患者家族への看護実践	木元千奈美
1615089	松野 留奈	肝臓切除術後の肝機能の変化に基づいて行う肝臓の保護を目的とした食事指導	青木和恵
1615090	松本 桃子	統合失調症者に対する看護師による地域支援の現状について	長澤利枝
1615091	丸山 愛由	患者に対する看護師の非言語的コミュニケーション特性—患者以外との比較から—	鈴木琴江
1615092	水谷 瞳	日本とアフリカ地域での看護師・保健師による保健医療活動における差異—青年海外協力隊員への半構成的インタビュー—	根岸まゆみ
1615093	三宅 彩水	嚥下障害の病態に応じたポジショニングに関する文献検討	高林ふみ代
1615094	宮崎 綾乃	在宅高齢者の自立排便移行へのセルフケアを強化する訪問看護支援	田中悠美
1615095	宮下 美那	新人看護師が先輩看護師から受けている支援の実態について	山口みのり
1615097	村田佳菜子	周術期低体温に対する加温装置の有効性に関するメタ分析	田中 範佳 松裏豊

1615098	村松加奈子	若年男性労働者の生活習慣に関連した肥満の要因	望月友美子
1615100	村松由梨奈	正常者の大脳白質における白質変化に関する研究－経年変化から見た比較－	荒井孝子
1615102	宗意 栞	妊娠期における産後うつ予防のための看護介入の実態とその効果について	石川紀子
1615103	八重樫雅弥	採血を受ける幼児の自己調整機能を高めるプレパレーションに関する予備的調査－小児科外来看護師の認識度と実践度について－	山下早苗
1615104	柳町 夏帆	セクシュアルマイノリティの患者に対する看護の実際と必要性	荒井孝子
1615105	末永綾乃	訪問看護師が行う在宅糖尿病高齢者に対するフットケアに関する質的研究	富安眞理
1615106	山口 愛莉	同居家族のいる高齢心不全患者が行う食事管理の実態に関する文献検討	石切山千恵
1615107	山下なずな	父性意識を促進する要因についての文献検討	高木静
1615108	山田まどか	予期せぬ妊娠をした若年妊婦の母親役割獲得を促す看護職者の関わりについて	大和田裕美
1615109	山本明日香	救急あるいは集中ケアに携わる看護師の臨床判断プロセスの実態	鈴木琴江
1615110	山本明梨紗	糖質制限食(LCD)の有用性とリスクに関する文献検討	高林ふみ代
1615111	山本 千夏	女子大学生の子宮頸がん検診の受診を促すために必要な取り組みの検討－子宮頸がん検診を促進・阻害する要因の分析より－	杉山眞澄
1615112	山本真里亜	妊娠期から産後の母親が持つ子ども虐待のリスク因子と地域支援	高木静
1615113	横瀬のぞみ	学習支援ボランティア活動に求められる看護師の役割について	鈴木和香子
1615114	吉岡 美里	糖尿病患者の運動療法継続要因についての文献検討	前野真由美
1615115	吉田 香蓮	周産期喪失を経験した母親に助産師が行うケア	福島恭子
1615116	渡邊 瑛里	LGBT 当事者に考えられる精神的ストレスに対する看護者としての支援	長澤利枝

1615117	渡邊 瑞央	在宅療養がん患者の抱える困難や苦悩に関する文献検討	深江久代
1615118	渡邊 葉月	看護師の退院支援における患者・家族—医療者間の認識のズレの考察	下吹越直子
1615119	渡辺 結女	出生前診断において胎児異常の告知を受け妊娠を継続した母親の心理過程	永谷実穂
1615120	渡部 友実	小児の死を経験した看護師の困難感に関する文献検討	山下早苗 池田麻左子
1815121	上野 陽輔	救急看護師の初療場面における緊急性の判断に関する研究	木元千奈美
1815122	田邊 裕之	病院から在宅復帰する高齢者の排泄自立への多職種支援による文献検討	田中悠美
1815123	中川 瑛心	精神疾患を抱え地域で生活する歯科治療未受診者の実態	近藤美保
1815124	中村 友美	急性期を脱した心不全患者の全身清拭による皮膚の清浄度	管原清子
1815125	山田 実香	医療的ケア児とその家族の支援における多職種連携—訪問看護実践に焦点を当てて—	富安眞理 酒井知子

2) 研究科の指導体制と研究テーマ

今年度は、12名の大学院生より修士論文が提出され、修士論文審査および最終試験を経て12名全員が修士課程を修了することとなった。

研究科の指導は、指導教員を中心に、適宜、他領域の教員の協力を得ながら行われた。研究の実施にあたり、病院施設等より多大なるご支援、ご協力を得た。修士論文発表会は、令和2年3月3日（火）より大学院生、学部生、教員および、研究協力施設の関係者など多数の参加を予定していたが、新型コロナウイルスの感染を考慮して中止、紙面上の発表とした。

修了生の氏名、専門分野および論文題目は以下の表のとおりである。

表 3-4-2 令和元年度看護学研究科修了生および修士論文題目一覧

氏名	専門分野	研究題目	指導教員 副指導教員
山家香奈子	保健・医療システム学	経膈分娩に伴う外科的処置で使用されるガーゼの体内残存に関する検討	田中範佳 石川紀子
松見しのぶ	成人・老人看護学	経口抗がん剤治療を行う肺がん外来患者の電話相談ニーズと状態不安との関連の検討	青木和恵 田中範佳
青木瞳	地域看護学	独居高齢者を支える訪問看護師の判断プロセス—脳卒中合併症予防に焦点をあてて	富安眞理 操華子
長谷部美紀	地域看護学	生活への適応過程にある高齢ストーマ保有者と家族を支える訪問看護実践	富安眞理 青木和恵
内田佳治	成人・老人看護学	手術前日の夜間における体動量と手術室入室に伴う循環動態の変動との関連性の検討	田中範佳 井上健一郎
川村友子	成人・老人看護学	がん患者における腹腔穿刺による悪性腹水の排液が循環動態・自律神経機能におよぼす影響	田中範佳 井上健一郎
稲葉薫	助産学	糖尿病専門の看護職者による妊娠糖尿病既往の女性に対する支援	太田尚子 操華子
梅原麻帆	助産学	妊婦の胎児への意識的な声かけと胎児への愛着の関係	太田尚子 金澤寛明
岡田華歩	助産学	産後入院中の児と皮膚接触の抱っこをする経験が1ヶ月後の父親の意識に及ぼす影響	太田尚子 中川有加
杉山未典	助産学	共働き家庭の男性が考える父親役割—第一子が3~4歳である父親に焦点を当てて—	太田尚子 篁宗一
中村岬	助産学	被虐待経験をもつ女性に対する妊娠期から育児期における助産師の関わり	太田尚子 藤田景子

松林舞	助産学	助産所で出産体験のある経産婦が病院へ母体搬送された場合のケア・ニーズ	太田尚子 石川紀子
-----	-----	------------------------------------	--------------

V. 学生生活

1. 学生定員および在籍学生数

1) 学部

看護学部の入学定員は1年次120名、3年次編入学25名であり、収容定員は計530名である。過去3年間の在籍者数を表5-1-1に示した。

表 5-1-1 学部定員および在籍者数

年度	学部定員	在籍者数
H29年度	515	501
H30年度	530	496
R1年度	530	479

表 5-1-2 学部定員および学生数

	1年生	2年生	3年生	3年 編入生	4年生	4年 編入生	合計
学部定員	120	120	145		145		530
在籍者数	120	128	109	2	115	5	479
休学者数	0	4	0	0	0	0	4
退学者数	1	0	0	0	1	0	2

※在籍者数はR1年度当初、休学者はR1年度末、退学者数はR1年度内の数字

2) 研究科

看護学研究科の入学定員は16名、収容定員は32名である。R1年度の在籍者数は、表5-1-2に示すとおり、1年9名、2年12名である。

表 5-1-3 研究科定員および在学生数

	1年生	2年生	合計
入学定員	16	16	32
在籍者数	9	12	21
休学者数	0	0	0
退学者数	0	0	0

※在籍者数はR1年度当初、休学者はR1年度末、退学者数はR1年度内の数字

2.入学志願者数および入学者数とその背景

1)学部

各入学試験志願者数（受験者数）は一般前期 157(151)→166(156)、一般後期 67(19)→106(32)、社会人入試 8(8)→3(3)、推薦入試 116(116)→112(112)、編入学特別選抜 10(8)→5(4)であった。一般入試（前期）の志願倍率は、2.4 倍と昨年の約 2 倍と比較し微増した。一方編入学試験における合格者の定員割れに関しては、保健師課程を有しないコースの設定が大きく寄与していたと考察する。

表 5-2-1 令和元年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	70	166	156	72	70
一般後期	5	106	32	7	5
推薦	45	112	112	45	45
社会人	若干名	3	3	0	0
編入学	25	5	4	1	1
合計	145	392	307	125	121

※県内出身の入学者は 105 名（編入生を除いて）

表 5-2-2 平成 30 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	70	157	151	71	67
一般後期	5	67	19	7	7
推薦	45	116	116	45	45
社会人	若干名	8	8	1	1
編入学	25	10	8	6	5
合計	145	358	302	130	125

※県内出身の入学者は 107 名（編入生を除いて）

2) 研究科

令和元年度入試の入学志願者数は看護学研究科の一次募集において 7 名、二次募集において 8 名であった（延べ 15 名）。選抜区分としては一般選抜での出願者が 13 名で、社会人特別選抜での出願が 2 名であった。一次二次の合格者は発表後にいずれも入学手続きを行った。最終的な入学者数は 12 名であった。研究科全体としては志願者数が増加した。また、はじめての博士課程の志願者は定員 3 名のところ出願者 3 名、合格者 2 名であった。選抜区分としては一般選抜での出願者が 1 名で、社会人特別選抜での出願が 2 名であった。合格者はいずれも入学手続きを行った。

表 5-2-3 研究科の入学志願者数および入学者数とその背景(上：修士、下：博士)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度
入学志願者	20	12	8	9	21	16	15
入学者数	13	8	8	7	13	10	12
(うち社会人特別入学)	(6)	(2)	(5)	(3)	(4)	(1)	(2)
	令和 元年度						
入学志願者	3						
入学者数	2						
(うち社会人特別入学)	(2)						

3. 卒業・修了者の進路状況

1) 学部

過去3年間の卒業後の進路を表5-3-1に示した。(令和元年3月16日現在)

表5-3-1 学部卒業生進路

専門学校の助産師コース等に進学する卒業生については、「その他※」にカウントしている。

年度	性別	卒業生数	就職決定者数	就職活動中	その他	採用職種別			施設の場所		進学・留学
						看護師	保健師	その他	県内	県外	
平成29年度	男	10	9	—	0	9	—	—	7	2	1
	女	114	104	—	4	92	12	—	73	19	6
	計	124	113	—	4	101	12	—	80	21	7
平成30年度	男	17	17	—	0	17	—	—	13	4	—
	女	115	105	1	5	95	10	—	82	23	4
	計	132	122	1	5	112	10	—	95	27	4
令和元年度	男	11	10	1	0	9	0	1	7	3	—
	女	108	100	—	3	89	11	—	78	22	5
	計	119	110	1	3	98	11	1	85	25	5

2) 研究科

令和元年度の修了生は、12名である。本年度の修了後の進路状況は、表 5-3-2 に示すとおりである。助産学分野の修了生は助産師に、社会人学生は現職である保健師、看護師、助産師を継続する。また、新たに保健師、訪問看護師として就職する。

表 5-3-2 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学 ・ 留学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	
平成 25 年度	7	1	0	2	0	4	0
平成 26 年度	12	1	0	5	3	3	0
平成 27 年度	11	3	0	7	1	0	0
平成 28 年度	7	3	1	3	0	0	0
平成 29 年度	4	1	1	1	0	1	0
平成 30 年度	13	2	0	8	3	0	0
令和元年度	12	3	2	7	0	0	0

4. 免許・資格などの取得状況

過去3年間の新卒者の看護師・保健師・助産師の国家資格取得状況を表5-3-3に示した。令和元年度の全国合格率は、看護師94.7%、保健師96.3%、助産師99.5%であった。

表5-4-1 免許・資格などの取得状況

年度	看護師	保健師	助産師
平成29年度	114/114	104/114	1/1
	(100.0)	(91.2)	(100.0)
平成30年度	121/122	105/117	8/8
	(99.2)	(89.7)	(100.0)
令和元年度	113/114	95/98	6/6
	(99.1)	(95.9)	(100.0)

()内は合格者数/受験者数の百分率

VI. 国際交流

1. 令和元年度国際交流等事業

1) 第5回静岡県立大学看護学部とコンケン大学看護学部間の短期交換留学事業 (コンケン大学看護学部生の受け入れ)

令和元年度の短期交換留学事業として、令和元年6月16日から6月29日までコンケン大学看護学部の2年生1名(Mr. Phattana Manutsawee)と3年生3名(Mr. Nontawat Sripao, Ms. Sudarat Waengpong, Ms. Thanudkha Pichyawee)計4名を受け入れた。宿泊施設は、昨年同様に静岡県職員研修施設であるもくせい会館、ならびに、ホームステイを組み合わせた。今年度は、昨年度と同様のホストファミリー1件と新たなホストファミリーであり静岡日タイ協会に加盟する3件の家族が留学生を7泊8日間に渡り受け入れ、コンケン大学の学生達は日本の看護や文化を体験学習することができた。大学のホストファミリー登録の手続きの流れは昨年度と同様である。

本事業の主担当は基礎医学領域の濱井講師と国際看護学領域の根岸講師であるが、看護学部教員全員で取り組む学部の事業である。効果的なプログラムを作成するために、看護学部各領域に協力を得た。全領域からの協力のもと、次のプログラム内容を実施した。①学内の講義・演習：日本の医療・介護保険システムに関する解説・討議、ヘルス・アセスメント演習見学、母性看護学演習の見学など、②実習施設訪問・実習参加：がんセンター、高齢者対象リハビリ病院、小児病院、精神科病院、小規模多機能型居宅生活介護施設の見学、脊髄損傷症例の在宅リハビリ、産業看護施設など、③学生・教員との文化交流：コンケン大学生によるプレゼンテーションと討論含む、④交換留学の報告会。留学生はタイと日本の医療システム、医療技術、各専門分野の看護ケアを比較しながら、多くのことを学んでいた。

2) 米国オレゴン州の看護大学2校での研修

2019年8月12日から15日の4日間に渡り、根岸は米国オレゴン州ポートランド大学看護学部ではDr. Layla Garriguesと、また、オレゴン健康科学大学看護学部ではDr. Kathie Lasater、Dr. Ann Nielsen、Ruth Taddese講師と共に本学や他大学の看護教員・学生計8名(本学教員1名、学部生1名含む)を対象にしたシミュレーション教育について短期研修を開催した。研修内容は、両大学の看護学部とシミュレーションセンターの視察とシミュレーション担当教員による講義とディスカッションを行い、臨床判断モデル&看護過程を使用したシミュレーション教育や臨床判断モデルとLCJRのシミュレーション教育への活用について学習し、それらを日本の看護教育へどのように応用するかについて討論した。また、同市内のオレゴン健康科学大学病院とHopewell House(ホスピス施設)の視察も行った。その後、ポートランド大学看護学部のDr. Layla Garriguesと、2019年11月14日に

開催した COIL 授業の打ち合わせや、今後の COIL に関する共同研究の可能性について会議を行った。

3) 「さくらサイエンスプラン」受け入れ

2019年10月29日の13時半から15時半に渡り、「さくらサイエンスプラン」で来日したインドネシアの高校生8名、インドネシア人引率1名、県庁大学課2名の計11名を、本学国際交流センターの赤池室長他スタッフの協力のもと本学部小鹿キャンパスで受け入れた。太田尚子学部長の歓迎挨拶後、山下早苗副学部長から記念品贈呈が行われ、その後はキャンパスツアーを行った。インドネシアの高校生たちは、田中範佳教授の解説によるシミュレーションセンター見学に興味を示し、活発な質問と本学部教員との積極的な関わりが見られた。

4) COIL 授業開催

今年度は、3度のCOIL授業を達成した。初回は2019年5月21日に、聴講生含む「国際保健・災害看護論」履修の2年生と編入3年生（計122名）対象に米国のオレゴン健康科学大学のRuth Taddese講師と共に「US healthcare system: A nursing perspective」の授業を行った。2回目は、同年7月9日に同科目の学生計122名対象に、「災害看護論」の中でもアフリカの難民医療に焦点を当てた「South Sudanese: A refugee population in crisis」について、米国ポートランド大学教員のDr. Laura Mood講師と共に授業を行った。どちらのCOIL授業も、現地時間は21時開始であったため米国看護学生の参加は不可能であったが、米国教員と本学部生が積極的に対話する機会を設けた。3回目は同年11月14日に「最新看護の動向」「大学院特別授業」として4年生と院生を対象にCOIL授業を開催した。これは、上智大学看護学部・ポートランド大学看護学部・ドルノゴビ医科大学看護学部の教員たちと協働し、本邦初の3カ国4大学参加の看護学生のためのCOIL授業である。テーマは「Sex Education in Youth」とし、各大学から1つの学生グループがテーマに沿った各国の問題・状況・看護について発表を行った後、ディスカッションの時間を設けた。本学部からは、助産学専攻の院生2名も性教育の取り組みについて英語で発表を行った。これら3つのCOIL授業を通し、本学生たちは各国の医療や看護問題について学習するだけでなく、異文化理解を深め、国際性を学び実践することができたと思われる。

2. 国際保健・看護実習

今年度履修者なし。

Ⅶ. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動

1. 領域別の教育活動と地域貢献活動

1) 専門基礎領域の活動

(1) 医学系教員の活動

<教育活動>

専門基礎分野は「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「人間と人間生活の理解」領域の科目で構成されている。「機能形態学」「生物化学」「病態学」「症候論」「健康環境論」など、看護の基礎となる病態理解に力点を置いた講義を展開している。1年生から2年生にかけて、医療の基礎となる解剖学（正常生体構造）・生理学（正常機能）からはじまり、“病気”を症状別、疾患別に、表在理学変化から臓器病理まで多面的に、かつきめ細かく解説し“テラーメイド医療”の一員としての自覚・自信を身につけることを目的とした授業を行っている。さらに、講義だけではなく、自らの手で科学的事象を再現し証明する実習（「基礎健康科学演習」）、ならびに、1・2年次に学んだ基礎医学系科目と基礎看護系科目の知識を統合する演習（「看護統合セミナーI」、「基礎セミナーII」）を行った。「基礎健康科学演習」では、人の健康状態を多面的に判断できる能力を実践的に身につけることと、人の健康に影響を与える身の回りの病因を知り対応できる能力を養うこと、また今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を習得することを目標に実験実習の指導を行なっている。人体標本を用いた肉眼観察、組織標本を用いた顕微鏡観察、ラットの解剖と観察、血球細胞の標本作製と観察などの解剖学と、血液検査や心電図測定などの生理学・検査法、ラット肝組織からのグリコーゲン抽出、酸塩基滴定（体液の緩衝能、生体内・環境水のpHの理解）などの生化学・環境実験、微生物の染色検査や鼻腔中ならびに手指の微生物の検出と抗微生物薬の効果判定などの微生物学に関する実験を行なっている。「基礎セミナーI」では、大学での学習活動における基礎力の養成を目指して、特に文章表現やレポート作成方法に関する基礎教育を実施した。また、「看護統合セミナーI」、「基礎セミナーII」では、臨床で得られる情報を看護者の視点から分析し看護実践に反映させる基礎能力を習得する目的で、症例を用いて医学的側面から症例把握、鑑別診断のプロセスを実施し、看護アセスメントにつなげるよう工夫している。

<地域貢献活動>

金澤、三崎は「県民の日」の地域住民への大学一般公開に参画し、人体模型の展示とクイズ、人体の仕組みの解説などを実施した。

濱井の地域貢献活動については保健学領域を参照のこと。

(2) 保健学系教員の活動

<教育活動>

保健学分野は『健康支援と社会保障制度』の「公衆衛生学」「社会福祉論」「保健福祉行政論」「保健医療統計学」「情報処理演習」「疫学」の科目で構成されている。学生が興味を持ちモチベーションが低下しないように、できる限り日常の問題に関連づけて解説することを心がけている。具体的には、出生率の低下による少子高齢化、生活保護受給者の増大、環境汚染、エボラ出血熱、インフルエンザの流行、食中毒など社会問題となっている事象を取り上げて講義の導入としている。教員は学部専任講師、学部横断ならびに実務経験のある非常勤講師が担当している。

<領域で行っている地域貢献活動>

濱井は、沼津市開発審査会委員として、市街化調整区域内における、技術先端型業種の工場の建築等の可否について審査した。また、静岡県医療通訳者養成講座の講師ならびにコーディネータを務め、静岡県ならびに静岡県国際交流協会と協力して医療通訳体制づくりに取り組んでいる。さらに、外国人患者受入れ拠点病院である磐田市立総合病院で外国人患者受入れ環境整備事業研修会の講師を務めるとともに、医療通訳に関する情報を提供している。今年度は、みなくる（静岡市地域福祉共生センター）受託事業である、みなくるオープンカレッジ 学びなおし講座にて、「外国人住民の安心・安全な保健医療サービスへのアクセスを考える」をテーマに講師を務めた。

2) 基礎看護学領域の活動

<教育活動>

基礎看護学領域

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

平成 30 年度カリキュラム 2 年目となり、2 年次の科目名と配置年次が変更になった。1 年次は、昨年度より配置された看護学原論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、看護コミュニケーション演習、看護コミュニケーション実習を引き続き開講した。2 年次は、あらたに看護アセスメント演習、看護アセスメント実習が開講となった。また平成 26 年度カリキュラム施行時に入学した 2 年生に向けて、基礎看護技術Ⅲを従来通り開講し、看護アセスメント実習、看護統合セミナーを夏期集中開講した。

平成 30 年度カリキュラムにて削除された看護過程の授業は、昨年度、1 年生の看護学原論、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱにおいて実施し補填していた。今年度は、進級した 2 年生に向けて、看護アセスメント実習前に講義を行い、学習の機会を保證した。

新カリキュラムの実施、ならびに新旧カリキュラムの一部同時開講、夏期集中授業、教員の着任・退職等の入替を踏まえ、講義内容と展開方法の検討・変更を適宜行った。1 学年 120 名の学生の技術指導を充実させるため、実習室 2 か所の使用、演習要項の作成、模範技術の収録、e-learning の活用等、学生の学習効果が向上するよう工夫した。

② 実習について

基礎看護学領域における実習は、1 年次の看護コミュニケーション実習 (1 単位)、2 年次の看護アセスメント実習 (2 単位)、4 年次の発展看護実習Ⅰ (1 単位)、発展看護実習Ⅱ (1 単位) であった。さらに今年度は平成 26 カリキュラムの履修生 10 名の看護アセスメント実習も実施した。

看護コミュニケーション実習は 2 施設 (静岡赤十字病院、静岡市立静岡病院) で実施した。看護の実際についての理解を深め、患者と看護師および看護師間のコミュニケーションの基本について体験的に学習することを目的に、療養環境の観察や看護場面に参加した。5 月から週 1 回の隔週実習を行った。同時進行する看護コミュニケーション演習との連動を図りながら実習を行い、学生は実践のなかで課題を見出すことができていた。

2 年次生の看護アセスメント実習は 2 施設 (静岡県立総合病院、静岡市立静岡病院) で実施した。今年度は、昨年度の前後半の実習方法を反転させ、隔週 3 日の前半実習と、1 週間連続の後半実習に分けて実施した。前半実習では、看護師と一緒に看護実践活動を行いながら、看護師が行うアセスメントの実際の理解に焦点を置いた。後半実習は、患者を受け持ち看護過程の展開を行った。前半は隔週で、学生が主体的に看護実践を行うことが難しく、後半は看護過程の展開を行うには短い期間であることから、目標や具体的実習方法について工夫し、授業との関連を強化するなど引き続き検討する。

平成 26 カリキュラムの履修生 10 名の看護アセスメント実習は、8 月 5 日から 16 日の 2 週間集中で実施した。受け持ち患者をもち、看護過程の展開を行った。学生は積極的に実習

に臨み、一連の看護過程の展開を学ぶことができ、実習目標を達成できた。

4年次の統合分野に位置づけられる発展看護実習では、3つのテーマを設定し学生が希望する実習を選択した。発展看護実習Ⅰのテーマは、①看護師の臨床判断とアセスメント、②医療安全、③多職種連携とした。発展看護実習Ⅱのテーマは、①特定看護行為、②感染管理、③多重課題とした。卒業直前に、これまでの患者受け持ち実習とは異なり、より実践的な看護活動を学ぶ体験ができ、学生は各テーマにおいて看護の専門性を探求する場となった。

大学院看護学研究科

基盤看護学領域では、看護技術学分野（操）に1名が入学し、修士1年に在籍している。操、荒井は、他分野に在籍する院生の研究計画書審査や修士論文審査・最終試験審査等に携わった。

<領域で行っている地域貢献活動>

基礎看護学領域

荒井は、前職において日本のナースプラクティショナー養成教育に創成期より携わっている。平成27年10月に厚労省が看護師の特定行為研修制度を定めたことを受け、指定研修機関である国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻特定行為看護師養成分野の特定行為研修管理委員会委員として引き続き委嘱され、外部委員としてカリキュラム認定や教育評価等について活動した。静岡済生会総合病院の地域医療支援病院運営委員会委員として活動した。また、第37回日本ストーマ、排泄リハビリテーション学会総会の会期中に運営スタッフとしてサポートした。本年度は、学内の科学研究費応募者に対する研究計画書のアドバイス支援者としてサポートした。

操は、平成31年度は以下の地域貢献活動を行った。高大連携出張講義として、静岡城北高等学校での講義を担当した。国立大学法人東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科（看護学研究法特論）、神奈川県立保健福祉大学大学院看護学研究科（がん看護学演習Ⅰ）、神奈川県立保健福祉大学看護教育実践センター感染管理認定教育課程（疫学、文献の批判的吟味）から委嘱を受け、非常勤講師を担当した。東京都看護協会（質的研究）、福島県看護協会（看護研究）で開催された各研修の講師を担当した。医療法人徳洲会湘南厚木病院（感染管理プログラム）、独立行政法人地域医療機能推進機構桜が丘病院（感染管理プログラム、看護研究支援）、邦友会小田原循環器病院（感染管理プログラム、看護研究支援、倫理審査体制の構築、看護診断・看護記録）のコンサルテーション業務を引き受けた。静岡済生会病院 VRE 対策有識者会議の委員として委嘱を受け、集団発生の拡大防止の監視ならびに対策の助言を実施した。日本看護科学学会代議員・英文誌編集委員、日本環境感染学会評議員・教育委員会副委員長・国際交流委員会副委員長・編集委員、日本医療安全学会査読委員、American Journal of Infection Control (AJIC) 査読委員の委嘱を受け、活動した。

永谷は、日本看護医療学会の事務局長として活動した。また、日本看護医療学会査読委員の委嘱を受け、活動した。静岡市立静岡病院の研究指導を担当した。また、対がん協会主催

のがん患者支援イベント「リレーフォーライフ」のチームの一員として学生とともに活動に参加した。

山口は、高大連携出張講義として、富士市立高等学校にて講義を行った。また、静岡県看護教員専任教員養成講習会の特別講義講師、戸田中央医科グループ看護局にて研修講師を担当した。その他、放送大学客員准教授として大学院生の指導を行った。学会では、日本看護学教育学会教育活動委員、日本看護研究学会査読委員、日本看護技術学会査読委員、日本看護技術学会第19回学術集会企画委員として活動した。

菅原は、静岡市立清水看護専門学校の教育課程編成会議委員として委嘱を受け、年2回の会議に参加し、教育課程に関する意見交換を行った。さらに、静岡県専任教員養成講習会実行委員会のメンバーとして、令和元年度開講の専任教員養成講習会の終了までの運営に参加した。昨年に継続して、桜ヶ丘病院の研究指導を1年間担当した。さらに、高大連携出張講義として、静岡県立清水西高等学校にて講義を行った。9月21、22日に静岡県立大学で行われた、対がん協会主催のがん患者支援イベント「リレーフォーライフ」にチームを作って参加し、地域のがん患者支援に関する活動に参加した。

加藤は、東京女子医科大学看護学会の評議員、編集委員会委員として活動した。また同学会誌投稿論文の査読を行った。一般社団法人日本看護技術学会技術研究成果検討委員会「温罨法班」の一員として、全国キャラバン研修会「ジェネラルナースの技術力を高めよう：エビデンスに基づく排泄援助の技」を実施した。また、対がん協会主催のがん患者支援イベント「リレーフォーライフ」のチームの一員として学生とともに活動に参加した。

令和元年度高校訪問として沼津東高校、三島北高校、清水南高校、伊豆中央高校、下田高校を担当した。

倉本は、高大連携出張講義として、磐田西高等学校にて講義を行った。また、対がん協会主催のがん患者支援イベント「リレーフォーライフ」のチームの一員として活動に参加した。

3) 成人・老年看護学領域の活動

<教育活動>

成人看護学領域

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

成人看護学領域の授業では、ライフサイクルのうえで最も長期間を占める成人期におこる病気、健康障害を持つ人々と家族について、身体的・心理的・社会的な側面の統合された存在としてそれらの人々を捉え、その特徴を理解し、急性期、慢性期あるいは回復期のすべてを通して、健康の維持、予防、回復、治癒、適応、QOLの向上をめざした科学的根拠に基づく看護を実践できる力を養うことを目標としている。この目標に変更はないため、授業内容も変更していない。

② 実習について

「成人看護学実習Ⅰ」、「成人看護学実習Ⅱ」、「成人看護学実習Ⅲ」の3つの実習を行った。各実習の1クールは2週間とした。

「成人看護学実習Ⅰ」と「成人看護学実習Ⅱ」では、履修生は各110名であり、計40グループ、40クールの実習を行った。そのため、実習施設は、静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、静岡てんかん・神経医療センターの5ヶ所と多岐に渡っている。今年度においても、これら5つのそれぞれの施設の看護部および実習部署と密に連携を行いながら病棟実習を進めた。「成人看護学実習Ⅱ」では、加えて手術室・HCU・ICUでの見学実習を行った。

「成人看護学実習Ⅲ」は1グループを2チームに分け、チーム別に、①受け持ち患者に対するEBPに基づく看護過程の展開と、②臨床判断能力の育成を目的に高機能シミュレータを用いたシミュレーションの2つの内容を行う実習である。①については静岡赤十字病院で、②については学内で実施した。履修学年となる4年生は114名であった。

老年看護学領域

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

老年看護学領域では、老年期にある対象者の生活および老化に伴う身体的・心理的・社会的特性を理解し、老年看護の基本的な理念と援助、今後の保健・医療・福祉における施策の方向と看護の役割について考えることができることを目標としている。

科目はH26カリキュラム：「対象の理解Ⅱ」、「老年看護学」、「老年看護学演習」、「老年看護学実習Ⅰ」、「老年看護学実習Ⅱ」、H30カリキュラム：「老年看護学概論」、「老年看護援助論」で構成されており、各科目を通して、個々の高齢者の価値観を尊重する態度を養うとともに、高齢者の強みを活かした健康問題への看護援助、家族への支援等から、生活の質(Quality of Life)の確保と向上に資するような援助技術の修得について教授している。

今年度は、老年看護学実習Ⅱにおいて、より受け持ち高齢者にあつた看護過程を展開で

きるように、「高齢者」から情報を得ること、学生自身が計画した看護計画の実施・評価まで展開できることを目標とし、講義・演習をすすめた。

② 実習について

老年看護学実習Ⅱ（2単位）は、3年次（H26カリキュラム）110名が履修した。今年度も療養型医療施設実習6日間・回復期リハビリテーション病棟実習2日間にて実施した。療養型医療施設実習は3施設（小鹿病院、静岡瀬名病院、山の上病院）、回復期リハビリテーション病棟実習は5施設（静岡リハビリテーション病院、甲賀病院、静岡リウマチ整形外科リハビリ病院、静岡リハビリテーション病院、山の上病院）にて実施した。

学生は、受け持ち高齢者と積極的に関わることで、高齢者および家族に対する個別性のある看護について学ぶことができたと考える。また、療養型医療施設ならびに回復期リハビリテーション病棟における多職種連携のあり方から、看護職の役割について考察を深めることができたと考える。

老年看護学実習Ⅰ（1単位）は、10名が履修した。介護老人保健施設の入所、通所部門にて実習を行い、高齢者の介護予防をめざした支援のあり方について学修した。実習施設は、介護老人保健施設2施設（エスコートタウン静岡、ケアセンター池田の街）にて実施した。入所・通所各部門の職員各位にご指導頂き、多職種間の連携と看護職の役割について考察を深めることができたと考える。

成人・老人看護学分野(研究科)

成人・老人看護学分野は、慢性看護学、急性看護学、がん看護学の3看護学を包括し、本分野の学問的多様性と院生の研究ニーズに対応できる指導・支援体制を取っている。各看護学においては、独自の看護現象を捉え、そこでの課題や問いを明確にし、既存の研究手法の適用、さらには新たな方法論の開発にも挑戦しつつ、対象の理解と実践を支える新しい知見の発見とその構築に取り組んでいる。研究科の学生は、この過程をそれぞれの特論(各看護学での研究に必要な基本的理論の理解)、演習(各現象への基本的理論の適用と評価)、応用実習(基本的理論の実践での個別適用とその長所と限界の検討)を通して学びつつ、修士論文としてまとめる。

今年度、本分野には、修士課程2年4名の院生が在籍し、論文審査・最終試験に合格し修士（看護学）の学位が授与された。

<領域で行っている地域貢献活動>

成人看護学領域

田中 範佳

Sigma Theta Tau International, Honor Society of Nursing の助成金審査委員・The 31th International Nursing Research Congress および Nursing Education Research Conference 2020 の学会査読委員、Virginia Henderson Global Nursing e-Repository の査読委員、Journal of Perioperative Practice の編集委員会委員として活動した。

山田 紋子

静岡県立総合病院の臨床研究倫理委員会および看護部臨床研究倫理委員会の外部委員、静岡済生会総合病院主催の駿河区を中心とした看看連携事業の相談役、日本看護診断学会の理事、日本赤十字看護学会の編集委員として活動した。また、東海大学救急看護認定看護師教育課程の非常勤講師を務めた。さらに、2ヶ所の総合病院において看護診断に関する講義を、静岡県看護協会主催の令和元年度専任教員養成講習会において研究法(質的研究)に関する講義を行った。

青木 和恵

2020年2月7日・8日に学会長として第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会(静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ)を開催した。「原点と躍動」をテーマとし、一般演題約160題、8つの講演、6つのシンポジウム、3つのMini lecture、3つ委員会企画、7つの企業協賛セミナーを企画実行した。実行・運営委員には県立大学看護学部教員、静岡県内のWOCナースを起用した。参加者は2000名であった。また静岡県内の大学、教育機関などの非常勤講師として、静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程、常葉大学健康科学部看護学科、岩手県立大学大学院看護学研究科において講義を担当した。また静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程では教員会委員を務めた。学会関連では、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会の理事および広報委員、編集委員、日本がん看護学会の査読委員、日本創傷・オストミー・失禁管理学会の理事および査読委員として活動した。

鈴木 琴江

日本看護学教育学会の評議員として活動した。また、日本看護学教育学会第29回学術集会査読委員として6件の投稿演題について査読審査を行うと伴に、同学術集会の座長を務めた。さらに、日本看護学教育学会誌専任査読委員として1件の投稿論文について査読審査を行った。

糸川 紅子

所属学会関連事項として、第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会(2020年2月・静岡市)にて、事務局長を務めた。また同学会総会にて、査読委員およびランチョンセミナー司会を務めた。第34回日本がん看護学会学術集会(2020年2月・東京都)にて、交流集会運営および「第31群 小児・若年者のがん」座長を務めた。また日本がん看護学会が主催する特別興味関心グループの世話人代表を務めた。研修講師として、静岡県立総合病院にてラダー4以上の中堅看護師を対象とした看護研究指導の講師を努めた。また静岡てんかん・神経医療センターにて、師長・副師長研修で講師を務めた。外部委員として、静岡赤十字病院の医療情報共有システム「シズケア*かけはし」のモデル事業にてアドバイザーを努めた。また静岡県立静岡がんセンター・認定看護師教育課程にて入試委員を務めた。その他、静岡県中部における専門看護師・認定看護師連絡協議会にて代表世話人を務めた。また『がん看護』誌(南江堂)の連載企画者を務めた。

前野 真由美

静岡県多文化共生審議会の委員として、「ふじのくに多文化共生推進基本計画」に関して意見を述べた。外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会の事務局長として、10月28日「第21回外国人のための無料健康相談と検診会」を、静岡済生会総合病院にて、開催した。

木元 千奈美

第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会（2020年2月・静岡市）の実行委員、査読委員として活動し、ポスターセッションの座長を務めた。

石切山 千恵

第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会（2020年2月・静岡市）にて、会期中運営スタッフとして活動した。

松裏 豊

公開講座において、15歳以上の静岡県民を対象に出張講義を行った。また学内の高大連携事業において、静岡市立高等学校での出張講義を行った。

老年看護学領域

安田真美

静岡県看護協会の学術研究推進委員会の委員および看護研究倫理審査委員会の委員、2020年1月18日に静岡県看護協会が開催した第8回静岡県看護学会(静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ)の査読委員、実行委員を担当した。

社会福祉法人駿府葵会 特別養護老人ホーム蜂ヶ谷園・久能の里の第3者委員を担当した。

発展看護実習(老年看護学領域)にて、健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、地域住民向けの健康教育(県大生とあたまとからだを鍛えよう)を実施した。

高大連携出張講義にて静岡県立伊東高校を担当し、出張講義を行った。

下吹越直子

発展看護実習(老年看護学領域)にて、健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、地域住民向けの健康教育(県大生とあたまとからだを鍛えよう)を実施した。

日本プライマリ・ケア連合学会誌において論文査読を行った。また、学内の高大連携事業において静岡県立御殿場南高等学校で「大学ミニ講義」を行った。さらに、静岡県立大学公開講座「家族との別れ：きれいごとでなく（自宅での親との別れ：看取りについて考えよう）」講師を務めた。

飯塚真樹

発展看護実習(老年看護学領域)にて、健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、地域住民向けの健康教育(県大生と

あたまとからだを鍛えよう)を実施した。

加藤俊枝

発展看護実習(老年看護学領域)にて、健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、地域住民向けの健康教育(県大生とあたまとからだを鍛えよう)を実施した。

4) 小児看護学領域の活動

<教育活動>

- ① 学部教育における講義・演習科目：「小児看護学概論」「小児看護学」「小児看護学演習」「卒業研究」

シラバスの内容に沿った講義と演習を、テキスト（メディカ出版「ナーシング・グラフィカ小児看護」及び医学書院「小児臨床看護学論」）を用いて展開した。

講義では、学生が小児看護をイメージできる様に、事例や視聴覚教材を用いた講義の工夫を行った。また、講義はどうしても指導型教育になってしまうため、講義終了後に必ずリフレクションペーパーを活用して学生の講義における感想と質問を聴く様にした。

演習では、子どもとの接触体験が少ない学生であることから、卒業生の子どもたち（幼児期）数名に協力をもらい、子どもと関わる体験型学習を取り入れた。また、成長発達段階に応じた正確なバイタルサインの測定や身体計測を学ぶために、モデル人形を用いた小グループ制の学習を行った。小児看護では、成長発達途上にある子どもを対象とすることから、常に安全に留意しなくてはならない。そのため、ベッドからの転落予防や輸液管理を行っている子どもの移動時の安全対策を学ぶ学習、一次救命処置（BLS）についても、小グループに分かれて学習を行った。その他、ペーパーペーシェント事例を用いて、小児看護における看護過程やプレパレーションの学習も行い、小児看護実践の具体的な方法について教授した。

4年生を対象にした「卒業研究」では、学生の興味・関心のあるテーマで研究に取り組む様に指導し、数回のゼミを通して主体性のある学習を促した。

- ② 学部教育における実習科目：「小児看護学実習」「発展看護実習」

静岡県立こども病院（乳児内科病棟、感染管理病棟、幼児・学童内科病棟、外科病棟、循環器病棟の5病棟）で、2週間の「小児看護学実習」を行った。実習目的「成長発達過程にある子どもを理解し、発達障害や健康障害のある子どもとその家族のセルフケアを支える看護実践能力を養う」のもと、学生は、原則1名の患者を受け持ち看護過程の展開と看護実践を学ぶ実習、小児外来における看護・出生体重児の看護の実際を学ぶ見学実習を行った。実習施設の実習受け入れは非常に良く、1病棟に1名の臨地実習指導者が常駐し指導を行ったので、学生の実習満足度は非常に高かった。

4年生を対象にした「発展看護実習」では、看護管理について学ぶ実習と複数の患者を受け持ち看護の優先度について学ぶ実習を4日間、地域における子育て支援の実際を学ぶ実習を4日間行った。学生は、事前の実習計画立案、実施、終了後のまとめの全ての過程で、主体的・積極的に取り組んだ。

- ③ 研究科教育における科目：「実践看護学特論Ⅳ」「実践看護学応用演習Ⅳ」

小児看護実務経験を有する修士課程の学生が対象であるため、学生の主体性を尊重した学習になる様に留意した。まずは、基盤となる小児看護でよく用いられる理論を学習した。その後、理論を用いた看護実践のプレゼンテーション、参加観察による子どもの

発達アセスメントの学習、短大部で開講されている HPS 講座に参加し他職種協働に関する学習等を行った。

小児看護の実務経験を有する修士課程の学生が 2 名いたので、お互い活発な意見交換ができていた。

<領域で行っている地域貢献活動>

① 小児看護師を対象にした看護倫理教育への支援

実習施設である「静岡県立こども病院」の看護部倫理委員会と協働して、看護師を対象に看護倫理教育研修を行った。今年度は、看護部が推進している病院内における倫理カンファレンスの定着を目標にし、看護部倫理委員会のメンバーと共に模擬倫理カンファレンスの DVD を作成し、ファシリテーター教育研修を行った。

② 難病のこどもの支援ネットワーク・全国各地でのサマーキャンプ「がんばれ共和国」

当団体は、全国の難病のこどもとその家族の支援を目的として、全国各地でのサマーキャンプを活動の中心としている団体である。この中部地区のサマーキャンプで、静岡県立こども病院の協力の下、医師、看護師、チャイルドライフスペシャリスト、理学療法士、保育士などがボランティアとして多数参加している。小児看護学の教員は、学生数名と共に参加し、日常生活の世話、入浴、一部の医療的ケア、ボランティア統括などを担った。

④ リレー・フォー・ライフジャパン静岡 2019 チーム参加

がん患者やその家族、支援者らが公園、グラウンドを 24 時間リレーしながら歩き通すことでがん患者やその家族が交流を深め、共通認識を確かめ合うためのイベントである。静岡では本学芝生園地で本学共催として毎年秋に開催され、教員は、がん撲滅のため学生と共に企画から関わり継続参加している。

⑤ 静岡県内の特別支援学校に勤務する看護師の研修の企画と開催

静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室から依頼を受け、3 月（継続看護師対象）、4 月（新任看護師対象）、年 2 回にわたる看護師研修の企画・開催を行った。

⑥ 心臓病のこどもを守る会静岡支部

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会は、医療制度の改善と社会保障及び教育制度の充実等、心臓病児者とその家族の幸せのために活動することを目的とし 1963 年に設立された。静岡支部では、専門医による講演会、学習会を定期的に開催している。今年度も県立こども病院の循環器科の医師らとともに、医療従事者として参加した。

⑦ 静岡市中央子育て支援センター：育児講演会および個別の育児相談会

静岡市中央子育て支援センターの依頼により、8 月 26 日にテーマ「あつ。あぶない、子どもの周りに潜む危険」について、11 月 14 日にテーマ「ほっと子育て講座「子どもの健康」」について、育児講演会および個別の育児相談会を実施した。

⑧ 豊橋創造大学 保健医療学部 看護学科：特別講義

看護学科 2 年生約 80 名弱に対し、小児臨床看護学 特別講義 テーマ「障害のある

子どもと家族への看護について」を実施した。

5) 母性看護学・助産学領域の活動

<教育活動>

母性看護学

母性看護学領域では、性と生殖の側面から人間の健康課題を査定し、健康の維持増進、疾病予防に向けた健康教育、看護支援の考え方、方法について教授している。担当講義科目は、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習である。母性看護学は、授業で基礎知識を学び、演習で思考過程および基礎的な技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。

カリキュラム変更に伴い、対象の理解Ⅲを母性看護学概論と名称変更し、母性看護学の対象となる女性や家族に目を向けた健康課題に関心を持って関わられるように講義を構成した。女性特有の疾患に関する病態や治療、生殖の生理について、現場で活躍している産婦人科医師による講義から診断技術の理解を深め、性感染症、不妊症、出生前診断など、報道等でも目にする機会の多いテーマを取り上げてグループでディスカッションを行った。女性の各ライフステージにおける健康課題については、学生が身近に感じられるように、例えば妊娠期では、妊婦模型を装着して「命の育み」の理解につながるように体験型学習を取り入れて授業を展開した。

母性看護学Ⅰおよび病態学Ⅴを母性看護援助論Ⅰと名称変更し、生殖の生理から、正常、異常を含めた妊娠・分娩・産褥経過について現場で活躍している産婦人科医師による講義を行い、母性看護学担当教員は、母親になることへの支援に向けて、産褥経過から新生児に関する概論的な知識と母子相互作用からみた母乳育児支援について講義を行った。

母性看護学Ⅱは、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期、母乳育児支援について、4名の担当教員がオムニバス形式で授業を行った。看護過程は、同一事例を用いながらグループおよび個人による課題学習を進め、その発表・意見交換で学習内容を深めた。

母性看護学演習では、妊産褥婦の健康診査、新生児のフィジカルアセスメント、産後に必要な癒しケア、母乳育児支援のための適切なポジショニングとラッチオンの演習を行い、各技術項目のデモンストレーションの見やすさ、指導について検討した。健康教育では、グループで企画・進行・媒体作成も含めた実施・評価の一連のプロセスを体験し、各グループで発表することにより学びを深めた。

母性看護学実習は、2週/1クール5~6人の学生が実習を行った。実習施設は、昨年度に引き続き静岡市立静岡病院、静岡赤十字病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院の6か所であった。実習内容は、2週間に1組以上の母子を受け持ち、看護過程を展開することを基本とし、受け持ち母子がいない場合には、産褥期の集団健康教育や産婦人科外来の実習を行った。実習最終日のまとめの会では、実習での学びを文献検討で考察した結果を発表し、各自の学びを深めるとともにお互いの体験を共有した。

発展看護実習Ⅰ・Ⅱは、4年生11名が母性看護学領域で実習を行った。富士市内の助産所1か所、母乳育児支援や産後ケアを行う助産所3か所、子育て支援を行っているNPO

法人の計 5 か所で実習を行った。学生は、個々に実習計画を立案して主体的に実習に取り組み、11 月には発表会を開催し、それぞれの学びを共有できた。

卒業研究は、太田・石川・藤田・中川・高木・山田(貴)が各 2 名の学生、福島・永谷が各 3 名の学生、大和田が 1 名、計 19 名の学生を担当し、合同ゼミと教員個々のゼミを組み合わせたゼミ形式で研究指導を実施した。

助産学

修士課程 2 年生 6 名、1 年生 6 名が在籍した。

昨年は、教育目標、科目編成、実習配置、教育内容について検討を重ねて、文部科学省に変更申請を行い、平成 31 年度より新カリキュラムでの助産師養成を開始した。具体的には、母子保健包括支援や助産管理学の充実、特別研究から課題研究への変更、助産学実習の期間と継続事例の受け持ち方を変更した。これまでのカリキュラムの成果や効果を評価し、更に時代や社会のニーズに即した教育を目指し、より高い学習効果の得られるカリキュラムになっている。

修士課程 1 年生の科目は、講義科目で基礎知識を学び、演習で思考過程および技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。特色ある講義科目としては、助産診断学演習において、PBL を用いた授業を展開し、学生の能動的な学習効果を狙っている。また、助産技術学演習では、妊娠期と分娩期のシミュレーションを実施し、臨床場面に近い状況を設定して演習を行った。また、妊娠期助産診断技術学と妊娠期助産診断技術学演習では、臨床での妊婦健康診査実習に向けて学内で必要な知識習得のための講義と演習を行い、臨床実習後は、担当した妊婦のケースカンファレンスを組み合わせて知識と臨床での学びを結び付け実施した。その他の講義内容としては、管理栄養士による栄養学の講義からの知識の習得、新生児蘇生法(NCPR)の講習を受講し認定を取得、フリースタイル分娩の演習、模型を用いた会陰縫合術の実施、東洋医学の専門家による鍼灸の講義と体験学習、開業助産師&鍼灸師による指圧・灸の演習、アロマセラピーの演習、妊産婦の冷えと助産ケアの講義、母乳育児支援の講義・演習、および開業助産師による講演など、助産師に必要不可欠、且つ、より豊富な知識が習得できるように内容の充実に努めた。また、リプロヘルスサポーター認定に向けての講義を受講し、避妊具に関する市場調査の報告、また看護学部 1 年生対への性教育の授業案の作成から実施、評価など、リプロダクティブヘルスに関する課題にも力を入れている。今年度も前年度同様、本学看護学部 1 年生を対象に、「助産学生が大学生に伝えたい「せい」の話～今の自分と未来の自分～」と題して性教育を実際に行った。学部 1 年生への性教育の実施について、参加した学生より高評価を得た。さらに、助産学概論では、社会のニーズや時代の流れに即して教育の充実に図るため、「周産期のメンタルヘルス」の講義を行った。さらに、助産管理論では、大学院で学んだ助産学生として、政策的に助産師の活動をとらえ将来、活動することを狙い、「助産と政策」の講義も行った。実際に「助産と政策」では、日本看護協会会長の福井トシ子先生をお迎えして公開講義を実施した。修士論文のゼミは通年でを行い、Evidence-based Midwifery のステップに基づく演

習、修士論文のための文献検討、研究課題の明確化、計画書の作成に関する指導をゼミ形式で実施した。

助産学実習は6名が履修し、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、焼津市立総合病院、静岡済生会総合病院の4か所で実習を行った。学生は、妊婦健康診査実習で、妊娠初期から末期までの妊婦に関わり、妊婦の健康審査や保健指導を行った。また、分娩介助は、妊娠中期からの継続事例1例を含め、4名が10例、2名が11例行い、6名全員が単位認定された。今年度より、分娩介助の実習を2期に分けて実施した。第1期は7週間（継続事例実習含む）、第2期は4週間とした。第1期と第2期の間に2か月ほどの期間を挟み、学内において事例を再度検討しなおしたり、分娩介助の手順を見直したり、他の実習や授業を受けることで、学生たちは、第1期での学びを深め課題を明確にすることができた。その課題を持ち第2期の実習に入ることができたため、実習での学びの効果は大きかったと考えている。次年度も同様に2期に分けて実施する予定である。地域助産学実習（第1期）では、地域の開業助産所である、エス・アールハウスで1名、おしか助産院で2名、くさの助産院で1名、渡辺助産院で2名が1週間の実習をさせていただき、地域で活躍する助産師の役割やケアについて学びを深めた。地域助産学実習（第2期）では、性教育セミナーに2日間参加し、自ら実施する性教育のプログラムの基礎を学んだ。その他に、母子保健包括支援の観点から、地域における母子の生活や助産師に活動に焦点を当て、実際の健康課題をとらえ理解するため、各学生が各々調べ、アポイントを取りフィールドワークを行った。周産期助産学演習では、昨今の対象妊産婦や新生児のハイリスク化を踏まえ、静岡県立こども病院、聖隷浜松病院、静岡済生会総合病院のNICUにおいて1週間実習を行った。

修士課程2年生は、助産学応用実習Aを履修し、自らの研究課題について探求するとともに、助産所で分娩介助1例以上を実施し、より質の高い助産ケアを修得できた。本年度は、6名が履修し、渡辺助産院で2名、おしか助産院で2名、エス・アールハウスで2名が実習を行った。

修士論文指導は、太田が主指導教員として6名、中川、藤田、石川が副指導教員としてそれぞれ1名ずつを担当した。6名が、修士論文審査と最終試験を受けて合格し、看護学修士の学位を修得できた。さらに、助産師国家試験受験資格を得て、6名が2月の助産師国家試験を受験し、全員が合格した。

その他、本学看護学部生を対象に、大学院助産学分野への受験生を増加させる目的で、助産について語る会（MJ café）を2回開催した。参加した学部生は延べ21名であり、参加後のアンケートからも、助産師や大学院進学への関心が高まった結果が得られた。

<領域で行っている地域貢献活動>

領域としては、昨年度同様、はじめて育児をする母親を支援するために、地域の母親たちの自助グループ「NPO 法人バディプロジェクト」と共催し、「ひよこママのサプリ講座（3回）」を企画運営し、小鹿キャンパス新看護学部棟実習室3、5で開催した。また、昨年

に引き続き、助産師免許を取得している本学の学部卒業生と大学院修了生を会員とした「静岡県立大学看護同窓会助産支部会」第5回を開催し、「院内助産開設までの取り組み・運営」のテーマで、村田佐登美氏(愛仁会千船病院看護師長)による講演会、および総会・交流会を行った。領域で主催した公開講義・特別講義は、「看護に生かすコミュニケーションスキル(藤野良孝先生)」、「周産期医療の夢を語る、臨床統計に親しみ、臨床研究を進めていこう」(松田義雄先生)、「フリースタイル分娩の理論と技術(中根直子先生とご安産一座)」で、県内の多くの看護師や市民の参加があった。さらに、12月14日、全国助産師教育協議会中部地区総会・研修会を、領域教員全員で企画・運営した。研修会は、公益社団法人日本看護協会会長福井トシ子氏による「妊娠期から育児期において支援を必要とする母親とその家族支援～病院そして地域へ：子育て世代包括支援センターと助産師の役割～」の講演で、参加者は68名であった。総会は、中部地区会員校教員32名が参加した。

太田は、全国助産師教育協議会の教育検討委員として、「大学院における助産師教育のモデル・コアカリキュラム2018」の活用方法について検討し、6月から中部地区長を勤め、中部地区会員校との連絡調整、2020年度中部地区総会・研修会を主催した。ペリネイタル・ロスに関しては、東京においてサポートグループ「天使の保護者ルカの会」を開催し、看護師向けには、静岡と北九州において、ペリネイタル・ロス看護師研修プログラムを主催した。また、恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター主催「周産期医療研修会 看護Aコース：産科編」、山形県母性衛生学会学術集会において、ペリネイタル・ロスについて講演を行うと共に、今年初めて、産後ドゥーラワークショップの講師を勤め、ドゥーラを目指している女性を対象に講義を行った。さらに昨年同様、静岡県看護協会主催のクリニカルラダーレベルⅢステップ研修において、「周産期領域での倫理的課題」の内容で講師を務めた。

石川は、日本助産診断学会の理事として、第25回日本看護診断学会(名古屋)で「臨床推論」のセッションを担当した。2018年度から構成された無痛分娩関係学会・団体連絡協議会に、引き続き日本看護協会の立場から委員として参加し、無痛分娩に関する看護ケアに習熟した助産師・看護師の研修・指導体制を整備した。今年度は、日本産科麻酔学会において研修を実施した。第54回日本分娩監視研究会(11月東京)の運営会長を務め、企画、当日の運営を行った。第34回東京母性衛生学会学術セミナー(2月東京)のセミナー長を務め、企画運営を行った。メディカ出版ペリネイタルケアの編集委員として、3月号の特集の企画編集を行った。日本助産学会政策委員として、藤田教員と同様、診療報酬点数改定に向けて活動、第34回日本助産学会で交流集会を企画していたが、学会開催が中止となった。日本助産師会の三部会の研修会で、東京(12月)と大阪(2月)で「現代のお産のかたち～無痛分娩～」について講演した。

中川は、日本助産学会誌の専門査読委員として、投稿論文の査読に携わった。全国助産師教育協議会の教育検討委員として、助産師教育のコア内容におけるミニマム・リクワイアメントの再検討を行った。また、一般社団法人桶谷母乳育児推進協会の研究倫理審査委員会の委員長として研究倫理審査にあたった。「産後入院中の児と皮膚接触の抱っこをする経験が1か月後の父親の意識に及ぼす影響」が令和元年度「(知)の拠点整備事業(COC事業)地域を

志向した研究」に採択され、助産学分野の大学院生と共に研究を行った。日総研出版主催で「分娩が進まない時の判断・対応とフリースタイル介助分娩」のテーマで名古屋・大阪・東京・福岡で講演を行った。第10回羽衣セミナーにおいて「新人助産師が知っておきたい母乳育児支援」のテーマで講演を行った。山梨母性衛生学会研修会では、「乳房管理の基礎」および「乳房トラブルとその対応」の講演を行った。雑誌ペリネイタルケアに、石川と共に「会陰保護術」に関して執筆した。

藤田は、静岡市男女共同参画審議員として、男女間の暴力の根絶、防災、ワークライフバランス、子育て支援を中心に取り組んだ。日本助産学会の助産政策委員として、令和2年度の診療報酬点数改訂に向けた要望書を提出した。また、助産政策ゼミを4回開催し、保険医療機関での助産師の専門性を生かすべく内容について検討した。日本助産学会広報委員会の委員としても、昨今の母子に関する課題やテーマについて広く助産師や助産学生、一般の方々への広報を行った。さらに、日本フォレンジック看護学会の理事として、性暴力被害者対応プログラムの作成検討を行い、次年度より性暴力被害者対応看護師の認定をする制度、認定試験実施体制を構築することに携わった。静岡県助産師会のメンバーと共に、オープンシステムに関する検討会を開催し、静岡における助産師の活動についても検討した。静岡県性暴力被害者支援センター（SORA）開設に際し、静岡県主催の性暴力静岡県性暴力被害について考えるシンポジウムにおいてパネルディスカッション「テーマ：性暴力を絶対に許さない社会にするために」のファシリテーターを行った。また、静岡県主催の性暴力被害者支援者研修会においても講師を務めた。

福島は、「ふじプレマリッジ・プロジェクトー婚前プログラムの開発」が令和元年度「地（知）の拠点整備事業（COC事業）地域を志向した研究」に採択され、助産学分野の学生および富士市の助産師と共にプロジェクトに取り組み、成果を報告した。

永谷は、焼津市介護保険審査会の審査委員として認定審査に携わった。日本母性看護学会での平成30年度助成金を受け、第21回日本母性看護学会学術集会にて「更年期症状を有する就労女性のセルフヘルプ認知行動療法による健康プログラムの効果」の口演発表を行った。第18回日本更年期と加齢のヘルスケア学会学術集会においては、実行委員および「更年期女性へのメンタルヘルス支援のためのスキルアップセミナー」セッション1「更年期症状へのセルフCBT」（アドバンス助産師更新要件の「ウイメンズヘルスケア研修」該当プログラム）の講演を行った。また、更年期と加齢のヘルスケアの学会誌Vol.18では、第17回日本更年期と加齢のヘルスケア学会学術集会のワークショップで発表した「キャンパス内の「女性健康相談室」」について執筆した。

山田は、日本助産学会誌の査読委員として、投稿論文の査読に携わった。2019年度静岡県看護協会主催「看護学校等連絡説明会」に出席し、学生と共に高校生からの質問に応じた。令和元年度社会福祉法人明和会福祉研修会に講師として出席し、講評を行った。

高木は、「産後早期の母親の産後うつ状態の変化及び要因に関する研究ー地域での早期母子支援の在り方についてー」が令和元年度「地（知）の拠点整備事業（COC事業）地域を志向した研究」に採択され、看護学部生およびNPO法人 place of peace のスタッフと共にマタニ

ティ夫婦向けプログラム「もうすぐ赤ちゃんがやってくる」を企画し報告した。また、静岡市助産師会に所属し、広報パネル作成、アイセルわいわい祭りでの保健指導を担当した。

大和田は、NPO 法人 place of peace の会員として、城東子育て支援センターあんとにてパートナーが妊娠中の父親を対象とした「ハッピーパパマタニティ講座」を企画・実施した。

6) 精神看護学領域の活動

<教育活動>

精神看護領域では、人間関係論、精神看護学概論（旧カリ：対象の理解Ⅳ、病態学Ⅳ）、生涯発達心理入門、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習、臨床心理学入門を担当している。また他の領域と共同で行う授業では、最新看護の動向、発展看護学実習、災害看護演習を担当した。

講義では継続して体験学習や少人数学習方式を積極的に取り入れ、学生が主体的に考え、互いの語り合いの中から新たな学びを広げられるよう、全体の授業構成を工夫している。具体的には、精神科病院での見学実習と実施後の学内での学びの発表、看護学部棟実習室でのリラクゼーション法の演習、スマートログなどを用いた睡眠動態の把握による看護ケアプランの検討、ペーパーペイシェントを用いた看護過程の展開やプロセスレコードの作成等を行っている。なおリラクゼーション演習は生涯発達心理入門、精神看護学演習、精神看護学概論の講義にまたがって実践を行った。

さらに、授業から実習への効果的な移行を意図して、外部講師を招聘し臨床現場の実際（精神科訪問看護、当事者からの体験談、司法精神看護、精神科の看護管理）についての講義を実施している。現場のリアルな状況について看護職から直接お話を聞けることは、適度な緊張感とともに学生の学習意欲や問題意識を高め、実習へのモチベーションを高める効果をもたらしている。

精神看護学実習では1週目は病院内、2週目は地域の社会復帰施設(作業所等)で実習する形態へと変更しているが、退院後の精神障がい者の生活の実態、社会復帰へ向けた課題、入院時から退院後の生活を視野に入れた精神看護援助の必要性等、精神障がい者に対する学生達の理解と学びの幅が広がった。精神看護実習期間中はすべての学生と教員が個別面接の機会を保障し、精神科医療に対して抵抗感のある学生への支援や、悩みを抱えて実習が困難な学生の早期発見と対応を随時行った。発展看護実習、災害看護演習、卒業研究では、各学生が自分の実習テーマ、研究テーマをもち、担当教員や臨床の協力を得て目標達成へつなげる取り組みを展開している。

最新看護の動向では、国内外の精神保健福祉の領域をけん引する講師を招聘して、講義を行った。臨床心理学入門、生涯発達心理入門では学内外の心理職や、LGBTの当事者や、障害を有する当事者の家族等の話を聞く機会を設けながら、心理学全般や、生涯発達の基礎について学ぶ機会を提供しながら講義を展開した。

大学院では広域看護学特論Ⅱを担当し、主にケース検討などを行いながら臨床場面の振り返りと知見に基づく最適な支援について検討した。また他の領域の助産学および在宅看護学の研究の修士学生の副指導を行った。

<領域で行っている地域貢献活動>

篁は、静岡市の自殺対策推進協議会の会長、認知症対策推進協議会の会長、精神医療審査会の審査委員、日本学校メンタルヘルス学会の理事・評議員の役割や清水市立看護専門

学校の非常勤講師を担当した。

長澤は静岡県看護協会の専任教員養成講習会講師を担当した。

村方は全国訪問看護事業協会などの研修会のファシリテーター、静岡県訪問看護事業協会講師、清水市立看護専門学校の非常勤講師等を担当した。

遠藤は、清水市立看護専門学校の非常勤講師を担当した。

近藤は静岡市の福祉施設みらいの外部委員、静岡県看護協会の専任教員養成講習会講師を担当した。

7) 公衆衛生看護学領域の活動

<教育活動>

学部教育では、30年度新カリの開始に伴い、公衆衛生看護学概論が1年生後期に、ヘルスプロモーションが2年前期、公衆衛生看護活動論Ⅰが2年生後期となった。公衆衛生看護学の定義や理念に基づき、ゲストスピーカーをお招きし、学生が地域で生活している住民や保健師活動を具体的に理解できるよう配慮した。3年生の公衆衛生看護活動論Ⅱの授業では、地区診断の講義後に母子と高齢者の2事例を活用して地区診断の手法を学ばせ、9月から開始された公衆衛生看護学実習Ⅰにつなげた。4年生の公衆衛生看護学演習では、保健師資格取得希望者全員に乳児の家庭訪問に必要な技術の基本について学習させた。また、事前学習ノートにより個人・グループでの自己学習を通し、公衆衛生看護学実習Ⅱにつなげた。

4年生の公衆衛生看護学実習Ⅱは、5月～7月に行政、産業、学校に分かれて2週間の実習を行った。行政における実習施設は、静岡県富士健康福祉センター、富士市保健センター、富士宮市保健センター、静岡県中部健康福祉センター、焼津市保健センター、島田市保健福祉センター、吉田町保健センター、牧之原市総合健康福祉センター、静岡市藁科保健福祉センター、同北部保健福祉センター、同南部保健福祉センター、同長田保健福祉センター、同清水保健福祉センター、同蒲原保健福祉センターであった。主な実習内容は、乳幼児健康診査や健康相談等各種事業に参加し、地域住民のニーズに応じてどのように保健事業が行われているかを、3年生後期で学んだ公衆衛生看護学実習Ⅰにおける地区診断の取り組みを可能な限り意識させながら学習させた。さらに、各学生が家庭訪問に同行し、行政保健師が行う家庭訪問の実際について学んだ。

産業における実習では、18人の学生がJR東海とジヤトコ(株)で実習した。主な実習内容は、健康診断、健康相談、職場巡視等の参加や健康教育等の実施を通し、労働衛生の5管理、産業看護職の役割や多職種との連携について学んだ。

学校における実習では、16人の学生が4グループに分かれ、静岡市立美和中学校、同伝馬町小学校、同新通小学校、同宮竹小学校、静岡県立静岡北特別支援学校、同静岡南部特別支援学校、同中央特別支援学校、同清水特別支援学校、静岡県立大学健康支援センターで実習を行った。主な実習内容は、保健室活動、学級活動の参観、校内巡視、保健教育や保健揭示物の作成等を通し、学校看護活動の実際や養護教諭の役割について学んだ。

国際保健・看護演習及び実習は希望者がいなく行わなかった。

3年生の公衆衛生看護学実習Ⅰでは、2週間/1クールで、109人の学生が実習を行った。実習施設は、静岡県富士健康福祉センター、富士市保健センター、富士宮市保健センター、静岡市保健所、静岡市城東保健福祉センター、同大里保健福祉センター、同東部保健福祉センター、同清水保健福祉センター、同長田保健福祉センター、静岡県中部健康福祉センター、焼津市保健センター、牧之原市保健センター、吉田町保健センター、島田市保健福祉センターであった。主な実習内容は、担当地域（主に小学校区）を選定し、地図の作成、統計資料の読み取り、地区踏査、住民や専門職からの聞き取り、地域保健活動の参加などを通し、地

域の健康課題をアセスメントする実習に取り組んだ。

今年度から開始となった公衆衛生看護基礎実習は、2年生後期に地域に暮らす住民の健康のために活動している、保健所、市町村保健センター、事業場、健康診断機関の機能と、そこで働く保健師の役割を学んだ。行政機関としては、静岡市保健所、静岡県富士健康福祉センター、静岡県中部健康福祉センター、および富士市、富士宮市、焼津市、牧之原市、吉田町、島田市と静岡市各保健福祉センター、事業場としてはジヤトコ株式会社、スズキ株式会社相良工場、(株)アマダ富士宮事業所、健康診断実施機関としては聖隷健康診断センター、聖隷健康サポートセンターShizuoka、SBS 静岡健康増進センター、静岡市静岡医師会健診センターMEDIO、静岡厚生連静岡厚生病院、静岡厚生連清水厚生病院で行った。

各実習場ではオリエンテーションの他、保健師活動の実際を見学、施設見学や各種事業に参加し、地域住民や労働者の保健行動や健康課題が様々であることを学ぶことができた。実習最終日には、各実習場での体験や学びを発表することで、学習内容の共有化と各施設における保健師の役割について検討した。様々な保健活動の場を実習することで、保健師資格取得のための選択を検討する機会となった。

<領域で行っている地域貢献活動>

静岡市新任保健師研修に協力し、新任期1～3年目の保健師を対象に、地区活動に関する講義を6月に行った(佐藤・深江)。9月には、2年目保健師に、12月には、1年目保健師と2年目保健師の各新任保健師が実際に地区診断を行うプロセスを支援した(佐藤・望月・安藤・深江)。3月には、地区活動の発表会に参加し、各保健師の地区診断の取り組み状況をふまえ、次年度にどのように繋げていくかといった観点で各教員が講評を行った(佐藤・望月・安藤・杉山・深江)。

静岡県医療健康局健康増進課からの依頼で、県健康福祉センターと県内市町の新任保健師を対象とする新任地域保健従事者研修会に講師として協力した。(杉山) また賀茂健康福祉センター及び中部健康福祉センターの管内保健従事者新任研修の講師として協力した。(杉山・岩本)

富士市の保健師全員を対象とした富士市地区活動研修の協力を行った。(深江・安藤)。

富士健康福祉センター及び御殿場健康福祉センターからの依頼で、令和元年度管内地域保医療・福祉活動研究会(杉山)、また富士管内新任地域保健従事者研修の発表内容に関する助言・講評を行った(佐藤)。

そのほか、裾野市(深江・杉山)、御前崎市(深江)、東部地区産業保健研究会(杉山)などからの依頼で保健師への研修講師として出向いた。

8) 在宅看護学領域の活動

<教育活動>

疾病や障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、人々の生活の質向上に貢献する看護を展開するために必要な知識と看護技術を修得することを教育活動の目的としている。学部の科目編成は、「地域包括ケア」「地域家族支援論」「在宅看護学」「在宅看護学演習」「在宅看護学実習」「発展看護実習」「卒業研究」である。看護学研究科においては、共通科目選択「家族看護論」と専門科目では「広域看護学特論Ⅰ」「広域看護学応用演習Ⅰ」「広域看護学特別研究」である。

在宅看護学領域においては、地域包括ケアや在宅看護の展開に必要な知識・判断・看護技術・療養環境の整備等について、学生自らが主体的に学ぶ姿勢を養うアクティブラーニングを活用している。学部1年生の「地域包括ケア」では、地域住民を中心とした地域包括ケアにおいて、あらゆる健康状態にある人々の生活を支える多職種連携と、看護専門職者の役割・機能について理解を深めること、学部2年生の「地域家族支援論」では、現代の多様な家族の健康課題への支援について理解を深めることを学習目標としている。

学部3年生では「在宅看護学」の学びを基盤とし、「在宅看護学演習」は、地域包括ケアシステム推進に取り組む講師による活動事例の紹介と、静岡市内の地域包括支援センターを拠点に多職種連携の実践を学ぶフィールドワークで構成されている。「在宅看護学実習」は、①訪問看護実習（訪問看護事業所での実習および医療機関における在宅復帰を予定する患者を中心とした多職種連携を学ぶ実習）と、②在宅ケア実習（在宅療養を支える関連施設での実習および重症心身障害児者通所施設での実習）で構成されている。

看護学研究科では、地域看護学専攻2年生2名が、修士論文を提出することができた。
青木 瞳 「独居高齢者を支える訪問看護師の判断プロセス—脳卒中合併症の予防に焦点をあてて」
長谷部美紀 「生活への適応過程にある高齢ストーマ保有者と家族を支える訪問看護実践」

<領域で行っている地域貢献活動>

富安真理

- 1) 静岡市 在宅医療・介護連携協議会委員として、実施計画の検討を目的とした会議に参加した。啓発研修部会 部会長として、専門職向け研修会の企画を担当した。
- 2) 静岡市健康福祉審議会委員、介護保険専門分科会会長として、議会運営に参画した。
- 3) 静岡県薬剤師会主催（東・中・西部地区開催）「令和元年度退院時カンファレンスに関する研修会」において、講義「在宅医療における多職種連携の重要性」を担当した。

田中悠美

- 1) 静岡市障害支援区分認定等審査会の審査委員として、清水区での審査会議に参加した。
- 2) 静岡県訪問看護ステーション協議会 新卒訪問看護師育成員会の委員として、会議に参加し、静岡県の新卒訪問看護師育成に関する PR ビデオの企画・作成に携わった。

9) 国際看護学領域の活動

<教育活動>

国際看護学領域

国際看護学は、すべての人々の健康維持・改善のために、地球規模の健康格差との背景を学び、国際保健における看護の役割と実際を学ぶ学問である。本領域では、災害看護も担当している。従って、学生は、国内外で起こる災害の種類、災害対策・疾患予防や、災害時支援における看護の役割と実際についても学習する。開発途上国、先進国、在留外国人の健康問題、災害発生前の対策や発生後について、それぞれの国・文化・宗教・言語などを考慮した看護について理解を深め、文化的能力を身につけるべく、学習し実践する。

2019年度の教育的取り組みの1つは、昨年度同様、国内外で活躍する国際保健・災害医療の実践家・教育者・研究者たちを「国際保健・災害看護論」「国際看護論」「発展看護実習」にゲスト講師として招き、講義のみならず、討論やワークショップの場を設けたことである。学生は、多職種連携・各専門職の役割・国際支援に対する異なる専門職者の考えを学ぶことができた。2つ目の取り組みは、「国際看護論」「発展看護実習」で、学生が在留外国人と交流・意見交換する場と課題を設けたことである。地域の在留外国人と対話することで、在留外国人の医療格差・ニーズについて理解を深め学習することができた。

3つ目の取り組みは、本大学のプロジェクトの1つである「文部科学省・大学の世界展開力強化事業～Collaborative Online International Learning (COIL)型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」に積極的に取り組み、3度のCOIL授業を達成したことである。初回は2019年5月21日に、聴講生含む「国際保健・災害看護論」履修の2年生と編入3年生（計122名）対象に米国のオレゴン健康科学大学のRuth Taddese講師と共に「US healthcare system: A nursing perspective」の授業を行った。2回目は、同年7月9日に同科目の学生計122名対象に、「災害看護論」の中でもアフリカの難民医療に焦点を当てた「South Sudanese: A refugee population in crisis」について、米国ポートランド大学教員のDr. Laura Mood講師と共に授業を行った。どちらのCOIL授業も、現地時間は21時開始であったため米国看護学生の参加は不可能であったが、米国教員と本学部生が積極的に対話する機会を設けた。3回目は同年11月14日に「最新看護の動向」「大学院特別授業」として4年生と院生を対象にCOIL授業を開催した。これは、上智大学看護学部・ポートランド大学看護学部・ドルノゴビ医科大学看護学部の教員たちと協働し、本邦初の3カ国4大学参加の看護学生のためのCOIL授業である。テーマは「Sex Education in Youth」とし、各大学から1つの学生グループがテーマに沿った各国の問題・状況・看護について発表を行った後、ディスカッションの時間を設けた。本学部からは、助産学専攻の院生2名も性教育の取り組みについて英語で発表を行った。これら3つのCOIL授業を通し、本学生たちは各国の医療や看護問題について学習するだけでなく、異文化理解を深め、国際性を学び実践することができたと思われる。

4つ目の取り組みとして、大学間協定校や Collaborative Online International Learning (COIL) 提携校との教員間交流を深めたことである。8月に、根岸は米国オレゴン州ポー

ポートランド大学看護学部にて Dr. Layla Garrigues と共に、また、オレゴン健康科学大学では Dr. Kathie Lasater、Dr. Ann Nielsen、Ruth Taddese 講師と共に本学や他大学の看護教員・学生計 8 名（本学教員 1 名、学部生 1 名含む）を対象にしたシミュレーション教育について短期研修を開催した。その後、ポートランド大学看護学部の Dr. Layla Garrigues と、2019 年 11 月に開催した COIL 授業の打ち合わせや今後の共同研究について会議を行った。2020 年 1 月 7 日には、根岸と渡邊がコンケン大学看護学部を視察し、次年度の交換留学生や 2021 年度開講の「国際保健・看護実習」について打ち合わせを行った。実習施設の訪問も行った。1 月 9 日にはバンコク市内のマヒドン大学看護学部の視察を行った。マヒドン大学と本大学は大学間協定を結んでいるが、看護学部同士の交流はない。今後は、さらに教員間交流を深め、本学部生の実習の可能性について検討したい。

5 つ目の取り組みとして、新カリキュラムの「災害看護セミナー」を開講した。これは 2 年生と編入 4 年生が必修の科目である。今年度は、留年した 3 年生 10 名も参加し合計 133 名が履修した。科目責任者である根岸は、県の防災センター職員、静岡赤十字病院の救護法インストラクター看護師、県の DMAT 看護師の協力のもと、4 日間にわたる演習を行った。

6 つ目の取り組みとして、2020 年 2 月にポートランド大学看護学部長を招聘し特別講義開催と本学視察予定であったが、1 月以降に本国でアウトブレイクし世界的にもパンデミックとなったコロナウイルスの影響で招聘は中止となった。

これら 5 つの取り組みは、本学生に、国際看護や災害看護をより多角的・多文化的に学習する機会や選択肢を提供するだけでなく、学生がオーセンティックラーニングの実践を行うことに繋がった。次年度も①本領域での COIL 授業の促進を図り、②「災害看護セミナー」の充実化、③海外協定・提携校教員との共同研究の打ち合わせを行い災害対策と看護実践の教育を目指す。

<領域で行っている地域貢献活動>

国際看護学領域

4 年生対象の発展看護学実習では、履修生が JICA 静岡デスクの山口実香氏（看護師）と芦川咲氏（保健師）と共に GO 視点でのワークショップを行い、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、SDGs）の理解を深めた。その中で、いくつかの SDGs の目標を国内外の医療問題と結びつけ、学生や看護師として地域貢献に繋げるために何が必要かも学び、その後の発展看護実習を通して実践を行った。

2019 年 11 月には、発展看護学履修の 4 年生 3 人が、静岡市の済生会病院で行われた「外国人のための無料健康診断と検診会」に参加し、地域の在留外国人の血圧・身長・体重測定などを行ったり、県内の多職種ボランティアスタッフとの交流を図った。学生たちは、検診会に来た在留外国人たちそれぞれへの健康教育に対する声掛けなども行った。この実習を通し、学生は地域に暮らす在留外国人への理解を深め、文化的能力の実践も発揮することができた。これらの活動も、県内の国際交流と保健医療協力という形で地域貢献になったと考える。

2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動

1) 各教員の活動報告

(1) 研究活動

原著論文

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
金澤寛明	Effect of the methanol extract of the Lion's Mane mushroom, <i>Hericium erinaceus</i> , on bone metabolism in ovariectomized rats., N. Morita, H. Matsushita, A. Minami, S. Shimizu, R. Tachibana, H. Kanazawa, T. Suzuki, K. Watanabe, A. Wakatsuki, <i>Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology</i> , XLVII, n. 1, 2020, p.83-88
井上健一郎	Tanaka M, Inoue K, Shimada A, Mimura T, Takano H. Effects of repeated pulmonary exposure to carbon nanotubes on lung function. <i>Toxicol Environ Health Sci</i> 11:120-124, 2019.
	Komai M, Mihira K, Shimada A, Miyamoto I, Ogihara K, Naya Y, Morita T, Inoue K, Takano H. Pathological Study on Epithelial-Mesenchymal Transition in Silicotic Lung Lesions in Rat. <i>Vet Sci</i> . 2019 Aug 30;6(3). pii: E70
	Inoue K, Takano H, Shimada A. Effects of diesel exhaust particles on apoptosis related to lung inflammation. <i>Biochem Res</i> (in press).
田中範佳	Change of heat pain sensitivity during the menstrual cycle in Japanese young adults. Takahiro Kakeda, Kei Takani, Kouichi Takaoka, Noriyoshi Tanaka, Yuichi Ogino. <i>Pain Research</i> . in press.
藤田景子	ドメスティック・バイオレンス加害者と別居後の母親とその子どもの生活, 藤田景子, 島田啓子, 日本フォレンジック看護学会, 6巻2号, 2020. (掲載決定)
下吹越直子	Development of an Assessment Scale for Commencing Home-visit Nursing in Japan: Examining the Construct, Naoko Shimohigoshi, Rika Yathushiro, <i>Home Health Care Management & Practice</i> , Vol.31, No.3, 186-192, 2019.
	在宅看護論における「訪問看護ステーション実習」の研究の動向と課題, 下吹越直子, 八代利香, <i>看護科学研究</i> , Vol.17, No.2, 45-50, 2019.
福島恭子	「静岡県の産科有床診療所における大地震対策-現状と課題」、福島恭子(1)、 <i>日本災害看護学会誌</i> , Vol.20、No.3、50-60、2019.
三崎健太郎	Evaluation of algal photosynthesis inhibition activity for dissolved organic matter with the consideration of inorganic and coloring constituents, K. Misaki, Y. Morita, K. Kobayashi, Y. Sugawara, Y. Shimizu and T. Kusakabe(6),

原著論文

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
	Chemosphere, 224, 333-342, 2019.
	Detection of DNA damage formation by natural organic matter using EGFP-fused MDC1-expressing cells, K. Misaki, S. Matsuda, T. Matsuda, T. Kusakabe and Y. Shimizu(5), Chemosphere, 235, 169-174, 2019.
松 裏 豊	「Upregulation of calcitonin gene-related peptide, neuronal nitric oxide synthase, and phosphorylated extracellular signal-regulated kinase 1/2 in the trigeminal ganglion after bright light stimulation of the eye in rats」, Shinji Okada, Hiroto Saito, Yutaka Matsuura (11名), Journal of Oral Science, Vol. 61, No. 1, P146-155

総説

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
青 木 和 恵	「がん患者の創傷・皮膚障害とそのケア」、青木和恵(1名)、がん看護 Vol. 24 No. 8、P715-718、2019.
	「がん患者の創傷・皮膚障害への創傷・スキンケアの展開」、青木和恵(1名) がん看護 Vol. 24 No. 8、P719-723、2019.
山 下 早 苗	日本の小児医療現場における意思決定と看護介入に関する文献レビュー. 丸山始美、山下早苗, 日本小児看護学会誌, 28巻, 228-234. 2019.
深 江 久 代	神経難病患者の社会参加と意思決定支援 深江久代・待井三千代 Medical Rehabilitation No.243 73-79 2019.
永 谷 幸 子	高齢者の看護にいかす サルコペニアとフレイルの知識、永谷幸子(4名)、月刊ナーシング、39、P110-119、2019.
管 原 清 子	臨床の看護現場で看護師が感じる倫理的ジレンマ、管原清子 (2)、月刊ナーシング、39巻、P92-98、2019.
	サルコペニアとフレイルの知識、永谷幸子・管原清子(4)、月刊ナーシング、39巻、P110-119、2019.
糸 川 紅 子	手足症候群 ～加圧コントロールがケアの決め手～、糸川紅子、がん看護、Vol. 24 No. 8、pp724-727、2019.
池 田 麻 左 子	てんかんの子どもの関連図：学童期、池田麻左子、子どもと家族のケア、第14巻第1号、73-78、2019.
	重症心身障がい児施設での学生指導における倫理的感受性の視野を広げる教育支援、池田麻左子、小児看護、第42巻第5号、551-557、2019.

総説

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
池田麻左子	福祉施設における看護実践、池田麻左子、小児看護、第42巻第6号、717-722号、2019.
	療育施設における入退院(所)支援、池田麻左子、小児看護、第42巻第8号、925-932、2019.
	在宅ケアを必要とする子ども・家族への看護、池田麻左子、小児看護、第42巻第11号、1439-1444、2019.

著書(翻訳を含む)

氏名	著者名、書名、発行所、発行年	単著・共著・編著・分担執筆の別	総頁数	執筆頁数
山田紋子	黒田裕子編(13名), NANDA-I-NIC-NOCの基本を理解する—最新の動向と看護計画への活用の仕方 第2版, 医学書院, 2019.	共著	272	27
藤田景子	藤田景子、加納尚美、鈴木琴子、家吉のぞみ、藤井ひろみ、嶋澤恭子、李節子、小笠原和美(8名)、大人になる前に知る 性のこと 他人を尊重し、自分を大切にす、ペリカン社、東京、2019.	共著	169	10

教科書の執筆・作成

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年	単著・共著の別
深江久代	松田正己、他(18名)「標準保健師講座3対象別公衆衛生看護活動」医学書院2019.	共著
山口みのり	山口みのり他(61名)、クエスチョン・バンク Select 必修2020、メディックメディア、2019.	共著
	山口みのり他(45名)、2020年度版 准看護師試験問題集、医学書院、2019.	共著

紀要

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
前野真由美	「静岡県における医療通訳の現状と課題ー学際的アプローチからの知見ー」, 水野かおる・前野真由美(6名), 『国際関係・比較文化研究』(静岡県立大学国際関係学部), 第18巻1号, p67-85, 2019.
下吹越直子	米国におけるルーラルナーシングの教科書の内容分析, 肥後惟乃, 下吹越直子, 八代利香, 鹿児島大学医学部保健学科紀要, Vol. 29, No. 1, 1-6, 2019.
根岸まゆみ	米国におけるシミュレーション教育に関する視察報告: エビデンスに基づいた看護教育方法の実際, 赤崎美美, 細田泰子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子, 北島洋子, 米田真央(7人) 大阪府立大学看護学雑誌 26(1) 2020年
山田貴代	子育て世代包括支援センターの現状と課題, 高木静, 東野定律, 山田貴代, (3), 経営情報イノベーション研究, 第8巻, p. 1~p. 10, 2019.
高木 静	子育て世代包括支援センターの現状と課題, 高木静(3名), 経営情報イノベーション研究, 8巻, 1-10, 2019.
岩本真弓	「不登校児童生徒の主体的な学習環境づくり」, 岩本真弓, 寺澤孝文(2名) 静岡県立大学・経営情報学部/研究紀要, 32(1)11-20, 2019.
	「静岡市における地域包括支援センター職員の連携実態」, 岩本真弓, 木村綾, 東野定律, 静岡県立大学・経営情報学部/研究紀要, 32(2), 2020.
	「急性期病院の非財務業績指標に関する文献的検討」, 大冨賀政昭, 木下隆志, 筒井孝子, 岩本真弓東野定律, 静岡県立大学・経営情報学部/研究紀要, 32(1)1-8, 2019.

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル、著者名(著者総数)、冊子名、巻、始頁と終頁、発行年
篁 宗一	ライフログを活用したメンタルヘルスマネジメント演習, 近藤美保, 遠藤りら, 長澤利枝, 村方多鶴子, 篁宗一(5名). 看護教育 61(2), 162-166, 2020.
	「精神科医療施設における地震災害対策上の工夫と課題ー静岡 DPAT 協力病院に対する調査からー」長澤利枝, 篁宗一, 近藤美保, 遠藤りら(4名), 「2019 US フォーラム」, p 262, 2019.
	「看護大学生の化粧行動に表れる精神的健康状態の影響」近藤美保, 遠藤りら, 村方多鶴子, 長澤利枝, 篁宗一(5名), 「2019 US フォーラム」, p 254, 2019.
	「幼児と保護者・教員を対象としたメンタルヘルス教育の開発に関する縦断評価」篁宗一、挑戦的萌芽研究科学研究費助成事業研究成果報告書
	防災の備えと「こころの健康」プログラムの開発, 篁宗一, 長澤利枝, 清水隆裕(3名) ふじのくに地域・大学コンソーシアム共同研究助成事業助成金実績報告書, 2020.
	高校生の「こころの病」の教育に向けたツール開発, 篁宗一, 遠藤りら, 近藤美保(3名), 地(知)の拠点(COC)事業地域を志向した研究成果報告書, 2020.

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル、著者名(著者総数)、冊子名、巻、始頁と終頁、発行年
太田尚子	大学院における助産師教育のモデル・コアカリキュラム 2018 の活用チェックシート、北川眞理子、小笹幸子、太田尚子、名取初美、杉下佳文、久保田君枝、谷口通英、高田昌代、大原良子、渡邊典子(10名)、公益社団法人全国助産師教育協議会、P1-73、2019.
	現行の助産師教育におけるコアカリキュラム 2018 活用チェックシート、北川眞理子、小笹幸子、太田尚子、名取初美、杉下佳文、久保田君枝、谷口通英、高田昌代、大原良子、渡邊典子(10名)、公益社団法人全国助産師教育協議会、P74-141、2019.
富安眞理	2018 年度全国訪問看護事業協会研究助成(一般) 報告書 青木瞳(著者5人)、50頁、2020.
	2018 年度在宅医療助成勇美記念財団 在宅医療への助成(一般公募) 長谷部美紀(著者2人)、20頁、2020.
	平成31年度厚生労働行政推進調査事業補助金地域医療基盤開発推進事業報告書 林直子(分担 富安7頁)、2020.
長澤利枝	ライフログを活用したメンタルヘルスマネジメント演習、近藤美保、遠藤りら、長澤利枝、村方多鶴子、篁宗一(5名).看護教育 61(2)、162-166、2020.
	「精神科医療施設における地震災害対策上の工夫と課題～静岡 DPAT 協力病院に対する調査から～」長澤利枝、篁宗一、近藤美保、遠藤りら(4名)、「2019 US フォーラム」、p 262、2019.
	「看護大学生の化粧行動に表れる精神的健康状態の影響」近藤美保、遠藤りら、村方多鶴子、長澤利枝、篁宗一、「2019 US フォーラム」、p 254、2019.
	防災の備えと「こころの健康」プログラムの開発、篁宗一、長澤利枝、清水隆裕(3名)、ふじのくに地域・大学コンソーシアム共同研究助成事業助成金実績報告書、2020.
	ふじのくに地域・大学コンソーシアム 共同研究助成事業助成金実績報告書、2020.
村方多鶴子	ライフログを活用したメンタルヘルスマネジメント演習、近藤美保、遠藤りら、長澤利枝、村方多鶴子、篁宗一(5名).看護教育 61(2)、162-166、2020.
	「看護大学生の化粧行動に表れる精神的健康状態の影響」近藤美保、遠藤りら、村方多鶴子、長澤利枝、篁宗一(5名)、「2019 US フォーラム」、p 254、2019.
中川有加	Roots 今、ここにいる理由、中川有加(1名)、ペリネイタルケア、38巻5号、p7、2019.
	見てわかる搾乳手技、中川有加(10名)、ペリネイタルケア、39巻3号、pp42-48、2020.
石川紀子	「助産外来・院内助産の組織、運営、評価に関する調査報告について」石川紀子 日本助産評価機構機関紙 Vol. 5, 7, p30-32, 2019.

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル、著者名(著者総数)、冊子名、巻、始頁と終頁、発行年
杉山眞澄	児童相談所の保健師が情報交換 杉山眞澄 保健師ジャーナル Vol. 75, No. 11, 950-954, 2019.
前野真由美	「第21回外国人のための無料健康相談と検診会 検診結果報告」, 前野真由美(6名), 「第21回外国人のための無料健康相談と検診会報告集」, P8-P20, 2019.
	「第21回外国人のための無料健康相談と検診会 検診会受診者アンケート集計結果」, 前野真由美(3名), 「第21回外国人のための無料健康相談と検診会報告集」, P21-P23, 2019.
下吹越直子	「訪問看護導入に伴うアセスメントツールの開発」研究活動スタート支援成果報告, 下吹越直子, 科学研究費助成事業研究成果報告書, 2019.
	「気づく」ための学び: コンセプトを基盤とした学習活動 (Concept Based Learning Activities) を用いた段階的学習の試み, 根岸まゆみ, 下吹越直子, 医学書院 看護教育, 142-151, 2020.
永谷実穂	キャンパス内の「女性健康相談室」、永谷実穂、更年期と加齢のヘルスケア Vol. 18、p 78-82、2019.
	第17回学会奨励賞を受賞して、永谷実穂、更年期と加齢のヘルスケア Vol. 18、p 114-115、2019.
根岸まゆみ	「気づく」ための段階的な学び: 老年看護学でもコンセプトを基盤とした学習活動 (Concept Based Learning Activities) を用いた段階的学習の試み、根岸まゆみ、下吹越直子(2人)、看護教育 61(2) 142-151 2020.
近藤美保	ライフログを活用したメンタルヘルスマネジメント演習, 近藤美保, 遠藤りら, 長澤利枝, 村方多鶴子, 篁宗一(5名). 看護教育 61(2), 162-166, 2020.
	「精神科医療施設における地震災害対策上の工夫と課題～静岡 DPAT 協力病院に対する調査から～」長澤利枝, 篁宗一, 近藤美保, 遠藤りら(4名)、「2019 US フォーラム」、p 262, 2019.
	「看護大学生の化粧行動に表れる精神的健康状態の影響」近藤美保, 遠藤りら, 村方多鶴子, 長澤利枝, 篁宗一(5名)、「2019 US フォーラム」、p 254, 2019.
	高校生の「こころの病」の教育に向けたツール開発、篁宗一、遠藤りら、近藤美保(3名)、地(知)の拠点(COC)事業地域を志向した研究成果報告書、2020.
遠藤りら	ライフログを活用したメンタルヘルスマネジメント演習, 近藤美保, 遠藤りら, 長澤利枝, 村方多鶴子, 篁宗一(5名). 看護教育 61(2), 162-166, 2020.
	「精神科医療施設における地震災害対策上の工夫と課題～静岡 DPAT 協力病院に対する調査から～」長澤利枝, 篁宗一, 近藤美保, 遠藤りら(4名)、「2019 US フォーラム」、p 262, 2019.

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル、著者名(著者総数)、冊子名、巻、始頁と終頁、発行年
遠藤りら	「看護大学生の化粧行動に表れる精神的健康状態の影響」近藤美保, 遠藤りら, 村方多鶴子, 長澤利枝, 篁宗一(5名)、「2019 USフォーラム」、p 254, 2019.
	高校生の「こころの病」の教育に向けたツール開発、篁宗一、遠藤りら、近藤美保(3名)、地(知)の拠点(COC)事業地域を志向した研究成果報告書, 2020.

特別講演・招待講演

氏名	講演のタイトル	学会の名称	講演時間	開催地	発表日
井上健一郎	粒子状物質と炎症性呼吸器疾患の感受性	第42回日本分子生物学会年会	15分	福岡市	2019/12/3
青木和恵	原点と躍動	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	30分	静岡市	2020/2/8
太田尚子	周産期に子どもを亡くした家族へのグリーフケア	第42回山形県母性衛生学会学術集会	120分	山形市	2019/11/10
藤田景子	妊娠期に見逃さないで！ドメスティック・バイオレンス～周産期のDV・子ども虐待にどう取り組むか？～	第35回東京母性衛生学会	60分	東京都	2020/6/19
鈴木和香子	学校での医療的ケアが必要な児童生徒を中心とした専門職アプローチ(ミニシンポジウム)	日本小児診療多職種研究会	90分	静岡市	2019/2/2
永谷実穂	更年期症状へのセルフCBT	日本更年期と加齢のヘルスケア学会	70分	東京都	2019/10/1
三崎健太郎	粒子状物質と炎症性呼吸器疾患の感受性	第42回日本分子生物学会	12分	福岡市	2019/12/3

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
井上健一郎	ディーゼル排気粒子は抗原提示細胞を介して Th2 免疫応答を増幅させる	第 68 回日本アレルギー学会学術大会	東京都	2019/ 6/15
荒井孝子	Learning effects of tactile knowledge through palpation of diseased livers using a newly developed abdominal simulator.	An International association for medical education	Vienna	2019/ 8/27
	腹部診察シミュレータを用いた触覚記憶に関する学習効果の検証	日本医学教育学会	京都市	2019/ 7/27
	頸部触診シミュレータの開発	日本医学教育学会	京都市	2019/ 7/27
山田紋子	看護基礎教育において修得が必要とされる看護技術に関する教育プログラムの評価	US フォーラム 2019	静岡市	2019/ 4/20
田中範佳	New technology for contactless heart rate, respiratory rate and tidal volume monitoring	45th Biennial Convention, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing	Washin gton, DC, USA	2019/ 11/18
	取り組んだ研究の成果を国際誌上で公表するための取り組み～和文誌への投稿から英文誌へ～	日本看護研究学会 第 45 回学術集会	大阪市	2019/ 8/21
篁 宗一	Actual Status of Mental Health and Help-Seeking Behavior in High School Students in Japan: Comparison of Full-Time High School and Part-Time High School	World Congress on Nursing Education & Practice	Austra lia	2019/ 12/3
富安眞理	パーキンソン病高齢者を介護する家族の療養生活支援ニーズに関する検討	第 9 回日本在宅看護学会学術集会	東京都	2019/ 12/8
	Development of a home-based care program for people with PD and families パーキンソン病をもつ人々のためのケアプログラム開発（査読付）	5th World PARKINSON Cngress 2019（第 5 回世界パーキンソン病学会）	京都市	2019/6/6

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
山口みのり	新人看護師の看護援助における“今困っていること”の変化	日本看護学教育学会第29回学術集会	京都市	2019/8/4
	新人看護師による先輩看護師の実践する看護技術に対するとらえ方	日本看護研究学会第45回学術集会	大阪市	2019/8/20
	明治期以降の看護書にみる和洋病室の設定と病床の記述するとらえ方	日本看護歴史学会第33回学術集会	東京都	2019/8/31
鈴木琴江	Activity of daily living in elderly patients undergoing gastric cancer surgery.	日本外科系連合学会	金沢市	2019/6/20
	Sex Differences in Experimentally Induced Postoperative Ileus in Mice: a Role for Estrogens.	日本看護研究学会第45回学術集会	大阪市	2019/8/21
村方多鶴子	精神科勤務経験がないスタッフが精神科訪問看護を始めるうえで成長に役立ったと認識しているサポート内容	第39回日本看護科学学会学術集会	金沢市	2019/11/30
杉山眞澄	子ども虐待に対する児童相談所の保健師の活動と課題	日本子ども虐待防止学会	神戸市	2019/12/22
	児童相談所における保健師の活動状況と必要な専門能力	日本公衆衛生看護学会	松山市	2020/1/12
濱井妙子	病院通訳者の通訳の正確性に関する分析の試みーコーダー間信頼性の検討ー	第11回日本ヘルスコミュニケーション学会学術大会	東京都	2019/9/21
	ブラジル人患者が同伴した通訳者が介在した診療場面の調査の試み	第34回日本国際保健医療学会学術大会	津市	2019/12/7
	病院通訳者による通訳の正確性分析ーブラジル人患者・医師・病院通訳者の診療場面からー	第78回日本公衆衛生学会総会	高知市	2019/10/25
管原清子	地域で開催されているがん患者支援イベントへの参加ががん患者の気分及び影響	日本看護研究学会第45回学術集会	大阪市	2019/8/21
糸川紅子	SIG 専門看護師主催 がん看護専門看護師として実力を発揮するために	第34回日本がん看護学会学術集会	東京都	2020/2/22
	和文献における家族性大腸腺腫症と診断された患者が直面する心理・社会的問題に関	第37回日本ストーマ・排泄リハビ	静岡市	2020/2/8

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
	する文献検討	リテーション学会 総会		
	親のがん闘病を経験した AYA 世代の家族性大腸腺腫症患者のセルフケア行動を支援するためのアセスメントモデルの検討	第 37 回日本スト ーマ・排泄リハビ リテーション学会 総会	静岡市	2020/2/8
	SIG 専門看護師 2019 年度 活動報告	第 34 回日本がん 看護学会学術集会	東京都	2020/ 2/22
下吹越直子	訪問看護導入を判断するアセスメント指標に関する研究—ケアマネジャーの経験年数による視点の相違—	第 39 回日本看護 科学学会学術集会	金沢市	2019/ 11/29
	重症心身障がい児(者)へのリフレクソロジー効果	静岡県小児保健学 会	静岡市	2019/ 10/26
鈴木和香子	20 歳からの体重増加に対する家庭環境要因と食品・栄養摂取の関連: J-MICC Study 静岡・桜ヶ丘地区	日本疫学会	京都市	2020/ 2/22
	更年期症状を有する就労女性へのセルフヘルプ認知行動療法による健康プログラムの効果	日本母性看護学学 会	広島市	2019/ 6/1
永谷実穂	更年期女性の更年期症状に対する評価尺度の国内外における比較—SMI と GCS との比較	日本女性医学学会	博多市	2019/ 11/1
福島恭子	大学院助産師課程における「災害時の助産ケア」授業の実践報告	第 34 回日本助産 学会学術集会	新潟市 (Web)	2020/ 3/22
佐藤瑠美	地域フィールドワークによる教育実践—地域住民との継続的な信頼関係づくりと教育的意義に関する一考察—	社会デザイン学会	東京都	2019/ 12/8
田中悠美	Review of the literature on support for toileting independence provided to older care recipients	The 6rh International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (新型コロナウイ	大阪市	2020/ 2/29

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
		ルス感染拡大のため、学術集会は中止)		
	在宅高齢者の排泄セルフケア能力を高める訪問看護支援モデル構成項目の作成	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	静岡市	2020/2/8
根岸まゆみ	Preceptors' Perceptions of Education Strategies to Create an Optimal Clinical Learning Environment for Nursing Students	Sigma Theta Tau International, 45th Biennial Convention	米国、ワシントンDC	2019/11/18
	看護大学生の文化的能力を促進するプログラムの構築と実践	US フォーラム 2019（ハイライト発表）	静岡市	2019/4/20
倉本直樹	Evaluation of an Educational Program Encouraging Nursing Communication Skills in New Students	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	Osaka	2020/2/28
松 裏 豊	集中治療室患者に対する非薬理学的治療におけるせん妄予防の効果ーランダム化比較試験におけるメタ分析ー	第47回日本集中治療医学会学術集会	紙上発表	2020/3/7
近藤美保	看護大学生の化粧行動に現れる精神的健康状態の影響	第39回日本看護科学学会学術集会	金沢市	2019/11/30
望月友美子	静岡県で健康経営の視点で健康づくりに取り組む事業所と産業保健活動の関連要因	USフォーラム 2019	静岡市	2019/4/20
池田麻左子	重症心身障害児(者)病棟における重症児看護に関する看護学生への臨地実習指導の実際	日本重症心身障害学会	岡山市	2019/9/20
	在宅生活における医療的ケアの自己管理を必要とする児への多職種連携による指導の実際	日本小児診療多職種研究会	静岡市	2020/2/2
高木 静	S市における産後ケア事業の実践報告	第19回日本母子看	東京都	2019/

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
		護学会学術集会		6/1
大和田裕美	助産学生に対する産後一ヶ月以内の母子の家庭訪問シミュレーションの評価	第34回日本助産学会学術集会	新潟市 (web)	2020/ 3/21

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
荒井孝子	経年変化から検討した正常者白質変化の進展に関わるリスク	人間ドック学会	深澤春奈	岡山市	2019/ 7/26
	正常者の大脳白質変化における頸動脈プラークの影響について	人間ドック学会	鶴田陽子	岡山市	2019/ 7/26
	看護学士課程に有効な看護コミュニケーション・スキル促進プログラムの検討	第39回日本看護科学学会学術集会	渡邊順子	金沢市	2019/ 12/1
山田 紋子	臨床判断能力向上を目指したシミュレーション教育に関する検討	US フォーラム 2019	田中範佳	静岡市	2019/ 4/20
青木和恵	和文献における家族性大腸腺腫症患者と診断された患者が直面する心理・社会的問題に関する文献検討	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	糸川紅子 青木和恵 石切山千恵 木元千奈美	静岡市	2020/ 2/8
	親のがんを経験した AYA 世代の家族性大腸腺腫症患者のセルフケア行動を支援するためのアセスメントモデル	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	糸川紅子 青木和恵 石切山千恵 木元千奈美	静岡市	2020/ 2/8
	“文献マップ” からみた高齢ストーマ保有者と家族への訪問看護実践に関する検討	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	長谷部 美紀 富安眞理 青木和恵	静岡市	2020/ 2/8
田中範佳	Physical and Psychological Effects of the Relax Chair in	45th Biennial	Takahiro Kakeda,	Washin gton,	2019/ 11/17

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	Young Adults	Convention, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing	Hidetoshi Sawanaka, Koichio (Chris) Nakaji, Noriyoshi Tanaka	DC, USA	
篁 宗一	看護大学生の化粧行動に現れる精神的健康状態の影響	第 39 回日本看護科学学会学術集会	近藤美保	金沢市	2019/ 11/30
太田尚子	妊娠期から育児期の在日外国人母親を母子保健専門職につなぐ身近な支援者のニーズ	第 34 回日本助産学会学術集会	金原 汐里	新潟市 (web)	2020/ 3/22
	大学院助産師課程における「災害時の助産ケア」授業の実践報告	第 34 回日本助産学会学術集会	福島 恭子	新潟市 (web)	2020/ 3/22
	助産学生に対する産後一ヶ月以内の母子の家庭訪問シミュレーションの評価	第 34 回日本助産学会学術集会	大和田裕美	新潟市 (web)	2020/ 3/21
富安真理	退院間もない高齢者の在宅医療に関する課題の検討 訪問看護早期導入による介護予防を推進する取り組み	第 10 回せいれい看護学会	湯澤まさみ	浜松市	2019/ 9/14
	在宅復帰支援の理解を促進する多職種連携実習 プログラム実施上の課題	第 9 回日本在宅看護学会学術集会	酒井知子	東京都	2019/ 12/1
	高齢者への訪問看護実践に関する文献マップ	第 9 回日本在宅看護学会学術集会	青木瞳	東京都	2019/ 12/1
	文献マップからみた高齢ストーマ保有者と家族への訪問看護実践に関する検討	第 37 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	長谷部美紀	静岡市	2020/ 2/8

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	在宅高齢者の排泄セルフケア能力を高める訪問看護 49 護支援モデル構成項目の作成	第 37 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	田中悠美	静岡市	2020/2/8
山口みのり	Learning effects of tactile knowledge through palpation of diseased livers using a newly developed abdominal simulator	The Association for Medical Education in Europe (AMEE)	Kyoko Arai	Austria Centre Vienna	2019/8/27
	Evaluation of an Educational Program Encouraging Nursing Communication Skills in New Students	6th WANS	Naoki Kuramoto	Osaka	2020/2/28
	腹部診察シミュレーターを用いた触覚記憶に関する学習効果の検証	第 51 回日本医学教育学会	荒井孝子	京都市	2019/7/27
	“キャリア中期ジェネラリストが語る、仕事に対する捉え方の一考察	第 50 回日本看護学会. 看護管理	太田祐子	名古屋市	2019/10/24
	看護学士課程に有効な看護コミュニケーション・スキル促進プログラムの検討	第 39 回日本看護科学学会学術集会	渡邊順子	金沢市	2019/12/1
永谷幸子	Evaluation of an Educational Program Encouraging Nursing Communication Skills in New Students	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	Naoki Kuramoto	Osaka	2020/2/28
	異なる強度の足関節底屈運動が起	第 4 回日本	神田孝祐	宜野湾	2019/

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	立直後の血行動態に及ぼす影響	心血管理学療法学会		市	9/14
	VR (virtual reality) を活用した ICU 入室オリエンテーション媒体の作成	日本看護医療学会	後藤花織	名古屋市	2019/9/21
	成人版表情認知検査を用いた表情認知能力における看護師と看護学生の比較	日本看護医療学会	鈴木桃花	名古屋市	2019/9/21
	看護学士課程に有効な看護コミュニケーション・スキル促進プログラムの検討	第 39 回日本看護科学学会	渡邊順子	金沢市	2019/12/1
鈴木琴江	看護師の業務環境および残業に対する認識と残業との関連	日本看護研究学会	蜂巢純大	大阪市	2019/8/20
	外来がん化学療法専従看護師の業務内容に伴う ストレスとその要因	日本看護研究学会	望月優大	大阪市	2019/8/20
	看護学生の腰痛に関する認識と実習中の腰痛予防行動に関連する要因	日本看護研究学会	竹田千夏	大阪市	2019/8/21
安田真美	訪問看護導入を判断するアセスメント指標に関する研究—ケアマネジャーの経験年数による視点の相違—	第 39 回日本看護科学学会学術集会	下吹越直子	金沢市	2019/11/30
長澤利枝	看護大学生の化粧行動に現れる精神的健康状態の影響	第 39 回日本看護科学学会学術集会	近藤美保	金沢市	2019/11/30
石川紀子	助産学生に対する産後一ヶ月以内の母子の家庭訪問シミュレーションの評価	第 34 回日本助産学会学術集会	大和田裕美	新潟市 (Web)	2020/3/21
	災害時の助産ケア	第 34 回日本助産学会学術集会	福島恭子	新潟市 (Web)	2020/3/22
藤田景子	助産学生に対する産後一ヶ月以内の母子の家庭訪問シミュレーション	第 34 回日本助産学会	大和田裕美	新潟市 (Web)	2020/3/21

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	ンの評価				
	大学院助産師課程における「災害時の助産ケア」授業の実践報告	第34回日本助産学会	福島恭子	新潟市 (Web)	2020/ 3/22
杉山眞澄	シンポジウム「児童相談所保健師」	日本子ども虐待防止学会	渡邊好恵他	神戸市	2019/ 12/21
濱井妙子	Development and Revision of the Blended Learning Program for Medical Interpreters based on Motivational Factors	Critical Link International 19 国際学会	Naoko Ono	東京都	2019/ 6/1
	Evaluation of an Educational Program Encouraging Nursing Communication Skills in New Students	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science.	Naoki Kuramoto	osaka	2019/ 3/28
	看護技術習得にパフォーマンス評価を導入したことが看護教師にもたらしたもの	日本看護技術学会第18回学術集会	佐野茂子	福井市	2019/ 9/8
	看護学士課程に有効な看護コミュニケーション・スキル促進プログラムの検討	日本看護科学学会	渡邊順子	金沢市	2019/ 12/1
加藤京里	排便パターン分類フローチャートの臨床事例への適用：看護師による判断との比較	日本看護技術学会第18回学術集会	菱沼典子、丸山朱美、酒井礼子、野月千春、平澤ちよみ、久賀久美子、秋山雅代、加藤木真史、加	福井市	2019/ 9/7

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
			藤京里、塚 越みどり、 細野恵子		
前野真由美	静岡県中部地区在住外国人の労働 時間・睡眠時間の現状と今後の課 題	第 38 回日本 国際保健医 療学会西日 本地方会	原華代, 前野 真由美 (5 名)	誌上発 表	開催中 止
鈴木和香子	摂食速度別にメタボリック新ドリ ームに影響を及ぼす食品・栄養素: J-MICC 静岡・桜ヶ丘地区	日本疫学会	烏仁	京都市	2020/ 2/22
福島恭子	助産学生に対する産後一ヶ月以内 の母子の家庭訪問シミュレーショ ンの評価	日本助産学 会第 34 回学 術集会	大和田裕美	新潟市 (Web)	2020/ 3/21
田中悠美	パーキンソン病高齢者を介護する 家族の療養生活支援ニーズに関す る検討	第 9 回日本 在宅看護学 会学術集会	富安眞理	東京都	2019/ 12/8
	在宅復帰支援の理解を促進する多 職種連携実習プログラム実施上の 課題	第 9 回日本 在宅看護学 会学術集会	酒井知子	東京都	2019/ 12/8
根岸まゆみ	Relationship Between Educational Instructors' Learning Needs in the Learning Environment Design and Learning Support	Sigma Theta Tau Internation al, 45th Biennial Convention	Yoshiko Doi, Yasuko Hosoda, Yayoi Nagano, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Mayumi Negishi	米国、 ワシ ン ト ン DC	2019/ 11/18～ 19
	Effects of Educational Instructors' Support From Others and Experiential Learning on the Clinical	Sigma Theta Tau Internation al, 45th	Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi,	米国、 ワシ ン ト ン DC	2019/ 11/18～ 19

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	Learning Environment	Biennial Convention	Yoshiko Doi, Yayoi Nagano, Yukari Katayama, Yoko Kitajima		
	Relationship between Learning Methods and Personal Background of Educational Instructors' Design of a Clinical Learning Environment	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	Yoshiko Doi, Yasuko Hosoda, Yayoi Nagano, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Mayumi Negishi	大阪府	2020/ 2/28
	Effects of a Clinical Learning Environment Design Support Program for Educational Instructors	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Yoshiko Doi, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Yayoi Nagano	大阪府	2020/ 2/29
	Collaborative Online International Nursing Education	The 6th International Nursing Research Conference	Mayumi Negishi, Yoriko Watanabe	大阪府	2020/ 2/29

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
		of World Academy of Nursing Science			
	教育指導者自身の臨床学習環境デザイン能力を開発するための取り組み	第 29 回日本 看護学教育 学会学術学 会	北島洋子, 細田泰子, 長野弥生, 片山由加里, 土肥美子, 根岸まゆみ	京都府	2019/ 8/4
	臨床学習環境デザイン支援プログラムの運用に関する評価	第 39 回日本 看護科学学 会学術集会	細田泰子, 根岸まゆみ, 長野弥生, 北島洋子, 片山由加里, 土肥美子	金沢市	2019/ 12/1
三崎健太郎	Evaluation of TK gene mutation assay as follow-up approaches with 10 chemicals for positive results in the Ames test: Collaborative Study by MMS	The Joint Meeting of The 6th Asian Congress on Environment al Mutagens (ACEM) and the 48th Annual Meeting of the Japanese Environmetn al Mutagen Society (JEMS)	Manabu Yasui	Tokyo	2019/ 11/1
倉本直樹	看護学士課程に有効な看護コミュ	第 39 回日本	渡邊順子	金沢市	2019/

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	ニケーション・スキル促進プログラムの検討	看護科学学会			12/1
石切山千恵	看護基礎教育において修得が必要とされる看護技術獲得に関する教育プログラムの評価	US フォーラム 2019	山田紋子	静岡市	2019/4/20
	臨床判断能力の向上を目指したシミュレーション教育に関する検討	US フォーラム 2019	田中範佳	静岡市	2019/4/20
	和文献における家族性大腸腺腫症と診断された患者が直面する心理・社会的問題に関する文献検討	第 37 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	糸川紅子	静岡市	2020/2/8
	親のがんを経験した AYA 世代の家族性大腸腺腫症患者のセルフケア行動を支援するためのアセスメントモデル	第 37 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	糸川紅子	静岡市	2020/2/8
松 裏 豊	Analysis on the characteristics of flatus gas sound of gastrointestinal stoma for	23rd East Asian Forum of Nursing Scholars 2020	Tetsuya Tajima	Thailand	2020/1/10
	人工肛門保有者の排ガス音の客観的評価と消音対策の基礎検証	第 58 回日本生体医工学会大会	田嶋哲也	宜野湾市	2019/6/7
飯 塚 真 樹	訪問看護導入を判断するアセスメント指標に関する研究－ケアマネジャーの経験年数による視点の相違－	第 39 回日本看護科学学会学術集会	下吹越直子	金沢市	2019/11/30
遠 藤 り ら	Actual status of mental health and help seeking behavior in high school students in Japan: comparison of full time high school and part time high school	World Congress on Nursing Education & Practice	Soichi Takamura, Rira Endo, Yasutoshi Nekoda	Australia	2019/12/3

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	看護大学生の化粧行動に表れる精神的健康状態の影響	第39回日本看護科学学会学術集会	近藤美保	金沢市	2020/11/30
山田貴代	S市における産後ケア事業の実態報告	第19回日本母子看護学会学術集会	高木静	東京	2019/6/1
安藤継子	児童相談所における保健師の活動状況と必要な専門能力	日本公衆衛生看護学会	杉山眞澄	松山市	2020/1/12

受賞

氏名	賞名	団体名
永谷幸子	優秀ポスター賞	日本心管理理学療法学会
濱井妙子	ポスター賞	第78回日本公衆衛生学会総会

(2) 外部資金受け入れ

外部資金：(A) 文部科学省科学研究費、(B) その他の研究費)

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額単位：千円	代表分担の別
井上健一郎	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究 (S)	環境学、医学の両方向からアレルギーの制 圧・撲滅をめざす総合的、系統的研究	4,000	分担
	(B)	CREST	環境中微粒子の体内、細胞内動態、生体・免 疫応答機序の解明と外因的、内因的健康影響 決定要因、分子の同定	1,040	分担
荒井孝子	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究 C	推算 GFR 分析による慢性腎臓病 (CKD) 進展予 防のための定量的評価スケールの開発	1,560	代表
田中範佳	(A)	文部科学省 科研費若手 研究	術前の呼吸・循環動態安定化に向けた次世代 デバイスを用いた実証研究	3,380	代表
	(B)	公益財団法人 テルモ生 命科学芸術 財団	手術前の高いレベルの不安を予測できる新 たな指標の開発	1,000	代表
	(B)	地域課題に 関わる産学 共同研究委 託事業	非接触で呼吸状態をリアルタイムに把握で きる次世代装置の開発	300	分担
篁 宗一	(A)	文部科学省 科学研究費	量的看護研究における統計的検定の検出力 に関する研究	250	分担
	(B)	公益社団法 人ふじのく に地域・大 学コンソー シアム共同 研究助成事 業助成	防災の備えと「こころの健康」プログラムの 開発	600	代表

外部資金：(A) 文部科学省科学研究費、(B) その他の研究費)

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額単位：千円	代表分担の別
山下早苗	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	小児を対象とする看護師への看護倫理教育プログラムの開発	1,040	代表
太田尚子	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	チームリーダーのためのペリネイタル・ロス看護者研修プログラムの開発	1,040	代表
	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	人工死産を決断した両親に対する支援の充実：体験者の声にもとづくリソースの開発	1,040	分担
	(B)	COC 事業地 域を志向し た研究	ふじプレマリッジ・プロジェクトー婚前プログラムの開発	54	分担
深江久代	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	住民クレームを活用した公衆衛生看護管理能力向上のための教育プログラムの開発	100	分担
	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	超高齢化ニュータウンにおける主体的な予防活動の動機づけ支援看護介入プログラム構築	50	分担
富安真理	(B)	在宅医療助 成勇美記念 財団	生活への適応過程にある高齢ストーマ保有者の家族を支える訪問看護実践	300	分担
	(B)	全国訪問看護事業協会 研究助成 (一般)	独居高齢者を支える訪問看護師の判断プロセス ～脳卒中合併症予防に焦点をあてて	270	分担
	(B)	厚労科研	保健師助産師看護師国家試験における現状の評価及び出題形式等の改善に関する研究	300	分担
	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	パーキンソン病高齢者の家族介護者を中心とした統合的ケア提供モデルの開発	700	代表

外部資金：(A) 文部科学省科学研究費、(B) その他の研究費)

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額単位：千円	代表分担の別
山口みのり	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	キャリア中期ジェネラリスト看護師の、物語としてのキャリア創出に関する研究	4,680	分担
	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	看護実践能力の向上に向けた技術習得過程のモデル化と教育プログラムの構築	4,680	分担
永谷幸子	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	入院する高齢者の認知機能低下を予防するための看護介入ー足関節運動を用いてー	1,040	代表
安田真美	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	パーキンソン病高齢者の家族介護者を中心とした統合的ケア提供モデルの開発	50	分担
	(B)	公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム 共同研究	回復期リハビリテーション病棟における認知症多職種連携ケアアプローチの検討	230	代表
村方多鶴子	(A)	文部科学省 科研費若手 研究	精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフ育成プログラムの開発	700	代表
中川有加	(B)	平成29年度地(知)の拠点整備事業(COC事業)地域を志向した研究	産後入院中の父親の児と皮膚接触の抱っこをする経験が1か月後の父親の意識に及ぼす影響	42	代表
藤田景子	(A)	文部科学省 科研費若手 研究B	「周産期及び育児期におけるDV被害者支援のための看護師のコンピテンシーに関する研究」	1,430	代表

外部資金：((A) 文部科学省科学研究費、(B) その他の研究費)

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額単位：千円	代表分担の別
藤田 景子	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究B	「SANE-J（日本版性暴力被害者支援看護師） 教育プログラムの開発	150	分担
	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究B	「何が「被害者」の連帯を可能にするのかー 「薬害 HIV」問題の日英比較	150	分担
杉山 眞澄	(A)	文部科学省 科研費	超高齢化ニュータウンにおける主体的な予 防活動の動機づけ支援看護介入プログラム 構築	65	分担
濱井 妙子	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	外国人患者・医療者・通訳者間におけるリス ク・コミュニケーションに関する実証研究	800	代表
	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	医療通訳養成ブレンド型教育プログラムの 実践と検証	100	分担
	(A)	文部科学省 科研費挑戦 的萌芽研究	システム思考に立脚した地域包括ケアシス テム構築方法論と評価用ロジックモデルの 開発	200	分担
糸川 紅子	(A)	文部科学省 科研費若手 研究B	化学療法に伴う皮膚障害を有する患者の歩 きやすさを維持するためのフットケアプロ グラムの作成と評価	3,900	代表
前野 真由美	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	在住外国人の終末期ケアの在り方に関する 研究	900	代表
下吹越 直子	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究C	多職種情報共有ネットワークシステム活用 へ向けた訪問看護導入アセスメントシート 開発	1,170	代表
田中 悠美	(A)	文部科学省 科研費若手 研究B	要介護高齢者の自然排泄移行を支援する訪 問看護実践モデルの開発	500	代表

外部資金：(A) 文部科学省科学研究費、(B) その他の研究費)

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額単位：千円	代表分担の別
根岸まゆみ	(A)	文部科学省 科研費若手 研究 A	インド人看護師臨床教育支援プログラムの開発と日印看護師の協調的臨床環境の構築	4,030	代表
	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究 B	看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	16,250	分担
倉本直樹	(A)	文部科学省 科研費若手 研究 B	看護師が関与する輸液管理の技術的課題に関する研究	2,730	代表
松 裏 豊	(A)	文部科学省 科研費研究 活動スタート支援	重症患者における睡眠周期と夜間ケアに関する研究	2,470	代表
岩本真弓	(A)	文部科学省 科研費基盤 研究 C	「未就園児の早期療育に向けた保護者の合意を導き出す実践プロセスと支援技術の明確化」	65	分担

(3) 令和元年度学部研究推進費等

令和元年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	代表分担の別
荒井孝子	正常者の大脳白質病変における健康リスク因子との関係の解明	690	代表
	看護基礎教育課程におけるシミュレータを介した触覚知を獲得するための教育と技術開発	429	代表
山田紋子	看護基礎教育において修得が必要とされる看護技術に関する教育プログラムの形成的評価	149	代表
田中範佳	B型肝炎患者・家族による患者講義の評価および内容の充実に関する検討	249	代表

令和元年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	代表分担の別
山下 早苗	大学と臨床の協働による小児看護倫理教育プログラムの開発- 倫理的能力を促進するツール：教材の開発 -	330	代表
富安 真理	令和元年度 地(知)の拠点(COC)事業 地域を志向した研究 救急外来受診における効果的な多職種連携を促進するプログラム開発 -チームとしてのパフォーマンス向上を目的としたチーム STEPPS 教材の活用とその評価-	72	分担
	地域住民と地域の看護師との交流を生かした看護師基礎教育の推進	1,000	代表
山口みのり	明治期から現在における看護と看護教育の歴史的変遷-生活行動援助の視点から-	162	代表
	看護若手教員が抱える指導上の困難とその背景-問題の構造化と支援体制の構築	100	代表
永谷 幸子	患者の活動範囲拡大を目指した安全に起立するための援助方法の検討	454	代表
	地域で開催されるがん啓発イベントへの参加によるがん患者の心理-気分尺度を用いた主観的評価-	417	分担
	静脈穿刺における注射用シミュレーターに関する検討	489	代表
鈴木 琴江	看護基礎教育において修得が必要とされる看護技術獲得に関する教育プログラムの形成的評価	157	分担
	臨床判断能力の向上を目指したシミュレーション教育に関する検討	202	分担
村方多鶴子	緑茶の芳香がもたらす心理学的効果の検討	120	分担
	看護系大学教員のメンタルヘルスに関する研究～職場環境の特性と精神的健康の関連～	520	分担
杉山 眞澄	全国児童相談所に働く保健師のつどい	123	代表
濱井 妙子	医療現場における多言語音声翻訳ツールの精度と活用方法の検討	292	代表
管原 清子	地域で開催されるがん啓発イベントへの参加によるがん患者の心理-気分尺度を用いた主観的評価-	417	代表
	患者の活動範囲拡大を目指した安全に起立するための援助方法の検討	454	分担

令和元年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	代表分担の別
管原清子	静脈穿刺における注射用シミュレーターに関する検討	489	分担
	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	550	分担
加藤京里	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	550	代表
	地域で開催されるがん啓発イベントへの参加によるがん患者の心理-気分尺度を用いた主観的評価-	417	分担
	患者の活動範囲拡大を目指した安全に起立するための援助方法の検討	454	分担
前野真由美	看護基礎教育において修得が必要とされる看護技術獲得に関する教育プログラムの形成的評価	157	分担
	臨床判断能力の向上を目指したシミュレーション教育に関する検討	202	分担
下吹越直子	臨床判断モデルを活用した老年看護学教授法に関する研究	336	代表
永谷実穂	就労更年期女性の認知行動療法を取り入れた健康教育の効果および健康教育プログラムの検討	170	代表
田中悠美	令和元年度 地(知)の拠点(COC)事業 地域を志向した研究	72	代表
	救急外来受診における効果的な多職種連携を促進するプログラム開発		
	―チームとしてのパフォーマンス向上を目的としたチーム STEPPS 教材の活用とその評価―		
三崎健太郎	含酸素芳香族炭化水素(oxy-PAHs)の毒性影響評価	280	代表
	大気汚染物質中のアレルギー増悪寄与成分の分類と複合曝露影響評価	170	代表
倉本直樹	静脈穿刺における注射用シミュレーターに関する検討	489	代表
	地域で暮らす要介護高齢者の排尿自立をめざす排尿予測ケアの開発	480	分担
	地域で開催されるがん啓発イベントへの参加によるがん患者の心理-気分尺度を用いた主観的評価-	417	分担

令和元年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	代表分担の別
倉本直樹	患者の活動範囲拡大を目指した安全に起立するための援助方法の検討	454	分担
	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	550	分担
石切山千恵	看護基礎教育において修得が必要とされる看護技術獲得に関する教育プログラムの形成的評価	157	分担
	臨床判断能力の向上を目指したシミュレーション教育に関する検討	202	分担
松裏豊	重症患者における睡眠周期を阻害しないケアの適切なタイミングの確立	590	代表
近藤美保	緑茶の香りがもたらす心理, 生理学的効果の評価	156	代表
	精神疾患を有する患者の化粧品プログラム検討に向けた文献検討	22	代表
	大学教員のメンタルヘルスに関する研究～職場環境の特性と精神的健康の関連～	498	分担
	精神科医療施設における地震等自然災害対策上の工夫と課題～静岡 DPA 協力病院に対する調査から～	150	分担
遠藤りら	大学教員のメンタルヘルスに関する研究～職場環境の特性と精神的健康の関連～	498	代表
	緑茶の香りがもたらす心理、生理学的効果の評価	156	分担
	精神科医療施設における地震等自然災害対策上の工夫と課題～静岡 DPAT 協力病院に対する調査から～	150	分担
池田麻左子	重症心身障害児（者）の看護倫理に関する現状と課題	333	代表
山田貴代	臨床実習指導者が求める妊婦健康診査実習における助産師学生の実践能力の到達度	162	代表
高木静	産後早期の母親の産後うつ状態の変化及び要因に関する研究－地域での早期母子支援の在り方について－	240	代表
大和田裕美	地域における妊娠期から子育て期の女性と助産師との関係の成り立ちの探求	400	代表
安藤継子	全国児童相談所に働く保健師のつどい	220	分担

(4) 国内共同研究の状況

氏名	年度（研究期間）	研究テーマ	共同研究者（所属）	役割
田中 範佳	2019	がん患者を対象にした実験研究データの混合モデルに関する検討	堀 芽久美 （国立がん研究センターがん対策情報センター）	データ解析
	2019	非接触モニタリングデバイス・Intercommunication system を用いた看護・医療提供に関する実証研究	林 尚三 （富士病院）	本研究に関するインフォームドコンセント
鈴木 琴江	2018 ～ 2019	Sex Differences in Experimentally Induced Postoperative Ileus in Mice: a Role for Estrogens.	吉成浩一、志津怜太 （静岡県立大学薬学部）	代表
	2018 ～ 2019	Activity of daily living in elderly patients undergoing gastric cancer surgery.	康永秀生、山名隼人 （東京大学大学院医学系研究科）	代表
加藤 京里	2019(2010～)	排便パターン分類のためのフローチャートの開発	菱沼典子（三重県立看護大学）、縄秀志・加藤木真史（聖路加国際大学）、塚越みどり（横浜市立大学）、矢野理香（北海道大学）、田中美智子（宮崎県立看護大学）、他 10 名	分担
前野真由美	2019	静岡県内在住外国人における主観的健康観と労働時間の関連	原華代（常葉大学）	分担
永谷 実穂	2019 年度 医療看護学研究(順天堂大学)	更年期女性の更年期症状評価尺度に対する国内外の比較	高橋眞理（順天堂大学医療看護学部）	質問紙項目の検討・データ分

氏名	年度（研究期間）	研究テーマ	共同研究者（所属）	役割
				析・結果の評価
三崎健太郎	2012 年度～	様々な遺伝毒性試験法による環境リスク評価	松田知成（京都大学）	遺伝毒性試験の適用
	2011 年度～	AhR を介した多環芳香族化合物の毒性に対する評価研究	高村岳樹（神奈川工科大学）	PACs による毒性パターン評価

(5) 海外研修活動

氏名	事業の名称または目的	研修期間（日数）	研修先
荒井孝子	AMEE2018 (An International Association For Medical Education)	4 日	V i e n n a (Austria)
下吹越直子	米国オレゴン州における「臨床判断モデルとコンセプトを基盤にした学習活動」研修および「退院支援と訪問看護導入へのケースマネジメント」の実際と研修	7 日	“米国オレゴン州ポートランド University of Portland, Oregon Health and Science University, Hopewell House Hospice”

(6) その他特記事項

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
深江久代	日本公衆衛生看護学会ワークショップ「ポジティブ思考のクレーム対応術」	2020/1/11	研究グループメンバーによる共同開催
杉山真澄	「全国児童相談所に働く保健師のつどい」の開催	2019/8/17	静岡県立大学教員特別研究費助成
杉山真澄	日本公衆衛生看護学会ワークショップ「ポジティブ思考のクレーム対応術」	2020/1/11	研究グループメンバーによる共同開催
山口みのり	看護師国家試験模試問題執筆	2019/4～2020/3	
	「看護技術論検討会」開催	2019/4～2020/3	
	京都科学製 導尿・浣腸モデル開発	2019/4～2020/3	
永谷幸子	地域で生活するがん患者におけるサルコペニア	2019/7～2020/2	地(知)の拠点(COC)事業
管原清子	令和元年度 地(知)の拠点(COC)事業 地域を志向した研究において、「地域で生活するがん患者におけるサルコペニア」に関する研究活動に研究分担者として参加した。	2019/7～2020/2	
加藤京里	地域で生活するがん患者におけるサルコペニア(地域志向研究)	2019/7～2020/2	
福島恭子	COC事業地域を志向した研究「ふじプレマリッジ・プロジェクト-婚前プログラムの開発」	2019/7～2020/2	研究代表者
倉本直樹	地域で生活するがん患者におけるサルコペニア(地域志向研究)	2019/7～2020/2	
高木 静	COC事業「地域を志向した研究」に地域再生ワーキンググループより選出され、採択された。研究科題名「産後早期の母親の産後うつ状	2019/4～2020/2	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	態の変化及び要因に関する研究「地域での早期母子支援の在り方について」を報告した。		
大和田裕美	第45回日本保健医療社会学会 RTD 「医療現場のフィールドワークの新たな視座-フィールドワーカーは何者として参加しているのか-」 企画	2018/12~2019/5	
岩本真弓	基盤研究(C)、研究課題「発達障害児に対する1歳6か月児健診からの早期支援プログラムの開発」において明らかとなった「発達障害の特性をもつ子どもの保護者支援における保健師の支援技術の適用可能性の検討」を行った。	2019/4/1~2020/3/31	
安藤継子	全国の児童相談所に勤務する保健師が集まり、研究結果報告、活動報告、最新情報講演会、情報交換を行った。	2019/8/17	杉山眞澄准教授と実施 県内児相保健師の協力を得た。

VIII.学部・研究科としての社会貢献

1. 国・地方自治体における活動

氏名	従事先	従事する職名	任期
井上健一郎	静岡市	健康福祉審議会 健康づくり専門分科会委員長	2019/4～2020/3
荒井孝子	国際医療福祉大学大学院	特定行為研修管理委員会外部委員	2019/4～2020/3
	静岡済生会総合病院	地域医療支援病院運営委員会委員	2019/4～2020/3
山田紋子	静岡県立総合病院	静岡県立総合病院臨床研究倫理委員会委員	2018/4～2020/3
		看護部倫理研究倫理審査会外部委員	2019/4～2020/3
	静岡済生会総合病院	地域包括ケア支援事業 「看と看をつなぐ するが」外部委員	2019/4～2020/3
青木和恵	岩手県立大学	非常勤講師	2019/4～2020/3
	常葉大学	非常勤講師	2019/4～2020/3
篁宗一	国	科研費審査委員	2017/4～2020/3
	静岡市	認知症対策推進協議会会長	2017/4～2020/3
		自殺対策推進協議会会長	2017/4～2020/3
		精神医療審査会委員	2017/4～2020/3
静岡市立 清水看護専門学校	非常勤講師	2018/4～2020/3	
山下早苗	山梨県立大学大学院 看護学研究科	非常勤講師	2019/4～2020/3
太田尚子	静岡市健康文化交流館 「来・て・こ」	静岡市健康文化交流館運営委員会委員	2018/4～2020/3
	茨城県立医療大学大学院 保健医療科学研究科	非常勤講師 「看護倫理」	2019/4～2020/3
深江久代	静岡市立静岡病院	静岡市立静岡病院 地域医療支援委員会委員	2018/4～2020/3
	静岡市立清水病院	静岡市立清水病院 地域医療支援委員会委員	2016/10～2020/3

氏名	従事先	従事する職名	任期
深江久代	組合立 静岡県中部看護専門学校	教育課程編成委員	2019/6～2020/3
	静岡市	介護認定審査員	2019/4～2021/3
富安真理	静岡市	在宅医療・介護連携協議会委員	2018/4～2020/3
		健康福祉審議会委員	2019/4～2022/3
	厚生労働省	東海北陸地方社会保険医療協議会委員	2019/4～2022/3
山口みのり	放送大学	客員准教授	2019/4～2020/3
村方多鶴子	静岡市立 清水看護専門学校	非常勤講師	2019/4～2020/3
石川紀子	厚生労働省	保健師看護師助産師国家試験委員	2015/4～2021/3
藤田景子	静岡市	静岡市男女共同参画審議会委員	2019/4～2020/3
	北海道大学	非常勤講師	2019/4～2020/3
杉山真澄	静岡県	静岡県発達障がい者支援地域協議会 委員	2019/4～2020/3
	静岡市	静岡市保健所運営協議会委員	2019/7～2021/6
	静岡県立看護専門学校	非常勤講師	2019/4～2020/3
濱井妙子	沼津市	沼津市開発審査会委員	2018/11～2020/10
管原清子	静岡県	静岡県看護教員養成講習会実行委員	2019/4～2020/3
	静岡市立 清水看護専門学校	静岡市立清水看護専門学校 教育課程編成会議委員	2019/4～2020/3
	独立行政法人 地域医療機能推進機構 桜ヶ丘病院	看護研究指導	2019/4～2020/3
糸川紅子	静岡県立 静岡がんセンター	入試委員	2019/4～2020/3
	静岡県立総合病院	研究指導	2019/4～2020/3
	シズケア*かけはし モデル事業	外部委員	2019/8～2020/3
前野真由美	静岡県	静岡県多文化共生審議会委員	2017/6～2019/6
鈴木和香子	静岡市	医療的ケア児等支援協議会会長	2019/4～2021/3
永谷実穂	焼津市	介護認定審査委員	2019/4～2022/3

氏名	従事先	従事する職名	任期
福島 恭子	富士市	健康づくり推進協議会委員	2017/6～2019/5
田中 悠美	静岡市	静岡市障害支援区分認定等審査会委員	2019/4～2021/3
近藤 美保	静岡市 支援センターみらい	運営委員会委員長	2019/4～2020/3
遠藤 りら	静岡市立 清水看護専門学校	非常勤講師	2019/4～2020/3
池田 麻左子	聖隷クリストファー大学 大学院	非常勤講師	2019/4～2020/3
	岐阜県立大学大学院	非常勤講師	2019/4～2020/3

2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
金澤 寛明	一般社団法人日本解剖学会	評議委員	継続中
井上 健一郎	日本臨床環境医学会	評議員	2019/4～2020/3
	一般社団法人 日本エンドトキシン・自然免疫学研究会	理事	2019/4～2020/3
	一般社団法人 日本 Schock 学会	評議員	2019/4～2020/3
山田 紋子	日本看護診断学会	理事	2019/7～2022/7
	日本赤十字看護学会	編集委員	2018/10～2021/7
青木 和恵	日本ストーマ・排泄リハビリテーション 学会	理事	2011/2～2020/2
		評議員	
		広報委員長	
		評議員選出 副委員長	
		ガイドライン 検討委員	
		編集委員	
	災害対策委員		
一般社団法人 日本褥瘡学会	評議委員	2012/4～2020/3	
一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会	理事	2015/5～2020/3	
	評議員		

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
		評議委員 選出委員長 社会保険委員	
	一般社団法人 日本がん看護学会	評議員	2014/4～2020/3
	一般社団法人 日本放射線看護学会	評議員	2014/4～2020/3
	一般社団法人 日本褥瘡学会 中部地方会	代表世話人 評議員	2008/4～2020/3
	公益社団法人 静岡県看護協会	外部有識者委員	2019/4～2020/3
田中 範佳	Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International	学会査読委員	2019/4～2020/3
	Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International	助成金査読委員	2019/4～2020/3
	The Association for Perioperative Practice	編集委員会委員	2019/7～2020/3
篁 宗一	日本学校メンタルヘルス学会	理事、評議員	2017/4～2020/3
山下 早苗	日本看護倫理学会	理事	2015/～2021
		評議員	2012/～2021
太田 尚子	一般社団法人 日本助産学会	日本助産学会誌 専任査読者	2019/4～2021/3
	公益社団法人 日本看護科学学会	日本看護科学学会誌 和文誌専任査読委員	2017/10～2019/9
	公益社団法人 全国助産師教育協議会	教育検討委員会 委員	2017/7～2019/6
	公益社団法人 全国助産師教育協議会	中部地区地区長	2019/6～2020/6
	一般社団法人 公立大学協会看護・医療部会	次期部会長推薦 委員	2019/8～2020/8
	静岡県母性衛生学会	理事	2013/4～2020/3
	第61回日本母性衛生学会学術集会	準備委員	2019/1～2020/10
	聖路加国際大学ペリネイタル・ロス研究会	代表	2009/4～2020/3
	聖路加国際大学研究センター「天使の保護者ルカの会」	運営委員	2004/9～2020/3
深江 久代	NPO法人静岡難病ケア市民ネットワーク	副理事長	2008/6～2020/5

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
富安眞理	せいれい看護学会	評議員	2019/9～2021/9
山口みのり	一般社団法人 日本看護学教育学会	教育活動委員会 委員	2019/4～2020/3
	一般社団法人 日本看護研究学会	査読委員	2019/4～2020/3
	一般社団法人 日本看護技術学会	査読委員	2019/4～2020/3
	第19回日本看護技術学会学術集会	企画委員	2019/10～2020/3
永谷幸子	日本看護医療学会	事務局長	2019/4～2020/3
鈴木琴江	一般社団法人 日本看護学教育学	評議員	2018/4～2020/3
安田真美	公益社団法人 静岡県看護協会	学術推進委員	2019/4～2020/3
	社会福祉法人駿府葵会 特別養護老人ホーム久能の里	苦情解決 第三者委員	2019/4～2020/3
中川有加	一般社団法人 日本助産学会	専任査読委員	2019/4～2021/4
	公益社団法人 全国助産師教育協議会	教育検討委員会 委員	2019/6～2021/6
	公益社団法人 桶谷式母乳推進協会	研究倫理審査 委員会委員長	2018/4～2020/3
石川紀子	日本母子看護学会	理事	2007～
	一般財団法人 日本助産評価機構	理事	2008～
	東京母性衛生学会	理事	2012～
	日本分娩研究会	理事	2016～
	日本分娩監視研究会	常任幹事	2013～
	公益社団法人 日本母性衛生学会	評議員	2009～
	一般社団法人 日本助産学会	助産政策委員	2017～
	日本助産診断実践学会	常任理事	2018～
藤田景子	日本フォレンジック看護学会	理事	2019/4～2020/3
	一般社団法人 日本助産学会	広報委員	2019/4～2020/3
		助産政策委員	2019/4～2020/3
杉山眞澄	公益社団法人 静岡県看護協会	広報委員	2019/4～2021/3
杉山眞澄	静岡県国民健康保険団体連合会	保健事業支援・ 評価委員会委員	2019/4～2020/3
濱井妙子	日本健康学会（旧名称：日本民族衛生学会）	評議員	2016/1～

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
	一般社団法人 日本公衆衛生学会	公衆衛生学会 認定専門家	2011/1～2021/3
加藤京里	東京女子医科大学看護学会	評議員	2017/4～2020/3
	一般社団法人 日本看護技術学会	技術研究成果 検討委員会 温罨法班	2017/4～
前野真由美	外国人のための無料健康相談と検診会	事務局長	2019/4～2020/3
鈴木和香子	第8回日本小児診療多職種研究会	運営委員	2018/10～2020/2
	静岡県小児保健協会	事務局委員	通年
	認定NPO法人 全国難病のこども支援ネットワーク がんばれ共和国静岡	実行委員	通年
	公益財団法人日本対がん協会 リレーフォーライフジャパン静岡	実行委員	通年
三崎健太郎	日本環境変異原学会・MMS 共同研究組織	運営委員	2019/6～
池田麻左子	せいれい看護学会	評議委員	2019/9/14～ 2022/9
	一般社団法人 日本専門看護師協議会 日本 CNS 看護学会	実行委員・ 査読委員	2018/6～2019/6

3. 学会・シンポジウム等の主催

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加者 人数
荒井孝子	第37回日本ストーマ・排泄 リハビリテーション学会総会	会期中 運営 スタッフ	2020/2/7～8	静岡市	2000
青木和恵	第37回日本ストーマ・排泄 リハビリテーション学会総会	学会長	2020/2/7～8	静岡市	2000
太田尚子	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	委員長	2019/12/14	静岡市	68

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加者 人数
	聖路加国際大学ペリネイタル・ロス 研究会主催 「ペリネイタル・ロス看護者研修 プログラム：ワークショップ」	委員長	2019/8/31～9/1	静岡市	22
	聖路加国際大学ペリネイタル・ロス 研究会主催 「ペリネイタル・ロス看護者研修 プログラム：フォローアッププログ ラム」	委員長	2019/12/21	静岡市	4
山口みのり	日本看護学教育学会学術集会 理事会企画	委員	2019/8/3	京都市	300
安田真美	第8回静岡県看護学会	委員	2020/1/18	静岡県	400
中川有加	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	委員	2019/12/14	静岡市	68
石川紀子	第54回日本分娩監視研究会	委員長	2019/11/24	東京都	180
	第35回東京母性衛生学会 学術セミナー	セミナー 長	2020/2/16	東京都	80
	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	委員	2019/12/14	静岡市	68
藤田景子	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	委員	2019/12/14	静岡市	68
永谷実穂	第18回 日本更年期と加齢の ヘルスケア学会学術集会	実行委員	2019/10/27	東京都	400
	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	実行委員	2019/12/14	静岡市	68
糸川紅子	第37回日本ストーマ・排泄 リハビリテーション学会総会	運営 事務局長	2020/2/7～8	静岡市	2000
	日本精神保健看護学会 第29回学術集会	委員	2019/6/8～9	愛知県	996
福島恭子	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	委員	2019/12/14	静岡市	68
石切山千恵	第37回日本ストーマ・排泄 リハビリテーション学会総会	会期中 運営 スタッフ	2020/2/7～8	静岡市	2000

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加者 人数
近藤美保	第25回日本看護診断学会学術大会	委員	2019/7/6~7	愛知県	700
山田貴代	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	委員	2019/12/14	静岡市	68
高木静	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	委員	2019/12/14	静岡市	68
大和田裕美	2019年度全国助産師教育協議会 中部地区総会・研修会	委員	2019/12/14	静岡市	68

4. 雑誌編集関連委員

氏名	雑誌名	役職名
井上健一郎	Journal of Clinical Toxicology	委員長
	Biochemical Research	委員長
	Recent Patents of Anti-Cancer Drug Discovery	委員
	Journal of Environmental & Analytical Toxicology	委員
	Journal of Allergy and Clinical Immunology Research	委員
山田紋子	日本赤十字看護学会誌	委員
青木和恵	がん看護（南江堂）	委員
	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌	委員
田中範佳	Virginia Henderson Global Nursing e-Repository, Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International	委員
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会	委員
山下早苗	看護科学研究	委員
富安真理	日本在宅看護学会誌	委員
石川紀子	メディカ出版ペリネイタルケア	編集企画 委員
加藤京里	東京女子医科大学看護学会誌	編集委員 会委員
前野真由美	外国人のための無料健康相談と検診会 第20回報告集	委員
三崎健太郎	International Journal of Environmental Research and Public Health	Guest Editor

5. 雑誌の査読

氏名	雑誌名	本数
金澤寛明	Anatomical Science International	7
井上健一郎	Journal of Immunotoxicology	1
	Journal of Hazardous Materials	1
	Clinical Sciences	1
	International Immunopharmacology	1
青木和恵	日本がん看護学会誌	2
	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌	2
	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	2
田中範佳	Journal of Perioperative Practice	2
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会誌	3
山下早苗	日本看護倫理学会誌	1
	日本放射線看護学会誌	1
太田尚子	日本助産学会誌	2
富安真理	日本在宅看護学会誌	2
山口みのり	日本看護研究学会雑誌	2
鈴木琴江	日本看護学教育学会誌	1
石川紀子	日本助産診断実践学会	1
濱井妙子	日本看護評価学会誌	1
加藤京里	東京女子医科大学看護学会誌	2
糸川紅子	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会演題査読	20
下吹越直子	日本プライマリ・ケア連合学会誌	1
福島恭子	日本母子看護学会誌	1
三崎健太郎	Current Aging Science	2
	Journal of Cleaner Production	1

6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
金澤寛明	頭を打った（頭部外傷事故）、 さて何を考えて対処するか 養護教諭が対処すべきところ	静岡県 教育委員会	掛川市	2019/6/5
山田紋子	中範囲理論を活用したアセスメントと NANDA-I・NOC・NICの展開	聖隷浜松病院	浜松市	2019/6/22, 7/20, 10/19
	NANDA-I 看護診断の基本的理解	静岡赤十字病院	静岡市	2019/8/5
	看護過程と看護診断	東海大学 看護師キャリア 支援センター： 救急看護認定 看護師教育課程	伊勢原市	2019/9/21, 11/2
	研究法(質的研究)	公益社団法人 静岡県看護協会	静岡市	2020/1/14 , 1/30, 2/4
青木和恵	高齢者を守るスキンケア	株式会社 アクタガワ	静岡市	2019/7/6
	高齢者を守るスキンケア	株式会社 アクタガワ	沼津市	2019/7/20
	高齢者を守るスキンケア	株式会社 アクタガワ	浜松市	2019/8/3
	終末期がん患者の褥瘡ケア	株式会社ケーブ	札幌市	2019/7/27
	終末期がん患者の褥瘡ケア	株式会社ケーブ	津市	2019/9/7
	医療安全学・看護管理	東京医療保健 大学放射線 研修センター	東京都	2019/11/1
	今再び！看護の魅力	静岡県立大学 看護学部同窓会	静岡市	2019/11/9
	人材管理	静岡県看護協会	静岡市	2019/12/11
篁宗一	看護研究の講評	一般社団法人 日本精神科 看護協会	静岡市	2019/11/1
	研究の講評	公益財団法人 復康会	沼津市	2020/2/1

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
山下 早苗	看護実践と共にある看護倫理	自衛隊中央病院	東京都	2019/11/9
	小児看護実践と共にある看護倫理	静岡県立 こども病院	静岡市	2020/1/22
太田 尚子	助産師クリニカルラダーレベルⅢ ステップアップ研修： 周産期領域での倫理的課題	公益社団法人 静岡県看護協会	静岡市	2019/7/6
	ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム： ワークショップ	聖路加国際大学 ペリネイタル・ ロス研究会	静岡市	2019/8/31 ～9/1
	第11回ペリネイタル・ロス看護者研修 プログラム：ワークショップ	東アジア グリーフの集い 実行委員会	北九州市	2019/10/5 ～10/6
	周産期に子どもを亡くした家族のケア	社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 総合母子保健 センター	東京都	2019/11/19
	DONA 認定産後ドゥーラワークショップ： ペリネイタル・ロス	株式会社 ソシエタス	東京都	2019/11/15
	ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム： フォローアッププログラム	聖路加国際大学 ペリネイタル・ ロス研究会	静岡市	2019/12/21
	第11回ペリネイタル・ロス看護者研修 プログラム：フォローアッププログラム	東アジアグリー フの集い実行委 員会	北九州市	2020/2/20
深江 久代	地区活動の展開	静岡市	静岡市	2019/6/26
	調査研究を業績に生かそう	静岡県	三島市	2019/6/21
	みんなで地域診断	中部健康福祉 センター	藤枝市	2019/8/27
	保健師の人材育成 キャリアラダー	御前崎市	御前崎市	2019/8/27
	地区活動の実践	裾野市	裾野市	2020/1/21
	保健師に求められている地区活動の実践	御前崎市	御前崎市	2020/2/27
	保健師に求められている地区活動の実践	富士市	富士市	2020/2/28

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
富安 眞理	退院時カンファレンスに関する研修会	静岡県薬剤師会	静岡市	2019/10/28
	チームステップス研修会	静岡県がんセンター	長泉町	2019/11/2
	静岡県専任教員養成講習会 在宅看護論	公益社団法人 静岡県看護協会	静岡市	2019/11/8
	退院時カンファレンスに関する研修会	静岡県薬剤師会	浜松市	2019/11/9
	退院時カンファレンスに関する研修会	静岡県薬剤師会	沼津市	2019/11/18
	腹膜透析療法における看護の視点	静岡県 PD ナースの会	富士宮市	2019/12/7
山口みのり	静岡県専任教員養成研修会 ストレスマネジメント	公益社団法人 静岡県看護協会	静岡県	2019/11/25
	今さら聞けない OJT と off-JT の活用の仕方	戸田中央医科 グループ看護局	神奈川県	2019/12/1
長澤 利枝	静岡県専任教員養成講習会 精神看護学	公益社団法人 静岡県看護協会	静岡市	2019/11～ 2020/2
村方多鶴子	精神科訪問看護基本療養費算定要件となる 研修	静岡県訪問看護 ステーション 事業協会	静岡県	2019/7/1
中川 有加	分娩が進まない時の判断・対応と フリースタイル分娩介助	日総研グループ	名古屋市	2019/8/31
	新人のための教育講座 新人助産師が知っておきたい母乳育児支援	静岡県 産婦人科医会	静岡市	2019/9/7
	分娩が進まない時の判断・対応と フリースタイル分娩介助	日総研グループ	東京都	2019/9/21
	分娩が進まない時の判断・対応と フリースタイル分娩介助	日総研グループ	大阪市	2019/10/5
	分娩が進まない時の判断・対応と フリースタイル分娩介助	日総研グループ	福岡市	2019/11/9
	乳房管理の基礎と乳房トラブルの対応	山梨県 母性衛生学会	山梨県	2020/1/11
石川 紀子	新人のための教育講座 新人助産師が知っておきたい母乳育児支援 乳房トラブルとその対応	静岡県 産婦人科医会	静岡市	2020/9/7

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	あるべき無痛分娩のために政策、市民、麻酔科医の立場で何をすればいいのか 助産師の立場から無痛分娩に関する研修 体制を考える	公益社団法人 日本麻酔科学会	神戸市	2019/5/30
	現代のお産のかたち～無痛分娩など～	公益社団法人 日本助産師会	東京都	2019/12/6
	現代のお産のかたち～無痛分娩など～	公益社団法人 日本助産師会	大阪府	2020/2/21
藤田 景子	DV/デートDVの基礎知識と対象理解	金沢大学	金沢市	2019/11/15
	周産期のDV・子ども虐待依どう取り組む か？～暴力の世代間連鎖を食い止める～	金沢大学	金沢市	2019/11/15
	性暴力被害について考えるシンポジウム パネルディスカッション 性暴力を絶対に許さない社会にするために	静岡県	三島市	2019/11/23
	性暴力被害者支援の基本と実際	静岡県	静岡市	2020/2/29
杉山 眞澄	地域保健と産業保健の連携について	静岡県東部産業 保健研究会	三島市	2019/7/19
	静岡県総合健康センター調査研究報告会	静岡県健康福祉 部健康増進課	磐田市	2019/6/27
	新任期保健師指導者研修会 (1), (2)	伊豆の国市	伊豆の国 市	2019/10/29 , 11/26
	新任地域保健職員研修会	賀茂健康福祉 センター	下田市	2020/1/24
	地域保健・医療・福祉活動研究会	富士健康福祉 センター	富士市	2020/1/29
	東部地区家庭児童相談室協議会 ブロック研修	静岡県東部家庭 児童相談室連絡 協議会	裾野市	2020/2/3
	地域保健福祉活動研究会	御殿場健康福祉 センター	御殿場市	2020/2/4
加藤 京里	全国キャラバン研修会 ジェネラルナースの技術力を高めよう	一般社団法人 日本看護技術 学会	愛知県	2020/1/25

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
糸川 紅子	治療の継続とより良い生活の両立を 目指して ～しょうがないと諦めない！ 皮膚障害に立ち向かうための実践知識～	株式会社 ホリスター	静岡市	2020/2/8
	口演 第32群 小児・若年者のがん2	第34回 日本がん看護 学会	東京都	2020/2/23
鈴木和香子	平成31年度第1回看護師業務に従事する 特別非常勤講師の研修会における講義	静岡県教育委員 会教育課	静岡市	2019/4/4
	令和元年度第3回看護師業務に従事する 特別非常勤講師の研修会における講義	静岡県教育委員 会教育課	静岡市	2020/3/25
	子どもが置かれている社会 ー子どもを擁護する看護師からの提言ー	日本看護倫理 学会 第12回 年次大会	大阪市	2019/6/9
佐藤 瑠美	令和元年度静岡市新任期保健師研修会	静岡市	静岡市	2019/6/24
	令和元年度富士管内新任期地域保健従事者 研修会	静岡県富士健康 福祉センター	富士市	2019/12/23
根岸まゆみ	専門領域看護論：災害看護	公益社団法人 静岡県看護協会	静岡市	2019/10/3
	医療の現場で求められる国際看護とは？	静岡赤十字病院	静岡市	2019/11/8
	Dyadic Illness Management in Chronic Illness (通訳・解説)	大阪府立大学 大学院看護学 研究科	大阪府	2019/12/5
	The Role of Symptoms of Chronic Illness and Self-care in Transitions (通訳・解説)	大阪府立大学 大学院看護学 研究科	大阪府	2019/12/5
	Self-care of Heart Failure in Transition from Hospital to Home (通訳・解説)	大阪府立大学 大学院看護学 研究科	大阪府	2019/12/6
近藤 美保	静岡県専任教員養成講習会	公益社団法人 静岡県看護協会	静岡市	2020/1/16
池田麻左子	子どもが置かれている社会 ー子どもを擁護する看護師からの提言ー	日本看護倫理 学会 第12回 年次大会	大阪府	2019/6/9

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	子育て講座 あっ！あぶない、子どもの周りにひそむ 危険	静岡市静岡中央 子育て支援 センター	静岡市	2019/8/26
	障害のある子どもと家族への看護について	豊橋創造大学	愛知県	2019/12/23

7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
山下 早苗	公開講座家族との別れ：きれいごとでなく 「愛する我が子と別れざるを得なかった 親の癒しとは」	静岡県立大学	静岡市	2019/10/19
	ピアサポーターにとって大事なこと	静岡対がん協会	静岡市	2020/11/23
太田 尚子	公開講座家族との別れ：きれいごとでなく 「周産期での赤ちゃんとの別れ：両親の 悲しみに寄り添うには」	静岡県立大学	静岡市	2019/10/19
太田 尚子	「天使の保護者ルカの会」主催、運営	聖路加国際大学 研究センター	東京都	2019/5/11 2019/7/13 2019/9/14 2019/11/30 2020/1/25
太田 尚子 永谷 実穂 中川 有加 高木 静 山田 貴代	ひよこママのサプリ講座第1回～3回	NPO 法人 バディプロジェクト・看護学部 共催	静岡市	2019/9/6, 10, 17
深江 久代	あたりまえの生活を目指した難病ケア システム	パーキンソン病 友の会	静岡市	2019/5/26
	公開講座家族との別れ：きれいごとでなく 「自宅での親との別れ、看取りについて 考えよう」	静岡県立大学	静岡市	2019/10/26
杉山 眞澄	乳がんについて知ろう！ やってみよう！自己チェック	静岡県立大学 剣祭実行委員会	静岡市	2019/10/25

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
濱井 妙子	みなくるオープンカレッジ 学び直し講座 「外国人住民の安心・安全な保健医療 サービスへのアクセスを考える」	静岡市地域福祉 共生センター 「みなくる」	静岡市	2020/1/24
糸川 紅子	プログラムデザイン<基礎編>	日本がん看護 学会 特別関心 グループ	東京都	2019/8/17
	プログラムデザイン<実践編>	日本がん看護 学会 特別関心 グループ	東京都	2020/1/14
下吹越直子	公開講座家族との別れ：きれいごとでなく 「自宅での親との別れ、看取りについて 考えよう」	静岡県立大学	静岡市	2019/10/26
鈴木和香子	育児支援講習会	静岡市静岡中央 子育て支援セン ター	静岡市	2019/11/14
	ファミリーサポートセンター講習会	伊豆の国市	伊豆の国 市	2019/11/15
根岸まゆみ	オープンキャンパス模擬授業 「国際化と看護」	静岡県立大学 看護学部	静岡市	2019/8/9
松 裏 豊	公開講座家族との別れ：きれいごとでなく 「家族との突然の別れ：「死」について 考える」	静岡県立大学	静岡市	2019/10/26
高木 静	赤ちゃんがやってくる	NPO 法人 place of peace	静岡市	2020/2/9、 3/8（中 止）
大和田裕美	ハッピーパパマタニティ講座	NPO 法人 place of peace	静岡市	2019/12/21

8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説

9. 新聞等メディアへの掲載・出演

氏名	掲載・出演の内容	掲載・出演のメディア名	全国/地方版	掲載・出演日
太田尚子	「赤ちゃん天国へ悲しみ共有 自助グループ・医療 母親ら語る場提供」	読売新聞 朝刊	地方版 (大阪)	2019/5/10
	流産・死産を経験した家族へのケアに関するガイドラインの紹介とケアの実際	NHK 総合 「おはよう日本」	全国版	2020/1/30
富安真理	要介護度改善評価事業	広報しずおか	地方版	2020/3/1
石川紀子	働く妊婦が知っておくべき早産リスク	日経 DUAL	Web マガジン	2019/08/20
	切迫早産をどう乗り越える？	日経 DUAL	Web マガジン	2019/8/27
濱井妙子	外国人患者にどう対応するか 25 都道府県、多言語で病院情報など提供	日経グローバル	全国版	2019/6/3
	外国人診療体制 医療通訳者の養成急務	静岡新聞浜松版	地方版	2019/7/13
	外国人の叫び “ニッポンの医療が不安”	NHK 総合 「おはよう日本」	全国版	2019/9/5
	医療通訳「手弁当」頼み 共生途上国ニッポン(4) 大野直子(共同研究者)	日本経済新聞	全国版	2019/5/5
根岸まゆみ	防災と在留外国人に関するエッセイ	静岡新聞	地方版	2020/3/23

10. その他活動

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
井上健一郎	内科認定医	2019/4/1～2020/3/31	
	呼吸器専門医	2019/4/1～2020/3/31	
	アレルギー専門医	2019/4/1～2020/3/31	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
山田 紋子	看護診断研究会 公開セミナー： 統括ファシリテーター	2019/10/26	
山下 早苗	日本看護倫理学会第12回年次大会 パネルディスカッションにおける座長	2019/6/8	
	日本看護倫理学会第12回年次大会 交流集会企画	2019/6/9	
	第50回日本看護学会学術集会 交流集会企画	2019/11/15	
	日本小児診療他職種研究会 ワークショップ座長	2020/2/1	
	日本小児診療他職種研究会 口演発表における座長	2020/2/1	
太田 尚子	第32回静岡県母性衛生学会学術集会教育講演 座長	2019/9/7	
深江 久代	難病懇話会 「当事者からのメッセージ」主催	2019/6/8	
	難病懇話会 「ALS と生きる」主催	2019/7/6	
	難病懇話会 「難病患者の災害対策」主催	2019/9/10	
	難病懇話会 「難病ボランティアあなたも やってみませんか」主催	2019/10/8	
	難病懇話会 「病気とともに生きる」主催	2019/11/12	
	難病懇話会 「神経難病とACP」主催	2019/12/3	
富安 真理	第9回日本在宅看護学会学術集会 口演座長	2019/12/7	
	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーショ ン学会総会 口演座長	2020/2/8	
永谷 幸子	リレーフォーライフ（がん患者支援事業）への 参加	2019/9/21, 22	
鈴木 琴江	第29回日本看護学教育学学術集会座長	2019/8/3	
安田 真美	健康文化交流館「来・て・こ」にて学生とともに	2019/4~8	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	に健康教育講座を企画・実施した (発展看護実習)		
村方多鶴子	令和元年度精神科訪問看護研修会（大阪）： 事例検討グループワーク及び全体発表に おけるファシリテーター、司会など	2019/4/11～13	
	看護学校等進路説明・相談会（沼津）	2019/6/29	
	令和元年度精神科訪問看護基本療養費算定 要件研修会（名古屋）： 事例検討グループワーク及び全体発表に おけるファシリテーター、司会など	2019/7/13	
	令和元年度精神科訪問看護研修会（東京）： 事例検討グループワーク及び全体発表に おけるファシリテーター、司会など	2020/1/23～25	
中川有加	2020年助産師国家試験全国統一模擬試験 問題の校閲	2019/4～2020/3	
石川紀子	東京母性衛生学会主催 チーム医療推進助産師研修 企画開催担当	2012～現在	毎年開催
藤田景子	第6回日本フォレンジック看護学会学術集会 ポスター発表 座長	2019/8/31	
濱井妙子	外国人のための無料相談会と検診会 ボランティア参加	2019/11/10	
管原清子	静岡県立大学で行われた、日本対がん協会主催 のがん患者支援イベント「リレーフォーライ フ」にチームを作って参加し、地域のがん患者 支援に関する活動に参加した。	2019/5～9	
糸川紅子	がん看護領域専門看護師・認定看護師連携会議 (中部) 運営事務局	2015/4/19～2019/1/31	
	日本がん看護学会 特別関心活動グループ がん看護専門看護師代表	2016/12/1～	
	株式会社ホリスター学術集会・セミナー座長	2020/2/8	
前野真由美	第22回外国人のための無料健康相談と検診会 を、2019年11月10日、静岡済生会総合病院に おいて開催した。その企画・運営を行う。	2019/4/1～2020/3/31	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	外国人無料検診会チャリティーコンサートを、 2019年8月31日、静岡英和女学院において開催 した。その企画・運営を行う。		
下吹越直子	健康教育(県大生とあたまとからだを鍛えよう ～脳トレと富士山体操でいつまでも若々しく～) を実施(健康文化交流館『来・て・こ』および 静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センタ ー(COC)と共催)	2019/4～2019/8	
鈴木和香子	重症心身障害児在宅ネットワーク	通年	
	心臓病の子どもを守る会 賛助員	通年	
	静岡大学教育学部との連携： 学習支援ボランティア	通年	
佐藤瑠美	静岡市新任期保健師研修会において、保健師7 名の地域診断に対してグループワークに参加 し助言を行った。	2019/6/24	
	静岡市新任期保健師研修会において、保健師4 名の地域診断に対してグループワークに参加 し助言を行った。	2019/12/19	
	静岡市新任期保健師研修会において、保健師3 名の地域診断の最終報告会に参加し助言を行 った。	2020/3/5	
田中悠美	活動の種類：静岡県訪問看護ステーション協議 会 新卒訪問看護師育成委員会会議への参加 活動内容：計4回の会議に参加し、静岡県の 新卒訪問看護師育成に関するPRビデオの企画・ 作成に携わった。	2019/7/10～ 2020/1/27	
	活動の種類：第9回日本在宅看護学会学術集会 一般演題の査読 活動内容：一般演題に応募された6演題の査読 を担当した。	2019/7/18～7/26	
	第9回日本在宅看護学会学術集会 一般演題 示説 座長	2019/12/8	8演題

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
根岸まゆみ	外国人のための無料健康相談と検診会 ボランティア参加	2019/11/10	静岡済生会 総合病院で 開催
	静岡赤十字病院災害救護訓練 ボランティア参加	2019/12/1	傷病者役
三崎健太郎	2019年度放射線教材コンテスト 一般審査員	2020/3	
倉本直樹	リレーフォーライフ（がん患者支援事業）参加	2019/9/21～22	
山田貴代	静岡県看護協会主催 看護学校等進路説明・相談会 講師	1日	
大和田裕美	第45回日本保健医療社会学会 RTD 「医療現場のフィールドワークの新たな視座 ーフィールドワーカーは何者として参加し ているのかー」 企画	2018/12～2019/5	
望月友美子	静岡市新任期保健師研修での助言	2018/6～2019/3	
岩本真弓	静岡県中部保健所管内新任期地域保健従事者 現任研修 ・第1回目：管内市町の新人期(1～3年目)24名 に対して、対象者理解に関する講話と演習を行 った。 ・第2回目：受講者の事例を用いて情報収集・ アセスメント・支援の方向性を整理し事例検討 会を実施した。	2019/10/17、 2020/2/6	
安藤継子	静岡市新任期保健師研修アドバイザー	2019/4～2020/3	

11. 公開講座等の開催状況

講義は地域への開放と共に学ぶ機会の提供を目的とし、公開可能な講義を公開した。開催時期、テーマ、講師、参加者数は、次表(VIII-11-1)の通りである。

表VIII-11-1 令和元年度特別講義実施状況

	開催日	テーマ	講師	参加人数
1	5/21 (火)	「科学」を哲学してみよう 近代自然科学の哲学的再検討	伊藤 良司	6
2	9/19 (木)	看護実践と共にある看護倫理 「プロフェッショナルとは・・・」	北村 愛子	85
3	9/19 (木)	NCD 対策に関する最近の議論	金子 佳世	84
4	9/20 (金)	看護に生かすコミュニケーションスキル	藤野 良孝	91
5	10/17 (木)	高齢者の生活背景に応じた行動変容に導く看護 ー動機づけ面接法を用いてー	瀬在 泉	84
6	10/28 (月)	公衆衛生活動としての生涯スポーツ	久保田 晃生	84
7	11/11 (月)	重症心身障害児・者の医療と生きることの意味	山倉 慎二	78
8	11/11 (月)	医療安全に関わる組織と制度	藤澤 由和	33
9	11/14 (木)	若者への性教育と避妊 ～日本・米国・モンゴルの国際間比較～	上智大学 ポートランド大学 ドルノゴビ県医科大学	27
10	11/25 (月)	AI時代の看護とフィジカルアセスメント	篠崎 恵美子	90
11	12/16 (月)	精神障害のある人の「リカバリー」を実現する支援	大島 巖	41
12	12/18 (木)	患者家族支援の最前線	遠藤 久美	66
13	12/25 (水)	医源性リスク低減戦略としてのせん妄管理 ～日常性の再構築～	古賀 雄二	5
14	1/14 (火)	脊髄小脳変性症をもつ人と家族の体験	佐久間 勇人	6

15	1/14 (火)	神経難病療養者と家族を中心とした療養生活支援	原口 道子	2
16	1/14 (火)	周産期医療の夢を語る ー臨床統計に親しみ、臨床研究を進めていこうー	松田 義雄	20

12. 高大連携事業

今年度は静岡県内の22校からの要望に対応した。ほとんどの高校が進路指導の一貫として行われており、大学での講義の様子を知るために看護学や医学領域の基礎的な知識を教授する講義への要請であった。出張講義では、高校生に対して大学での講義・演習や看護学部のイメージが持てるように、また看護学への興味・関心がわくような講義を心がけた。高校によっては、講義後に生徒にアンケートを行い、その結果を講師にフィードバックしている高校もあった。看護職に対する興味関心が高い今日において、看護を学ぶことの意味や重要性を高校生に伝え、看護学部の存在をアピールする大切な機会として今後も積極的に取り組んでゆく必要がある。概要は以下(表VI-6-2)のとおりである。

表Ⅷ-12-1 高大連携による講師派遣

	学校名	派遣教員	テーマ	開催日	学年	参加人数
1	静岡県立 藤枝西高等学校	永谷実穂	看護職になるためには	6/19	1～3	35
2	静岡県立 清水南高等学校	田中悠美	4年制大学の看護学部で学ぶ意義	7/8	2	20
3	富士市立 高等学校	山口みのり	看護師の仕事と役割	7/12	2	47
4	静岡県立 吉原高等学校	根岸まゆみ	静岡県内で求められる これからの看護師とは	7/17	2,3	30
5	静岡県立 御殿場南高等学校	下吹越直子	看護の仕事と役割 県大で学ぶ事	7/24	3	20
6	静岡県立 富士東高等学校	高木静	静岡県立大学看護学部の紹介、 出産後の母子への支援	7/26	1～3	60
7	静岡県立 富士宮東高等学校	深江久代	大学で看護学を学ぶとは どういうことか	7/29	1～3	14
8	静岡市立高等学校	松裏豊	大学で学ぶ看護学、職業としての 看護、最先端の看護とは	9/5	1～3	90
9	静岡県立 下田高等学校	近藤美保	大学で学ぶ看護とは、精神看護学 (発達障害) 授業体験	9/20	2	49
10	静岡県立 磐田西高等学校	倉本直樹	看護師になるために大学で学ぶこと	9/24	2	25
11	静岡県立 沼津城北高等学校	中川有加	命をつなぐ看護師の仕事	9/25	3	20

12	沼津市立 沼津高等学校	安藤継子	「保健師」人びとの健康と 生活を守る仕事	9/26	2	82
13	静岡県立 沼津西高等学校	望月友美子	看護を学ぶ一働く人の看護―	10/3	3	27
14	静岡県立 三島南高等学校	山田貴代	出産後の母子への支援	10/15	1,2	86
15	浜松智星高等学校	篁宗一	学部概要・心のケアとは何か	10/21	1	30
16	静岡県立 静岡城北高等学校	操華子	患者・家族の療養生活を支える看護 ：その根底に流れるもの、今後の発 展の多様性	10/23	1～3	50
17	静岡県立 清水西高等学校	菅原清子	看護の授業を体験してみよう！ ～看護ってどんな仕事？～	10/24	1～3	100
18	静岡県立 伊東高等学校	安田真美	超高齢社会と看護 ～高齢者の特徴を理解して看護を 考えよう～	10/29	2	70
19	静岡県立 富士宮西高等学校	岩本真弓	治療から予防・健康の維持増進へ	10/30	1,2	51
20	静岡県立 三島北高等学校	井上健一郎	静岡県立大学看護学部の紹介	11/6	1	20
21	静岡県立 浜名高等学校	佐藤瑠美	静岡県立大学で学べる看護	11/7	2	52
22	静岡県立 浜松湖南高等学校	鈴木和香子	看護師になること ～看護師の業務と役割 静岡県立 大学看護学部での学びの内容～	11/21	2	50

13. 県民の日大学ツアー

『夏休み県大ツアー』は、8月20日(火)13:00~16:30に草薙キャンパスで実施した。看護学部は、2階の実習室で、専門基礎領域が担当する人体模型を使い、クイズをとおして学んでもらうコーナーと、小児看護領域による、新生児人形の心音・呼吸の観察、赤ちゃん人形抱っこ体験、聴診器で人の体の音を聴いてみる等の体験を実施した。看護学部学生が作ったプレパレーション作品の展示も行い、130名の申し込みがあり、参加者の傾向は、小学校の中高学年とその親の参加が多かった。

事後アンケートでは、全体で8割を越す参加者が「満足」(中学生以上)、「楽しかった」(小学生)と答え、特に赤ちゃん人形を使った体験が好評だった。なお「小学生には人体に関するクイズは難しかった」との意見もあり、対象年齢を考慮した企画をする必要がある。